

2007年 風来坊 Country Walk

里歩き・山歩き & 山口・美祢・美祢の四季 2007

Mutsu Nakanishi Home Page より
<http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/>

2008. 1. 15.



By Mutsuo Nakanishi

2007年 風来坊 Country Walk 総覧

里歩き・山歩き & 山口・美祢・長門の四季

風来坊 Country Walk 【6】 山歩き・里歩き 2007.

■ Country Walk 里歩き 2007.

1. 神戸の春 2007 写真アルバム 須磨山上満開の梅と明石林崎漁港のいかなご漁 2007. 3. 1.
2. 写真アルバム 2007年春 桜の便り 2007. 4. 15.
 - 山梨県北杜市 の樹齢2000年 神代桜と清里から見る春の南アルプス・八ヶ岳
 - 山口県美祢 市街を流れる厚狭川の桜 美祢のYさんからメールで送っていただきました
 - 木津川上流 笠置の桜と沈下橋
3. 写真アルバム 「2007年5月 新緑の野山で」 2007. 6. 1.
 - 滋賀県日野町鎌掛 石楠花谷
 - 新緑の里山 大和川 亀の瀬・龍田山
 - 大阪府二上山周辺で
 - 神戸 北野の市街地 旧水源地のツツジ
 - 葛城山の南斜面 深紅の花を敷きつめる山ツツジ
 - 新潟県 弥彦山から見る越後平野
4. 鳴門 大塚美術館に西洋美術2000年の陶板画を訪ねる 2007. 7. 16.
パチカン システィーナ礼拝堂の天井画 完全復元 祝別式に参加
5. 信州の縄文を訪ねる旅 2007. 9. 5. & 9. 6.
 1. 不思議な人体文縄文土器が出土した伊那谷の北部 南箕輪村 久保上ノ平遺跡
 2. 縄文中期研究の先駆けとなった縄文集落 平出縄文集落遺跡
 3. 信州 長和町 黒曜石原産地遺跡 縄文の黒曜石鉱山「星糞峠」
6. 鉄のモニュメント 2007. 9. 10.
長良川にかかる現存最古の近代吊橋「美濃橋」(重要文化財) 岐阜県美濃市
7. 2007年 秋 点描 10月 11月.
 - 初秋の西播磨の山郷 一面ススキが覆いつくす 砥峰高原 2007. 10. 4.
 - 奥出雲雲南市掛合町へ 松江道の工事現場から 次々と製鉄遺跡が出土 2007. 10. 13.
 - 久しぶりに夜の船で四国 松山へ 2007. 10. 26.-28.
 - 山口県美祢市の夜明けの朝霧 2007. 11. 9.
 - 神戸でも 今 紅葉の真っ最中 2007. 11. 26.

■ 風来坊 Country Walk 山歩き 2007

1. 日本三彦山の一つ 越後 弥彦山 Walk 2007. 5. 16.
古代鉄の国「越」 弥彦山に鍛冶神の痕跡を探して
2. 紀ノ川のランドマーク 紀州富士「龍門山」に磁石石を訪ねて Walk 2007. 7. 24.

山口・美祢・長門の四季【5】 2007

1. 美祢 市街を流れる厚狭川の桜 2007. 4. 15.
美祢のYさんからメールで送っていただきました
2. 久しぶりに童謡詩人「金子みすず」の街 長門市仙崎を訪ねました 2007. 6. 29.
3. 写真アルバム 防府 阿弥陀寺のあじさい 2007. 6. 12.
4. 写真アルバム 山口 県油谷半島 棚田の夕景 東後田の6月 2007. 7. 11.
美祢市のYさんからの写真メール

2007年 風来坊 Country Walk

里歩き・山歩き & 山口・美祢・長門の四季

風来坊 Country Walk 【6】 山歩き・里歩き 2007 もくじ

Country Walk 里歩き 2007

1. 神戸の春 2007 写真アルバム 須磨山上満開の梅と明石林崎漁港のいかなご漁 2007. 3.
2. 写真アルバム 2007年春 櫻の便り 2007. 4. 15.
 - 山梨県北杜市 の樹齢2000年 神代桜と清里から見る春の南アルプス・ハヶ岳
 - 山口県美祢 市街を流れる厚狭川の桜 美祢のYさんからメールで送っていただきました
 - 木津川上流 笠置の桜と沈下橋
3. 写真アルバム 「2007年5月 新緑の野山で」 2007. 6. 1.
 - 滋賀県日野町鎌掛 石楠花谷
 - 新緑の里山 大和川 亀の瀬・龍田山
 - 大阪府二上山周辺で
 - 神戸 北野の市街地 旧水源地のツツジ
 - 葛城山の南斜面 深紅の花を敷きつめる山ツツジ
 - 新潟県 弥彦山から見る越後平野
4. 鳴門 大塚美術館に西洋美術2000年の陶板画を訪ねる 2007. 7. 16.
パチカン システィーナ礼拝堂の天井画 完全復元 祝別式に参加
5. 信州の縄文を訪ねる旅 2007. 9. 5. & 9. 6.
 1. 不思議な人体文縄文土器が出土した伊那谷の北部 南箕輪村 久保上ノ平遺跡
 2. 縄文中期研究の先駆けとなった縄文集落 平出縄文集落遺跡
 3. 信州 長和町 黒曜石原産地遺跡 縄文の黒曜石鉱山「星糞峠」
6. 鉄のモニュメント 2007. 9. 10.
長良川にかかる現存最古の近代吊橋 「美濃橋」(重要文化財) 岐阜県美濃市
7. 2007年 秋 点描 10月 11月.
 - 初秋の西播磨の山郷 一面ススキが覆いつくす 砥峰高原 2007. 10. 4.
 - 奥出雲雲南市掛合町へ 松江道の工事現場から 次々と製鉄遺跡が出土 2007. 10. 13.
 - 久しぶりに夜の船で四国 松山へ 2007. 10. 26. -28.
 - 山口県美祢市の夜明けの朝霧 2007. 11. 9.
 - 神戸でも 今 紅葉の真っ最中 2007. 11. 26.

風来坊 Country Walk 山歩き 2007

1. 日本三彦山の一つ 越後 弥彦山 Walk
古代鉄の国「越」 弥彦山に鍛冶神の痕跡を探して 2007. 5. 16.
2. 紀ノ川のランドマーク 紀州富士「龍門山」に磁石を訪ねて Walk 2007. 7. 24.

須磨旗振山山上 満開の桜 ・ 明石林崎漁港のいかなご漁



須磨旗振山山上に咲く菜の花と梅林

いかなご漁に群がる明石海峡

3月になって 神戸ではいかなご漁もはじまり、春の風物詩 「いかなごの釘煮」の話がもっばらの話題になっています。

明石海峡にはいかなご漁の船団がむらがっていました。

今年はいかなごが大阪湾にあまり広がらず 不漁だとか・・・

店頭にならぶいかなごの争奪戦がはじまったとか

神戸にいない人にとっては 「なにが・・・」でしょうが、いかなごの釜あげ「新子」の酢醤油 と いかなごの釘煮の独特のにおいとその味

待ちかねた春が来たのを感じる瞬間です

須磨の山の上に登ると今年は暖かく明石海峡を見下ろす須磨旗振山山上の梅林も満開でほのかな梅の香りが漂よわせ、須磨一の谷を見下ろす谷の上の菜の花も真っ黄色の花をつけていました。

春到来の神戸です



2007.3.1. 神戸にて

神戸の春をつけるいかなご漁がはじまりました 明石林崎漁港で 2007.3.1.



明石海峡に群がるいかなご漁の船



2隻で網を引くいかなご漁



いかなご漁は午前11時まで 漁場と港をピストン輸送 水揚げされたいかなごは 明石魚の標に運ばれ すぐ店頭に並ぶ



28日に解禁されたいかなご 例年よりも大きくもう釘煮がつくれる3センチを超えている これも暖冬の影響か 神戸はこれで春の到来である

撰播国境 須磨旗振山 山上の梅林へ 西六甲縦走路
 -高倉山-鉄揚山から旗振山へ- 2007.2.27.



高倉山から 鉄揚山越しに旗振山 そして右奥明石海峡遠望



六甲全山縦走路の西端 須磨 旗振山



旗振山 南西斜面に広がる梅林 ちょうどほぼ満開 2007.2.27.



旗振山 旗振山25ノブ 須磨自然センター 2007.2.27.



旗振山 旗振山25ノブ 須磨自然センター 2007.2.27.



旗振山 旗振山25ノブ 須磨自然センター 2007.2.27.



旗振山 旗振山25ノブ 須磨自然センター 2007.2.27.



旗振山 旗振山25ノブ 須磨自然センター 2007.2.27.



旗振山 旗振山25ノブ 須磨自然センター 2007.2.27.

4月 あっという間に桜が咲いて いろんところの桜をみせていただき、ホームページのトップにも掲載
そんな桜の便り ほかにも 思いもかけず 気に入った写真もとれました。

きっちり整理できませんでしたので それらの写真をPDF fileにあつめて pdf file 写真アルバムにしました。

1. 山梨県北杜市武川 樹齢2000年の「神代桜」の姿に感激

南アルプス・ハケ岳の山並み 春の姿が取れました



山梨県北杜市武川 実相寺境内 樹齢2000年 「神代桜」 2007.4.1.

4月 あっという間に桜が咲き出して、満開の桜をあちこちで、見ることができました。

特に春休みの孫たちとハケ岳山麓の清里に行ったのですが、その折に南アルプス鳳凰三山の山麓北杜市武川で見た樹齢2000年の「神代桜」には感激でした。 まだ、雪をいただく鳳凰三山・甲斐駒ヶ岳をバックにすごい巨樹の柱から新しい桜満開の幹を四方に広げていました。

以前はもっと背の高い桜だったようですが、少し小さくなったと聞きました。 遠くから見たときには数多くのつかえ棒に支えられ、京都円山公園の枝垂れ桜が頭をよぎり、「何かいたいたいなあ・・・」と思ったのですが、近づくにつれ、そんな気は吹っ飛んでしまいました。



どっしりと大地に根を下ろし、何度も何度も本体の周りから幹を伸ばし、胴回り15mを超える樹の太さとなって、本体をがっしり守り支え、ごつごつとした荒々しい樹の表面がその2000年の歴史をしっかりと伝え、そして 今花を咲かしている新しい枝をがっしり支え、見上げている。本当にたくましい。大地から空へ伸びようと力強い生命力をむんむんと発散。

オーラを感じるとはこのことか?と。すごいエネルギーをもらいました。

福島県三春の「滝桜」を見たときに感じた爽快感。 久しぶりでした。

2000年か・・・ わたしも まだ これからだと。

【 写真アルバム 山梨県北杜市武川 樹齢2000年の神代桜と清里の春 】



白州より 甲斐駒ヶ岳 2007.4.1.



南アルプス鳳凰三山を背に桜の里 山梨県北杜市武川 2007.4.1.



水仙と桜満開の山梨県北杜市武川 実相寺境内 2007.4.1.



樹齢2000年といわれる山梨県北杜市武川の山高「神代桜」 2007.4.1.



山梨県北杜市武川の山高「神代桜」 2007.4.1.



樹齢2000年といわれる山梨県北杜市武川の山高「神代桜」 2007.4.1.



八ヶ岳連峰を背に清里 清泉寮 2007.4.1.



八ヶ岳連峰を背に清里 清泉寮 2007.4.1.



南アルプス 鳳凰三山 北岳 甲斐駒が岳



秋父の庄峰 金峰山 八ヶ岳連峰
 漬里 漬泉寮前の牧場から周囲の山々を望む 2007.4.1.



南アルプス 甲斐駒ヶ岳・鳳凰三山を前面にのぞむ縄文黒漆遺跡 井戸及遺跡 長野県富士見町 2017.4.1.

2. 山口県美祿市の街を流れる厚狭川堤の桜

写真アルバム 山口県美祿 厚狭川堤の桜

7年過ぎた山口県美祿の街中をを流れる厚狭川土手の桜の写真を美祿のYさんが会社の便りと共に送ってくれました。

昔 美祿で仕事したときのことや、夜桜見物で歩いたことなどほんとうに懐かしい。鳥が桜の花芽をすっかり食べて、花が咲かないといったことも聞きましたが、満開の桜健在ににっこりです。おりしも 運営の大半を民間企業に委託する全国初の刑務所「美祿社会復帰促進センター」が1日、開所したとTVが伝え、美祿の街に新しい顔が加わり、さらに活気ができれば・・・と。



山口県美祿市厚狭川の桜



山口県美祿市厚狭川堤の桜 古賀橋周辺



山口県美祿市厚狭川堤の桜 古賀橋周辺

山口県美祿 厚狭川の桜 美祿のYさんから 懐かしい写真を送ってもらいました 2007.4.5.

3. 木津川上流 笠置の桜と笠置の山間の集落をつなぐ沈下橋

写真アルバム 木津川上流 笠置の桜と沈下橋



京都・奈良の境を流れ淀川に合流する大河 木津川 歴史の笠置にかかる沈下橋と桜 2007. 4. 9.

鈴鹿の山並みから流れ出て 西にまっすぐ奈良と山城の境を流れ下り、数々の歴史に登場し、淀で淀川に合流する大河「木津川」。この川を調べていて 山間の中流 笠置に 大水が出たときに川の中に潜没する「沈下橋」が2つもかかっていると知って、息子にもらった青春18 きっぷを使って出かけました。あまり知らなかったのですが、笠置はすばらしい桜の名所。

狭い溪谷に沿って 関西線の鉄路が伸び、その鉄路に沿って溪谷を見ながら歩ける桜満開のハイキングコース。

そんな溪谷の中 川を挟んで 向かい合う小さな集落をつなぐ一筋の沈下橋。ずっと四万十川の沈下橋にあこがれて、イメージふくらませていたのですが、 ひとつこひとりいない山里の広い川幅の兩岸を欄干のない一筋の長い橋がつなぎ、あぶなかしそうに一台の車が渡ってゆく。桜のハイキングコースとあいまって 映画のロケをみているような光景でした。関西お勧めのハイキングコース

僕は良く知らなかったのですが、車窓から眺める景色もすばらしく、この笠置から伊賀上野・関にゆく 関西線のコースは関西屈指の青春18 きっぷの人気コースとか…

【写真アルバム 木津川上流 笠置の桜と沈下橋】



笠置と山城の中間駅西線に沿って流れる木津川に源流の桜と沈下橋を散る。 2007. 4. 9.



伊賀線の関西線西線駅 2007. 4. 9.



笠置-大河原駅 桜満開集落と市街集落をつなぐ沈下橋。 2007. 4. 9.



笠置村東側バスが走る桜満開集落と市街集落をつなぐ沈下橋。 2007. 4. 9.



源山城村 大河原駅のすぐしに流れる沈下橋「沈下橋」 2007. 4. 9.



大河川の流砂を走る関西線西線の鉄路を歩くハイキングコース。 笠置-大河原駅。 2007. 4. 9.



大河川の流砂を走る関西線西線の鉄路を歩くハイキングコース。 笠置-大河原駅。 2007. 4. 9.



木津川に注ぐ新目屋谷の鉄路。 2007. 4. 9.



古い歴史の笠置山から 木津川の流れ 下流側 2007.4.9

春の草花が咲く笠置山麓 2007.4.9

春の風車 笠置山麓で 2007.4.9



古い歴史の笠置山から 流れ下る木津川の流れ 上流側 2007.4.9



笠置 大津風車 笠置山麓と津辺橋 2007.4.9



関西線笠置駅 湯間の桜 2007.4.9



笠置の街と対岸を走る国道を結ぶ笠置大橋 2007.4.9

4. 神戸 須磨 妙法寺川公園の桜



4月8日 神戸須磨区 妙法寺川公園で 2007.4.8.

住んでいる神戸 須磨でも 素晴らしい桜が咲き、4月8日 妙法寺川公園では 桜の下で酒宴をする人たちが あふれかえっていました。



八瀬からみた比叡山・蛇が池の峰

1. 滋賀県日野町鎌掛 石楠花谷
2. 新緑の里山 大和川 亀の瀬・龍田山
3. 大阪府二上山周辺で
4. 神戸 北野の市街地 旧水源のツツジ
5. 葛城山の南斜面 深紅の花を敷きつめる山ツツジ
6. 湯島弥彦山から見る越後平野

【 1. 滋賀県日野町鎌掛 石楠花谷 2007.4.28. 】

桜の花が咲き終わって 山はツツジと石楠花の季節

どちらも ほんの1週間 その時期を逃がすと まったく期待はずれとなる

今年は 滋賀鎌掛の石楠花は銅だろうか…と

今年は花の少ない裏の年 でも鎌掛谷の群落の崖には 石楠花が清楚な花を一杯つけていました



天然記念物 鎌掛谷のホンシャクナグの群落地 滋賀県 日野市 鎌掛 2007.4.28.



天然記念物 鎌掛谷のホンシャクナグの群落地 滋賀県 日野市 鎌掛 2007.4.28.

花の少ない裏の年 でも鎌掛谷の群落には石楠花が清楚な花をつけていました

【 2. 河内と大和の境 大和川 亀の瀬 2007.4.20. 】

河内と大和を隔てて南北に連なる金剛山地・生駒山地

丁度この山地の切れ目を大和川が大和から河内へ流れ下る

狭い溪谷を急流が流れ下る 古代からの交通の要衝であり、今も難所である

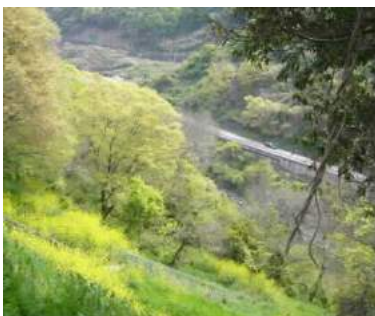
この亀が瀬の溪谷を挟み南に二上山 北に龍田山 どちらにも山越えの古道が通り、

歌に読まれた「龍田川」はこの溪谷から大和側の川筋である

この一体は古代渡来の製鉄集団が製鉄・鍛冶を営んだ製鉄地帯でもある

大阪湾から大和への古代のルートを求めて訪れた亀の瀬は新緑の中に花が咲き、

素晴らしい春の里山の風景がひろがっていました



亀の瀬 急流、流石に冷たくて肌寒、腰背録が光る 2007.4.20.



生駒谷から龍田山・笠置峠への道 上級 竜田川・生駒山地 龍田山・龍田川 龍田山・龍田川 龍田山・龍田川 2007.4.20.



金剛・葛城山地と生駒山地の切れ目から流れ下る大和川 急流亀の瀬 2007.4.20.

【 3. 大阪府二上山 周辺で 2007.4.20 】

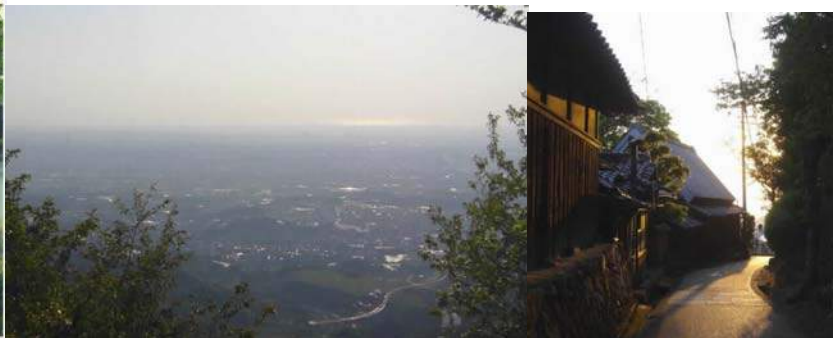
大津皇子が眠る二上山

大和川・亀の瀬を挟んで龍田山と対峙し、河内から大和への山越の険しい道が通る

縄文人の道具の原石サヌカイトはこの北麓田尻峠周辺で産し、

石器時代から この「二上山サヌカイト」を求めての道があった

現代はここを近鉄南大阪線と国道165号線が越え、山の南側を竹之内街道 南阪奈道路が越えてゆく



二上山登山口 二上山 上の池 雌岳頂上より見た夕日に輝く大阪湾その麓 竹之内街道の夕暮れ

【 4. 神戸 北野の市街地 旧水源地のツツジ 2007.5.4 】

五月の連休 神戸も大賑わい 生田神社への若い人の群れ 北野の異人館通り也大賑わい

神戸の人にはポピュラーなのですが、北野の異人館通りの端に隣接した旧水源地

南斜面いっぱい 今年もつつじの花が 咲きそろいました

神戸の町を見下ろしながらの静かな森の散歩道 異人館通りのすぐ上をを布引に続いています

静かな連休の午後の散策 昔の北野の異人館の屋根 神戸北野の風景を探して歩きました .



神戸 北野 異人館の上 布引への散歩道で 2007.5.4

神戸 北野 異人館の上 布引への散歩道で 2007.5.4



神戸北野 旧水源地のつつじ 2007.5.4.

【 5. 葛城山の南斜面 深紅の花を敷きつめる山つつじ 2007.5.23. 】

葛城山南面を深紅に染める山つつじが満開と伝えている

もう今日ぐらいが最後と5.23. 葛城山へ登りました

九州九重山のミヤマキリシマも見事ですが、真っ赤に山肌を敷きつめる葛城山もすごい

もう 今 行かないと行けなくなる なんか 強迫観念にかられて・・・

ロープウェイもあるので、やっぱり山を見ると歩きたくなる

もう 足たくたでしたが、南にそびえる金剛山へ向かって 水越峠に下りました





葛城山の南斜面 深紅の花を敷きつめる山ツツジ 2007. 5. 23.

【 6. 新潟県弥彦山から見る越後平野 2007.5.15 & 5.16. 】

「越後はずつし 親不知 はるか波間に 日が沈む ひゆるる ひゆるる 寒い風が吹くだけ…… 」

倍賞千恵子「冬の旅」のメロディーが頭にこびりついてはなれない

古代の大製鉄コンビナート 柏崎軽井川製鉄遺跡を見に行つて 越後 弥彦山にいつてきました

山は新緑 田圃には水が入つて 晴れた空に映えて 田植えの季節

田圃に水が入るとまもなく 梅雨の季節です



新潟県弥彦山から越後平野 2007.5.16.



砂鉄が堆積する新潟県柏崎の海岸 2007. 5. 15.

新潟県弥彦山から見る越後平野 & 砂鉄が堆積する柏崎海岸 2007. 5. 15. & 16.

シスチーナ礼拝堂の天井画 完全復元 祝別式に参加 2007. 7. 16.

鳴門 大塚美術館に西洋美術 2000 年の陶板画を訪ねる 2007. 7. 16.

パチカン システィーナ礼拝堂 天井画 祝別式・グイノ神父 解説講座に参加



大塚美術館にローマ パチカンのシスティーナ礼拝堂のミケランジェロの壁画「最後の審判」ならびに〔天井画〕が完全復元され、その祝別式があると聞いて ツアーに参加。

一日大塚美術館で過ごして帰りました。

神戸から 明石大橋を渡って、高速バスで約 40 分。大鳴門橋を渡ったところが、大塚美術館。

一度行きたかったのですが、陶板画ということで、ちょっと後回しにしていたのですが、行ってビックリ。素晴らしい美術館でした。お勧めの美術館です。所蔵作品は西洋絵画の有名な絵ばかり。その数 数千を超える絵が、陶板画に原寸で完全復元され、展示されています。陶板画といっても、原寸・原画が完全復元されているので 現物を見ているのと本当に遜色なし。しかも、ガラスケースも無く 絵のすぐ近くまで近づける。好きな絵の前で写真撮るのも OK。

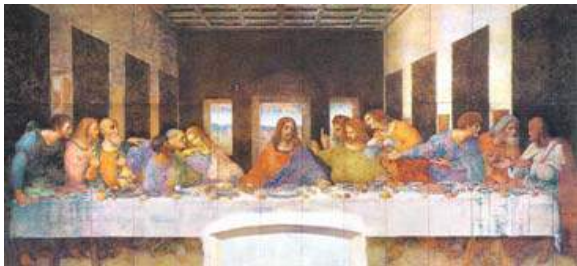


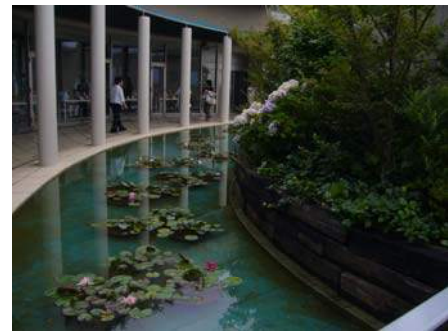
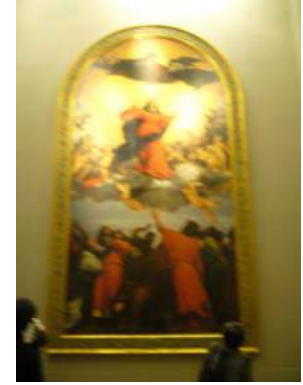
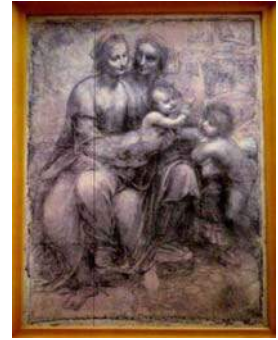
しかめっ面して せきたてながら見なくていいし、「素人が楽しめる」がコンセプトと聞きましたが、 解りやすい。教科書で習った絵 海外ツアーで見た絵 展覧会で見た絵など 次々と知っている絵があるので、うれしくなる。オーディオの解説耳につけ聞いていたら 間に合わないので、自分の好きな絵を探して、自分の感覚がたよりで歩く。これも、忘れかけていた絵の鑑賞法。忘れかかっていた絵にも沢山出合え、もう一度観たかった好きな絵にも 思いもかけず出合えました。

一日 ゆっくり 自分の好きな絵を探しに、また 出かけようと思っています。



大塚美術館所蔵 陶板画に完全復元された西洋絵画の数々 ほんの一例です





これらの絵画復元に使われた標準の陶板は 1m.*3m の大きな陶板。焼結収縮の大きな陶板でこの大きな陶板を歪み・割れなしで焼く技術はたいしたもののである。また、写真製版と色解析が進んだとはいえ、ほぼ原画と同じ色の再現にもビックリ。厳しい材料の制約と操炉管理のなせる職人技・もの作りの業に驚嘆する。

ミケランジェロ シスチーナ礼拝堂の「最後の審判」と天井画が大塚美術館に陶板画で復元



ローマ バチカン シスチーナ礼拝堂内部

大塚美術館に陶板画で復元されたシスチーナ礼拝堂壁画と天井画

ミケランジェロ シスチーナ礼拝堂の「最後の審判」

「最後の審判」には 400 名以上の人物が描かれている。中央では再臨したイエス・キリストが死者に裁きを下している。向かって左側には天国へと昇天していく人々が、描かれ、右側には地獄へと落ちていく人々が描写されている。右下の水面に浮かんだ舟の上で、亡者に向かって櫂を振りかざしているのは冥府の渡し守カロンであり、この舟に乗せられた死者は、アケロン川を渡って地獄の各階層へと振り分けられていくという。

ミケランジェロはこの地獄風景を描くのに、ダンテの『神曲』地獄篇のイメージを借りた。

群像に裸体が多く、儀典長からこの点を非難され、「着衣をさせよ」という勧告が出されたこともある。

ミケランジェロはこれを怒んで、地獄に自分の芸術を理解しなかった儀典長を配したというエピソードもある。

また、キリストの右下には自身の生皮を持つ人物が描かれているが、この生皮はミケランジェロの自画像とされる

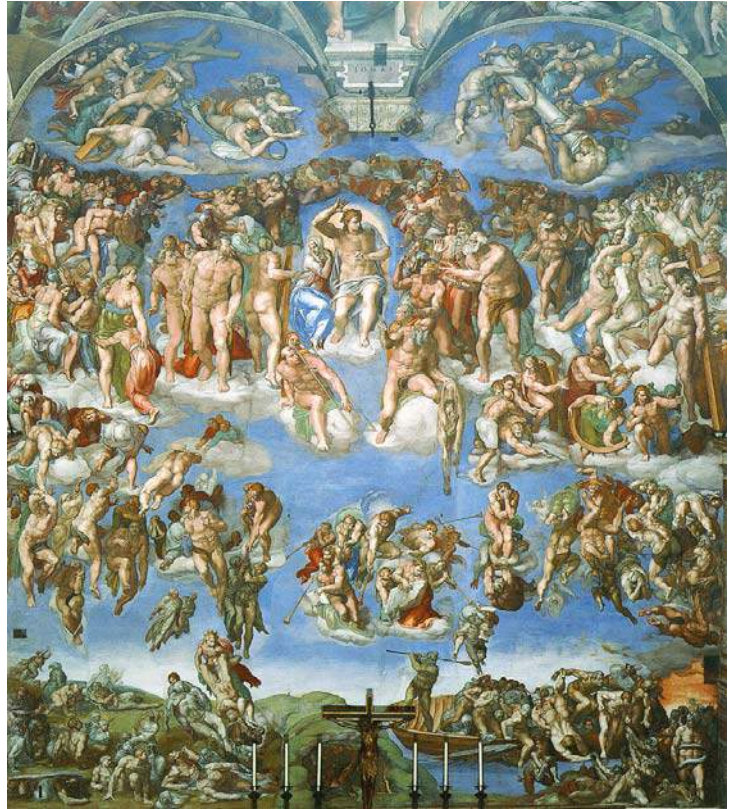


ミケランジェロ システィーナ礼拝堂の「最後の審判」 (Giudizio Universale) 1536-1541年] 解説

Salvastyle.com | http://www.salvastyle.com/menu_renaissance/michelangelo_universale.html より

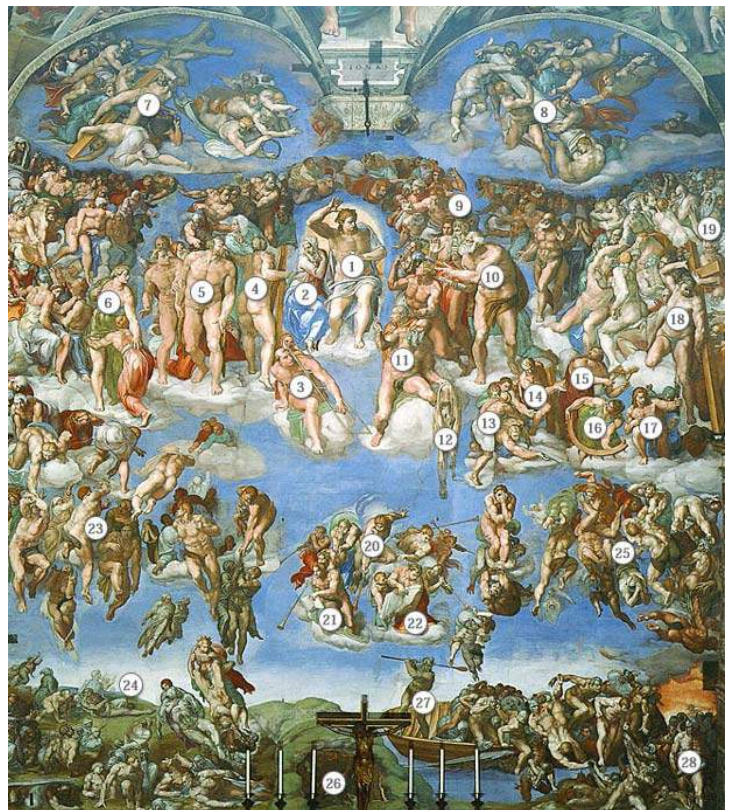
システィーナ礼拝堂天井画完成から 24 年後、教皇ユリウス 2 世の後に即位した教皇クレメンズ 7 世がシスティーナ礼拝堂正面壁に壁画を描く構想を最初に練り、その意思を引き継いだ教皇パウルス 3 世がミケランジェロに制作を依頼し制作された大作『最後の審判』。

主題はその名の示すようキリストが再臨して人類を裁く教義「最後の審判」であるが、その解釈と表現には新旧の聖書のほか、ダンテの神曲やトンマソ・ダ・チェラーノの『怒りの日』、カトリック改革派の思想、マルティン・ルターの異教的思想など、さまざまなものが影響していると推測されている。その為、制作当初からスキャンダラスとして批判を受け、異教的であるという理由から画家ダニエレ・ダ・ヴォルテッラに依頼し裸体で描かれていた人物に衣服が描き加えられたのを始め、最終的には 44 箇所に加筆がおこなわれた。



最後の晩餐 登場人物配置図

1. 審判者イエス
2. 聖母マリア
3. 聖ラウレンティウス (格子型の鉄灸を手にする)
4. 聖アンデレ (X 形の十字架を手にする)
5. 洗礼者聖ヨハネ (獣の衣をまとう) またはアダム
6. 娘を伴う母親 (信仰の象徴)
7. 受難具を運ぶ天使 (左)
8. 受難具を運ぶ天使 (右)
9. 聖パウロ (赤い衣をまとう) または洗礼者聖ヨハネ
10. 聖ペトロ (天国の鍵を手にする)
11. 聖バルトロマイ (自身の生皮を手にする)
12. ミケランジェロの自画像 (聖バルトロマイの生皮)
13. 聖シモン (鋤を手にする)
14. ディスマ (イエスと共に磔刑に処され改心した受刑者)
15. 聖ピアジョ (櫛を手にする)
16. アレクサンドリアの聖カタリナ (車輪を手にする)
17. 聖セバステアヌス (矢を手にする)
18. キレネのシモン (十字架を手にする)
19. 預言者モーセ (巻いた白髭の老人)
20. 最後の審判を告げるらっぱを吹く天使
21. 善行の書を手にする天使
22. 悪行の書を手にする天使
23. 祝福され昇天してゆく者たち



24. 復活する死者たち
25. 地獄へと落とされる罪深き人間たち
26. 悪魔の洞窟
27. 死者の魂を地獄へと渡すカロン
28. 死者の魂を裁判する地獄の王ミノス

【裁断者キリストと聖母マリア】



裁断者（審判者）キリストと聖母マリア。キリストはこの世の終末に現れる救世主であると考えられると同時に、世界の終焉に罪深き人類を裁断する者としても解釈されるが、神聖を示す右手を罪人へ、不浄を示す左手を祝福する者たちへと、通常概念から左右逆に手をかざして描いた。



【自身の生皮を持つ聖バルトロマイ】



生きながらに皮を剥がれ殉教した聖バルトロマイは、自身の皮をその手に持つ。聖バルトロマイの顔はピエトロ・アレティーノの姿で、剥がされた皮に浮かぶ顔はミケランジェロの自虐的な自画像であるとされている。



【天国の鍵を手にする聖ペトロ】



主イエスより渡された天国の鍵を手にする十二弟子の筆頭聖ペトロ。登場人物の類稀な運動性を示した肉体表現は、後に台頭してゆくマニエリスムの画家に多大な影響を与えた。

【洗礼者聖ヨハネら諸聖人たち】



獣の衣を纏う洗礼者聖ヨハネを始めとする諸聖人たち。当時の文献や資料によって通例的にこの人物を洗礼者聖ヨハネとしているが、最初の人間アダムと解釈する説も唱えられている。

【受難具を運ぶ天使たち】



受難具を運ぶ天使たち。受難具とは裁断者キリストがエルサレムで捕らえられ、架けられた十字架や受難の象徴である石柱を指し、本作では最上部の二区分に、天使がそれぞれの受難具を運ぶ姿が描かれている。



【最後の審判を告げるらっぱを吹く天使】



最後の審判を告げるらっぱを吹く天使たち。またらっぱを吹く天使たちの中では、人間の善悪のおこないが記された善行の書と悪行の書を、審判される者へ見せる天使が描かれている。



【最後の審判によって復活する死者たち】



最後の審判によって復活する死者。ミケランジェロはこの場面をダンテの神曲の一節「死者は死に、生者は生きていくようだ」を引用し表現したと云われている。



【祝福され昇天してゆく者たち】



祝福され昇天してゆく者たち。美術家列伝の著者[ヴァザーリ](#)はこの場面について「父なる神の一位であり審判者でもあるイエスによって祝福された者たちは、歓喜のうちに天国へと昇天しているようだ」と記している。



【地獄へと落とされる罪深き人間たち】



地獄へと落とされる罪深き人間たち。天使により天国へと昇華する人々も描かれれば、深き罪ゆえ地獄に落とされる人間と、それを抗う人間もミケランジェロは克明に描き上げた。



【死者の魂を地獄へと渡すカロン】



死者の魂を地獄へと渡すカロン。ダンテの神曲にも登場するカロンはギリシア神話に登場する神々の準ずる存在で、冥府の河ステュクス（憎悪を意味する）の、あるいはその支流アケロン（悲嘆を意味する）の渡し守とされている。



【死者の魂の裁判者ミノス王】

地獄の罪人たちと、死者の魂を裁判する地獄の王ミノス。ミノスはギリシア神話に登場するクレタの王で、最古の海軍を組織し海賊を追い払いエーゲ海域を制覇、法を制定し善政をおこなった後に死去するが、弟ラ



ダマンテュス、敬虔で知られたアイアコスとともに冥府の裁判官となったとされる。また死者の魂を裁判する者ミノス王を、壁画制作について教皇に苦言を述べていた（教皇庁）儀典長ビアージョ・ダ・チェゼーナの顔に似せ描いた。



7月16日 大塚美術館に完全復元された陶板画「最後の審判」・「天井画」の祝別式に参加のツアーに参加

シスチーナ礼拝堂 天井画の解説



1508年、教皇ユリウス2世の注文で着工され、4年もの歳月をかけ完成された世界最大の壁画『システィーナ礼拝堂天井画』。主題は旧約聖書の冒頭書に50章から書かれ、神による世界と人間の創造から、樂園追放、バベルの塔、ノアの箱舟などの神話的伝承と、アブラハム・イサク・ヤコブ・ヨセフらの族長伝承などから成る《創世記》で、壮大な図解が意味する解釈は諸説あるが、明確な体系的・教義的な秩序の中に組み込んだ宇宙論的な展開を為すとされている。

また1980年から10年かけて全面的に洗浄・修復作業がおこなわれ、現在は制作当時の鮮やかな色彩が蘇っている。

創世記が記書される旧約聖書とは、ユダヤ教の正典を自己の正典の一部としたキリスト教における名称で、後に福音書や使徒書簡を神との新しい契約（新約）の書としてまとめたのに対し、当初から保持していたユダヤ教の文書をキリストの出現を預言した古い契約の書とみなしたことから旧約の名が付けられた。律法・預言・諸書の3部39巻からなる。

天井画中央部分の創世記は9場面から描かれている。

最も有名な部位のひとつ『アダム』の創造。



アダム』の創造



主題は旧約聖書の創世記で、このアダムの創造はその中の一場面を描いたもの。

創世記第一章では、天地万物の創造主、神が7日間で全てを創造し、その6日目に創造されたのが人間（アダム）とされている。万物の創造主、神は自分の形に似た人間を創造した際、五つの祝福を人間に与えたとされている。

ここでは最初の人アダムに生命を吹き込み、地上の支配者という役割を与える場面が描かれ、中央の創造主とアダムの指先が触れる部分は、神の意志と生命の伝達を表すとされている。天地万物の神によって創造された最初の人、アダム。創世記では、この後、妻のイブとともに禁断の木の実を食べて原罪を犯し、二人ともエデンの園から追放されたとされている



【万物の創造主】



【創造された最初の人アダム】



【天体と植物の創造】



【大洪水】



大塚美術館に陶板画で復元されたシスチーナ礼拝堂内部の壁画

縄文人の故郷 信州

信州の縄文人は素晴らしい景観の山裾に自分たちの村をつくり、
 そこには 縄文の交易品「信州・霧が峰の黒曜石」そして 謎の「人体文・人面土器」がありました
 信州 伊那谷・塩尻に縄文の「人体文土器・人面土器」を訪ね
 また、星箕峠に黒曜石原産地遺跡を訪ねました



- 天竜川を眼下に見下ろし、南アルプス千丈・北岳を遠望する段丘の村で
 ほかにはない不思議な人体文の装飾が施された縄文土器が出た



伊那谷の北部 南箕輪村 久保上ノ平遺跡

- 静かな山斜面に広がる雑木林の落ち葉のなかに 今もキラキラと輝く黒曜石



信州 長和町 黒曜石原産地遺跡 縄文の黒曜石鉱山「星箕峠」

- 伊那谷や木曾谷を遡り、松本平・諏訪へと抜ける信州の十字路 塩尻
 北アルプスの連峰や広大な松本平を展望できる山裾で 大古から湧き出す清らかな泉と
 信州独特の雀踊りを軒先にけた民家群が出迎えてくれる。
 この地に 大量の土器・土偶片と共に 日本で初めて その姿を明らかにした縄文の集落がある。



縄文中期研究の先駆けとなった縄文集落 平出縄文集落遺跡

八ヶ岳山麓を中心とした長野県から山梨県の中中部地方の高地は東北と並ぶ縄文人の故郷。

そこには 新潟の火炎土器や青森亀ヶ岡の縄文土器と並ぶ素晴らしいデザインの動物や人体文・人面の装飾をつけた縄文土器がある
また、八ヶ岳の北西直ぐ隣に位置する信州 霧が峰は縄文の主要交易品のひとつ「黒曜石」の原産地。

「縄文人達は素晴らしい大自然のパノラマが展開する山麓に自分たちの村を営み、縄文の文化を育んだ」が わたしの縄文観。
中部高地の縄文人たちもきっとそんな素晴らしい大自然の中で 特徴ある縄文土器や黒曜石原石の採掘に始まる精巧な道具を行っていたに違いない。

昨年訪れた信州黒曜石原産地遺跡の一つ 縄文の黒曜石鉱山「星糞峠」では 「なだらかな山の斜面に広がる静かな林の中で今もキラキラ 黒曜石が輝き、それが「星糞峠」のなの由来になっている」と話したのがきっかけで、仲間が調べ、計画してくれた「信州 縄文の旅」。

9月5・6日の二日間 縄文の仲間約30名と信州の縄文土器 そして 星糞峠の黒曜石を訪ねるバスツアーに行ってきました。
台風が日本列島を襲う前日 悪天候を心配しましたが、何とか2日も曇り・霧雨程度で素晴らしい自然の中に住む縄文人の足跡をたどる事ができました。 また、「星糞峠」で黒曜石が 現在も 機能材料素材「黒曜石パーライト」に加工され現代に生きていることも知りました。

「やっぱり、縄文人は 大自然が広がる素晴らしい場所に住んでいた」と思える旅で、
場所を選定してくれた仲間本当に Thank you です。

「信州縄文の旅」のWalk を 下記 3つの PDF file に取りまとめました。

信州の縄文を訪ねる旅 2007.9.5. & 9.6.

1. 不思議な人体文有孔罎付き土器が出土した久保上ノ平遺跡

伊那谷の北部 南箕輪村

1. 不思議な顔をした「人体文付き有孔罎付き土器」
2. 縄文の集落跡遺構

住居跡分布・祭祀の特殊遺構・配石遺構 と 出土した土器片・土偶片

2. 縄文中期研究の先駆けとなった縄文集落 平出縄文集落遺跡

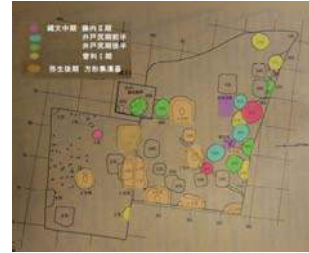
- 中・南信州地域独特の雀踊りの飾りか軒先につく本棟造り民家が並ぶ平出集落
- 縄文中期の集落遺跡 平出遺跡 長野県 塩尻市平出
平出遺跡の縄文集落は広場を弧状に取り囲み、広場には立石が立っていた
縄文中期の集落の様子を明らかにし、数々の謎を浮き彫りにした
- 縄文中期の集落遺跡 平出遺跡 出土の土器・埋甕・土偶

3. 信州 長和町 黒曜石原産地遺跡 縄文の黒曜石鉱山「星糞峠」

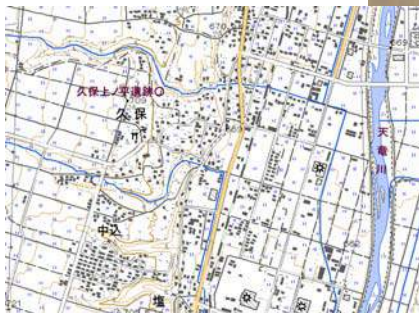
1. 縄文の黒曜石原産地遺跡 信州 鷹山「星糞峠」を訪ねる【I】 2006.10.7.
2. 縄文の黒曜石原産地遺跡 信州 鷹山「星糞峠」を訪ねる【II】 2007.9.6.
縄文の黒曜石鉱山 第一号採掘跡 & 明治大学「黒曜石研究センター」
3. 黒曜石の現在技術「黒曜石パーライト」 黒曜石が現在の機能材料として使われている

奇怪な人体文様をつけた有孔罎付土器が出土した

1. 縄文中期の集落遺跡 久保 上ノ平遺跡 伊那谷 南箕輪村 2007.9.6.



久保上ノ平遺跡から出土した縄文土器と人体文のある有孔罎付土器 南箕輪村郷土館蔵

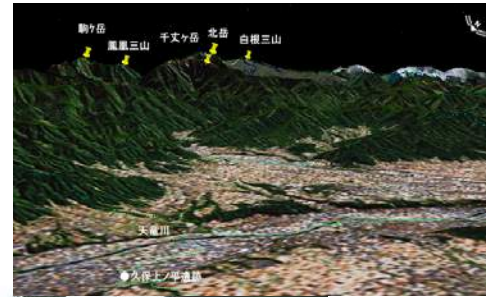


久保上ノ平遺跡

遠く南アルプスを遠望する
天竜川の河岸段丘の上の
縄文中期の集落から
奇怪な人体文様を付けた
罎付縄文土器が出土した



不思議な人体文有孔罎付き土器が出土した
久保上ノ平縄文遺跡 伊那谷 長野県南箕輪村



天竜川を東に見下ろす南箕輪村久保上ノ平地籍の河岸段丘の標高約七〇〇メートルの傾斜地にある縄文中期、弥生後期、奈良末期から平安中期とほぼ三時代が重なる複合遺跡で、弥生後期の方形周溝墓も見つかった。

出土した土器は人体文付き有孔罎付き土器や、手の文様土器などが有名。「一軒に一個ではなく、集落に一〜二個あり共同で使われていた」と推測され、人体文付き有孔罎付き土器は「人間の上半身と下半身を分けて描き、顔はドクロ様。目はつり上がる」などどこにも出土例のない不思議な人体文である。

また、この久保神ノ平遺跡では 土器が野外にも 規則正しく埋められた特殊遺構や配石遺構など 今までに例のないもので、浅鉢型土やその他多数の出土状況なども総合し、祭祀的色彩の強い集落であると考えられている。



久保上ノ平遺跡

遠く南アルプスを遠望する
天竜川の河岸段丘の上の
縄文中期の集落から
奇怪な人体文様を付けた
罎付き縄文土器が出土した



人体文付き有孔罎付き土器



北信などのつながりを示す数々の縄文土器

1. 不思議な顔をした伊那谷久保上ノ平縄文遺跡「人体文付き有孔罎付土器」

中部高原地帯の縄文人が好んで描いた人物模様 越後の火焰土器・青森の縄文土器と並ぶ造形美を誇る縄文土器のひとつ

長野県から山梨県の中部地方の高地では 縄文時代前期末期から中期終末にかけて動物や人体文そして人面の装飾をつけた特徴的な土器が出土する。

この中部高原地帯の縄文人が好んで描いた人物模様の土器は越後の火焰土器土器・青森の縄文土器と並ぶ造形美を誇る縄文土器のひとつである。

そんな土器の中に、「有孔罎付土器」と呼ばれる土器がある。

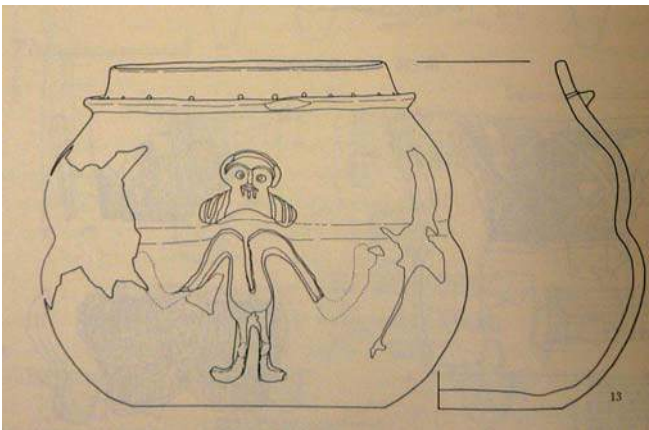
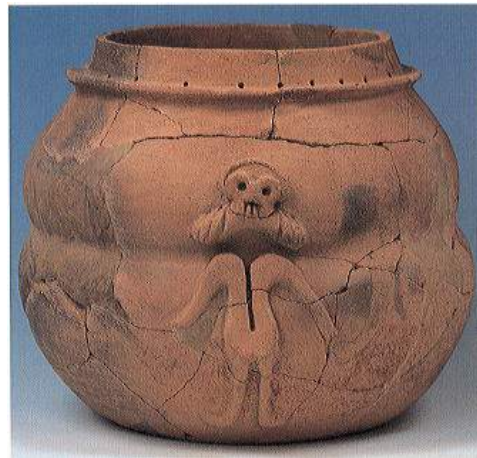
口縁部に内壁を貫通する直径5mm程度の小孔が列状に数個から20個程度空き(有孔)、胴体中央部に罎状隆帯がある(罎付)。一般的な深鉢型土器と異なり樽型や壺型のもものが多く、口部上面は平坦で、蓋をすることができたと考えられている。

中でも、人体文の模様が付けられた土器は非常に珍しく東日本を中心に37点しか見つかっていない。特に 中央アルプスと南アルプスに挟まれた伊那谷の北部 天竜川を東に見下ろす南箕輪村の河岸段丘にある縄文中期の集落 久保上ノ平遺跡から出土した人体文付き有孔罎付土器は特に特異な珍しい人体文の装飾がほどこされ、注目を集めた。

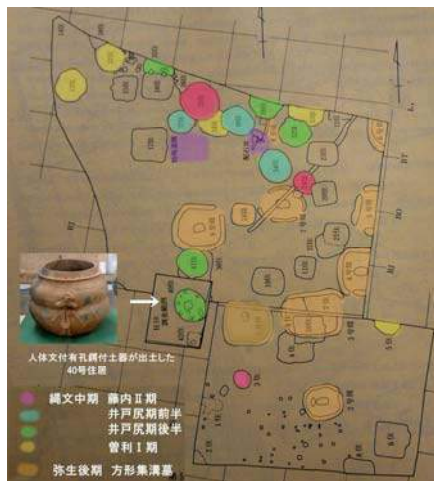
こんな不思議な模様の土器 ビックリですが、出土の数が少ないことや出土の状況から祭祀につかわれたものと見られています。

また このような罎付時の使用目的は 1. 土製太鼓説 2. 酒具説などがありますが、今は酒具説が有力です。でも 真偽のほどは 良くわからない。

また、 この人体文付土器のほか、長野や山梨からは数多くの縄文の人面土器が出土している。



器の表面にくっきりと、顔立ちのはっきりした人の全身像が描き出され、ほかに類を見ないデザイン



この人体文付き有孔罎付土器が出土した久保上ノ平遺跡 40号住居発掘時の写真 (南箕輪村郷土館資料より)

久保上ノ平縄文遺跡「人体文付き有孔罎付土器」

参考 1. 人体文土器の一例

右端 大野遺跡の土器は人面装飾付有孔鏢付土器



小矢部市桜町遺跡



笛吹市釈迦堂遺跡



櫛形町 鑄物師屋遺跡

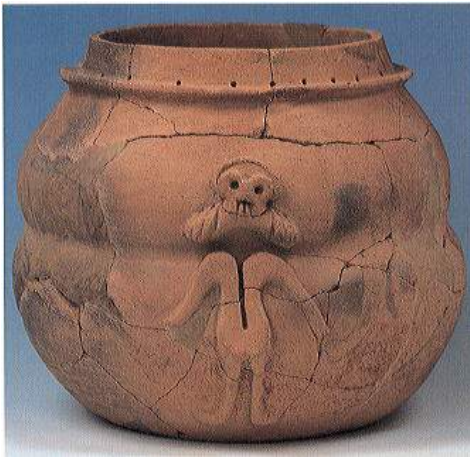


福島県飯野町 和台遺跡



長野県大桑村大野遺跡

■ 久保上ノ平遺跡人体文鏢付有孔付土器



久保上ノ平遺跡から出土した縄文中期の「人体文付有孔鏢付土器」はさらに印象的です。土器の表面にくっきりと、顔立ちのはっきりした人の全身像が描き出されています。この時代としてはほかに類を見ないデザインとして歴史的価値の高いもので、同時に発掘された遺構も今までに例のないものが多く、注目されています。

■ 山梨県 笛吹市釈迦堂遺跡人体文付土器



釈迦堂遺跡博物館では約 1,200 個体の土器を復元している。縄文遺跡の中では全国有数の土器量といえる。古くは早期(約 6,200 年前)から、前期は(6,100~4,800 年前)、中期(4,800~4,050 年前)後期初頭(3,800 年前)までである。特に中期の物は出土量が多く、また全型式が揃っている。

■ 小矢部市桜町遺跡の人体文付土器



縄文時代後期末の人体文付土器片

人体文付土器は東日本を中心に 37 か所で発見。土器片はウッドサークル(環状木柱列)の周辺で出土。土器片は大小 3 片で、幅 4 センチ、長さ 4・3 センチの立った人の姿が描かれていた。直径約 12 センチの鉢形土器の側面部分で、人の文様は 2 か所または 4 か所に付いていたと見られる。人体文付き土器は縄文中期(約 4,000—5,000 年前)に盛んに作られたが、後期末のものは珍しいという。

■ 大野遺跡人面装飾付有孔鏢付土器出土



大野遺跡(大桑村大字長野、大野地区)B地区、22号竪穴住居跡内の覆土下層から、「人面装飾付き有樽形をした有孔鏢付土器の胴部に人面装飾がつけられている。人面部の径が最大 25 cm と大きく、顔だけが単独でつけられているなど、全国的にみても非常にめずらしい。

■ 福島県飯野町 和台遺跡人体文付土器



飯野町南部の阿武隈川沿いに位置。縄文中期の大集落跡と推定され、全国的にも珍しい人体文土器が出土

■ 山梨県鑄物師屋敷跡 人体文付有孔罎付土器



櫛形町，鑄物師屋敷跡は縄文中期の典型的な集落跡。

■ 顔面把手付き土器の一例

塩尻平出博物館展示より



参考 2. 有孔罎付土器 解説

有孔罎付土器は、現在の長野県から山梨県の中部地方の高地において縄文時代前期末期から中期終末にかけて特徴的に見られる縄文時代の土器形式のひとつ。口縁部に内壁を貫通する直径 5mm 程度の小孔が列状に数個から 20 個程度空き（有孔）、胴体中央部に罎状隆帯がある（罎付）。一般的な深鉢型土器と異なり樽型や壺型のものが多い。口部上面は平坦で、蓋をすることができたと考えられている。胴体には動物意匠文をはじめさまざまな装飾文様が施され、両肩部には把手が設けられている。出土数は極端に少なく、胎土も精選されており出土状況も特異であり、口縁部に把手の付いた釣手土器とともに祭祀に関わる土器であると考えられている。この中に人体文や人面の文様の土器がある。

1. 酒造具説

土器の変遷や出土状況から酒造具説が最も有力とされている。

有孔罎付土器は注口土器へ至っていることから内部には液体が入れられていたと推定し、その内容物は酒であると推定する。

また、小孔部に破損例が少なく摩擦跡も見られず、紐などを通す緊縛孔であったとは考えられない。

上部には蓋をして密閉する一方で外気と接する小孔を設けていることや、特定住居址の住居内ピットから埋蔵状態で出土することから一定の保温が必要な作業に用いられ、内部に黒色変化がある。

さらに内部からヤマブドウの種子と思われる炭化物が発見された例があることから、内容物は酒（液果酒）で酒造具として用いられ、小孔は醗酵過程で生じたガスの排出口であると推定している。

2. 土製太鼓説

有孔罎付土器にはヘビやカエルなどの動物文様や人体文様が施されていることや、世界各地の民俗事例にみられる土製太鼓との類似から、小孔に詮をして反膜を止め太鼓として用いていたと推測している。

2. 縄文の集落跡遺構

久保上ノ平遺跡約 3000 m²の範囲の調査から、縄文中期・弥生後期・平安の3つの時代に重なる複合遺跡で、集落跡からは 縄文中期 16 弥生後期 6 平安 17 の住居跡(ほかに時代不明 3 住居跡+2 掘立柱建物)や縄文の祭祀遺構 2(野外に土器が配してうずめられた特殊遺構と配石遺構)や弥生後期の方形周溝墓 8 基などが見ついている。

【1】住居跡遺構

縄文時代中期の集落跡からは 16 の住居跡が見ついているが、一度に 16 軒の住居があったわけではなく、中期中葉から後葉初めにかけてのものである。また、この時期 集落は広場を取り囲むように住居があったと考えられ、出としているのは集落の半分程度と考えられている。

そして、縄文の中期中葉の 40 号竪穴住居跡より、人体文付有孔鏝付時が出土した。

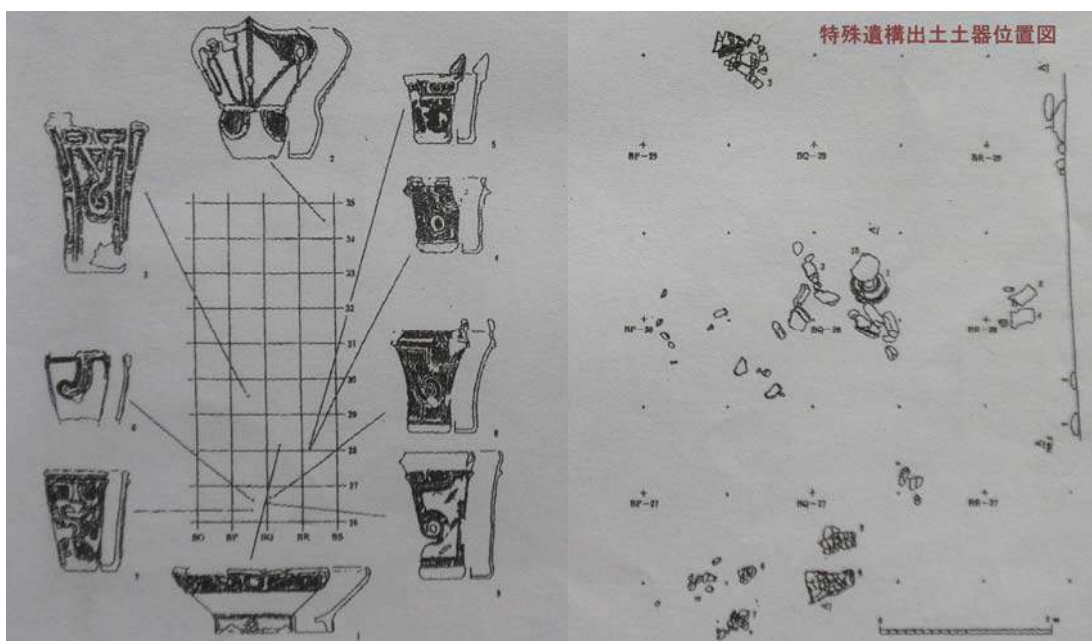


【2】祭祀の遺構

a. 野外に土器が配列されていた特殊遺構

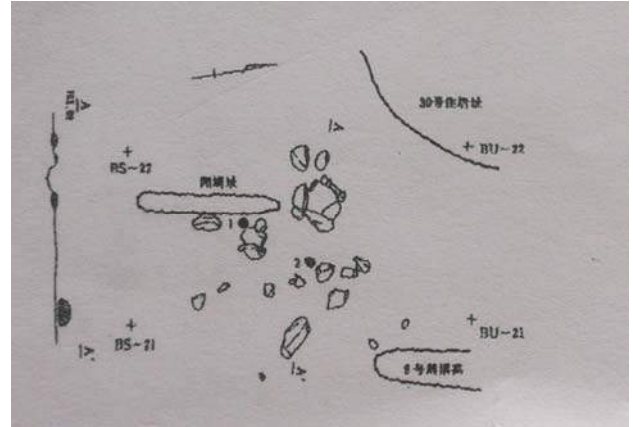
この遺構では野外に土器が配列され、その中心部には 底部が故意に打ち砕かれて逆さに伏され、その上にふたをするように円盤状の石が置かれた台付浅鉢型土器があった。この土器の直ぐ横に方形の礫群がみられ、その周囲の台付浅鉢型土器を中心に半径 3m. 以内に取り巻くように 2 個 1 組の土器がいずれも口縁部を南に向けて、並列した状態で横倒しになっていた。この場所には住居跡を示す床面・柱・壁・炉跡はなく、この遺構の周囲からはおびただしい数の土器片や土偶片石器類が出土し、土器の廃棄場になっていた。

また、このような野外に土器が配列された遺構は藤内遺跡でも見ついている、祭祀遺構と考えられている。



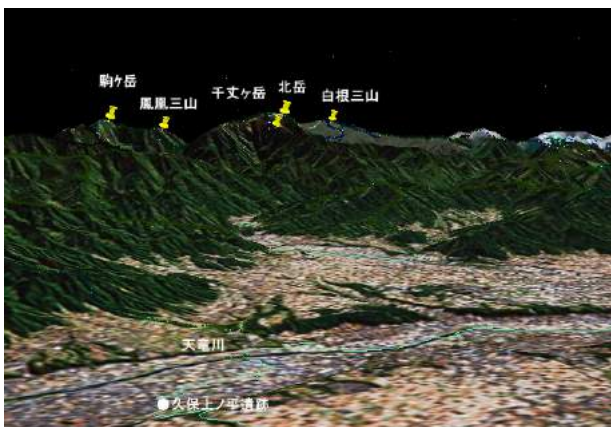
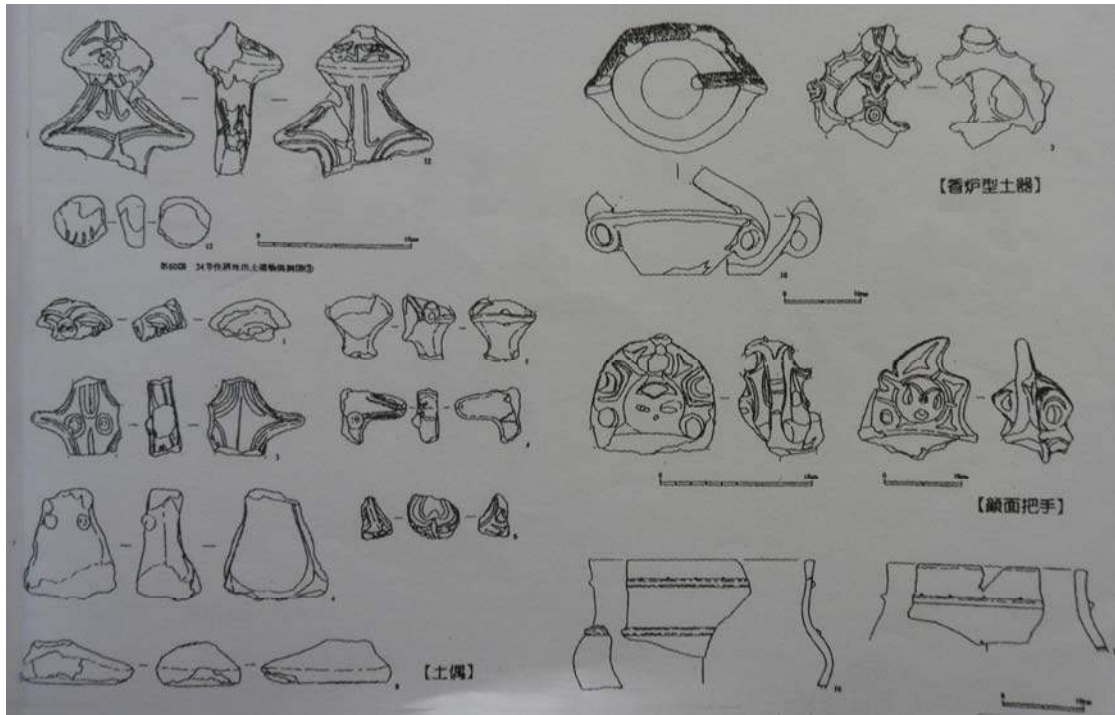
b. 配石遺構

野外に石囲い炉の形に石を組み、その周りに礫が散在していたが、いずれも熱を受けた痕跡は見られず、この遺構も何らかの祭祀につかわれたと考えられている。



【3】 出土した土偶片や土器片

久保上ノ平遺跡の住居跡や土器配石場から 祭祀に関係すると考えられる土偶片や土器片が見つかった。いずれも完成品ではなく、バラバラの状態で出土している。



2. 塩尻市平出 平出縄文中期の集落 2007.9.5.

伊那谷・木曾谷を遡り、松本平・諏訪へと抜ける信州の十字路 塩尻
大古から、清らかな泉が湧き出す比叡の山の山裾からは はるか常念岳など北アルプスの連峰と
広大な松本平とが展望できる素晴らしい場所 そんな平出の地に縄文から続く集落がある
今は 中・南信州地域独特の雀踊りの飾りか軒先につく本棟造りの静かな家並みが出迎えてくれる



比叡の山を背に広がる平出縄文集落遺跡

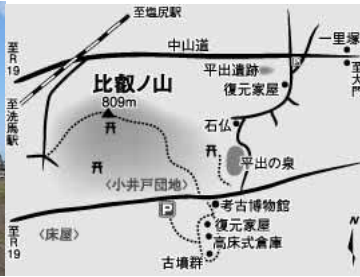
信州中南信地域の豪農民家に見られる独特の「本棟造り」。巨大な切妻屋根を持ち、妻入に設計した造りをいう。正面の切り妻に二重に配した破風が重厚で格式ある外観をかもし出すが、さらにその上に乗っているのが「雀返し」という装飾。「雀おどり」「雀おとし」とも呼ばれる。機能よりは装飾を重視したものの。



比叡の山裾に湧き出す平出の泉と美しい本棟造りの家が建ち並ぶ平出集落 2007.9.5.

縄文中期研究の夜明け 塩尻市 平出遺跡

縄文の中期集落を解明し、謎を解き明かすきっかけとなった 平出遺跡
 尖石遺跡 登呂遺跡と共に三大遺跡と呼ばれた



縄文時代中期、古墳時代、平安時代の各時代にわたる大集落跡 特にこの遺跡で初めて縄文中期の村が解明された意義は大きく、縄文から古代平安までの集落の様子がわかった遺跡。広い史跡公園に縄文の村 古代の村がふくげんされており、博物館では 縄文土器や土偶をはじめ大量の縄文の異物が見られる。また、この長期にわたる村が存続したのは すぐ近くの山や鍾乳洞裾・岩の割れ目を伝って、今もこんこんと湧き出す「平出の泉」の賜物。澄んだコバルトブルーの泉が魅力といわれる

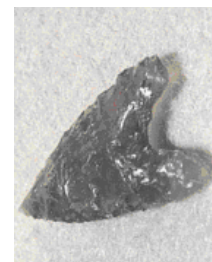
縄文時代中期、古墳時代、平安時代の各時代にわたる大集落遺跡で、遺跡の範囲は 15ha に及んでいます。付近には縄文以来、連綿と湧出する平出の泉が美しい姿を見せるので、昭和 27 年、国史跡に指定された。

平出の泉に恵まれた平出遺跡は、縄文時代から平安時代にかけての大集落。昭和 25 年から現在までの発掘調査により、縄文時代では中期 60、後期 2、 古代では古墳時代 79、平安時代 28、時季不明の計 199 軒の住居が発見され 緑釉水瓶をはじめとする土器・石器などが大量に出土しました。これらの発掘成果は、当時における縄文時代から平安時代までの村落のありかたを解明するうえできわめて重要な遺跡であることから昭和 27 年に国史跡に指定された。昭和 20 年代から断続的に発掘調査され、この地域で初めて中期集落が調査されたこと、平出 3A 土器が検出されたこと、住居内への土器廃棄に関心が寄せられたこと、埋甕の認識と幼児埋葬説が提唱されたことなど、中期文化解明のために現在論議されている幾つかの問題点を研究するきっかけとなった点など、縄文研究のさきがけとなった遺跡



縄文の村の復元

古墳・平安時代の村を復元



住居址出土埋甕

土偶

縄文土器

石器

緑釉水瓶

(縄文時代)

平出遺跡から出土した遺物 平出博物館に展示

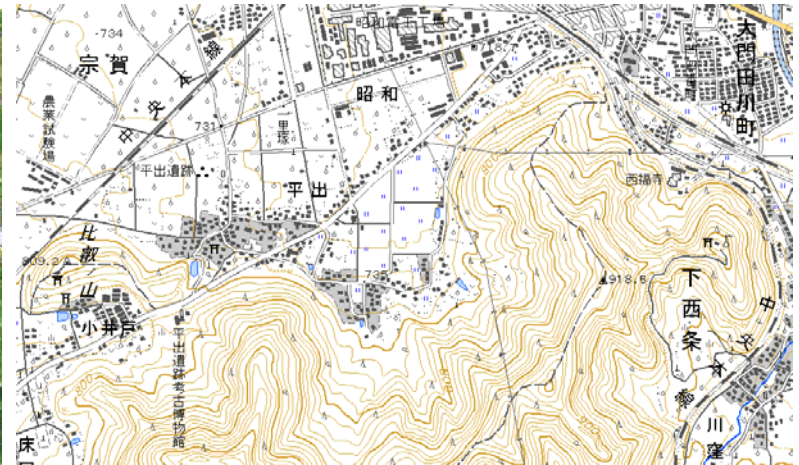
(平安時代)

平出の縄文集落は広場を中央に弧状に収去が建ち並ぶ集落だった

広場にストーンサークルに立つ「立石」と同じ「立石」が立ち、
広場には 墓があり、墓の上に墓標と思われる縄文土器が置かれていた
また、正面にそびえる比叡の山 また見晴るかす北アルプスは神聖な山であったに違いない



縄文中期の集落遺跡 平出遺跡 長野県 塩尻市平出 2007.9.5.



平出縄文集落 集落の北側から 正面に比叡の山を望む 2007.9.5.



平出縄文集落 南 集落の広場側から 住居群・北アルプスを遠望 2007.9.5.
晴れていれば 常念岳など北アルプス連峰が望めるという



縄文中期の村の様子を解き明かした 塩尻市 平出縄文集落遺跡

北アルプスの山々や広大な原野松本平が遠望できる比叡の山と大古より湧き出す平出の泉を背に広場を中心に弧状に広がる縄文中期の集落。 中心の広場には祖先との繋がりへのモニュメントだろう 「立石」が立ち、土坑墓があり、土器がその墓の上に載せられていた。この集落からは中部高原の縄文を特徴づける数々の遺物 人面・動物文様の縄文土器や幼児を住居内に埋葬した埋甕・土偶などが出土した。



埋甕と土偶片



特徴ある縄文土器と破片



縄文中期の集落遺跡 平出遺跡 出土の土器・埋甕・土偶



- 中部高原独特の縄文土器
 - ・ 唐草文
 - ・ 人面文様の土器
 - ・ 動物文様の土器
 - この平出で明らかになった
幼児埋葬の埋甕
 - 数々の土偶
- 中部高原の中期縄文集落の様子
を解き明かした遺跡

再生を願う縄文人の幼児埋葬を明らかにした埋甕 北信地域の縄文土器
 竪穴住居の出入り口の床下に逆さにして埋められていた甕



3. 縄文の黒曜石原産地遺跡 信州 長和町「星糞峠」

静かな山の雑木林の中に キラキラと光る黒曜石から、星糞峠の名がつけました
縄文人が道具素材として掘り出した縄文の黒曜石鉱山が今も残り、
その破片が散らばり キラキラ輝いています



今も黒曜石の破片が足もとでキラキラ光る縄文人の黒曜石鉱山 霧が峰の麓 星糞峠

9月6日霧雨がちらつく曇 白樺湖から大門峠を越えて 星糞峠の下にある鷹山の「黒曜石ミュージアム」の広場に9時前に到着。 今回もまた霧雨の星糞峠である。でも今回は峠までバスで行けるので、何とか星糞峠には登れそう。

前回は家内と二人で 黒曜石原産地遺跡の林の中を歩いたのですが、今回は約 30 名が峠の下にある明治大学「黒曜石研究センター」の山科哲先生の案内で星糞峠の原産地遺跡と明治大学「黒曜石研究センター」ならびに「黒曜石ミュージアム」の展示を見学させていただきました。 本当に静かな林の中 縄文人の黒曜石鉱山を見学できました。

今回は特に 黒曜石原産地遺跡の中ほどにあり、前回は青いビニールシートに覆われていた第一号採掘跡遺跡をオープンしていただき、黒曜石が入った地層をみせていただきながら、この星糞峠の黒曜石の成り立ち等を教えていただきました。

また、明治大学「黒曜石センター」には 黒曜石にまつわる数々の展示と共に最近の研究結果が展示されていました。一度 訪れているとはいえ、星糞峠原産地遺跡の静かな雑木林の中、縄文人の時代をイメージしながらの散策。きらっと光る黒曜石片を見つけては歓声をあげ、また 縄文の黒曜石について色々教えてもらい、また、お土産に黒曜石片をもらって、ニッコリ。気分爽快な星糞峠原産地遺跡 Walk でした。

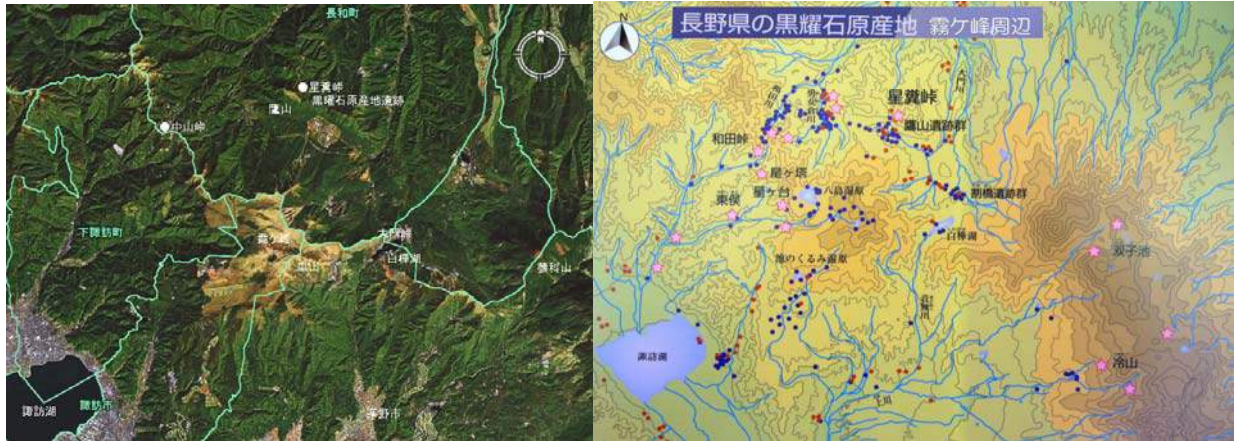
昨年 10 月訪れた星糞峠原産地遺跡訪問記がありますので、詳細はその訪問記にゆずり、今年新たに見学した第一号採掘跡遺跡見学や明治大学「黒曜石研究センター」の見学を追加すると共に、山科先生から教えていただいた黒曜石の現在の利用 「黒曜石パーライト」について追加してまとめました。

1. 縄文の黒曜石原産地遺跡 信州 鷹山「星糞峠」を訪ねる【I】 2006. 10. 7.
2. 縄文の黒曜石原産地遺跡 信州 鷹山「星糞峠」を訪ねる【II】 2007. 9. 6.
縄文の黒曜石鉱山 第一号採掘跡 & 明治大学「黒曜石研究センター」
3. 黒曜石の現在技術「黒曜石パーライト」 黒曜石が現在の機能材料として使われている



黒曜石パーライト

1、 縄文の黒曜石原産地遺跡「星糞峠」を訪ねる【I】 2006.10.7.
 縄文石器材料「黒曜石」を日本各地に配っていた霧ヶ峰・和田峠



縄文の黒曜石産山 長和町鷹山 星糞峠黒曜石原産地遺跡 2006.10.7.

10月7日朝 心配した昨夜の雨もやみ、雲はあるものの日が差している。予報によれば山梨県側は晴れるが、信州側はまだ雨が残ると。

今日は日本各地に運ばれた信州・霧ヶ峰の黒曜石の原産地 縄文の黒曜石を見に行く。

黒曜石は切れ味の鋭いナイフや鏃・槍先など縄文の主要道具の原石で、北海道上川「白滝」信州「霧ヶ峰・和田峠」そして「隠岐」など限られた産地でしか出土せず、「糸魚川」の翡翠などと共に縄文時代の主要な交易品で、是非一度自然の中に在る原石をみたいと、北海道上川にもトライしたのですが、雪で行けずで、それならば、信州で・・・と思っていた場所である。

和田峠は中山道の諏訪・甲州側から信州へ入る交通の要衝であり、茅野・諏訪から霧ヶ峰・美ヶ原へと続くポピュラーなハイキングコースで、信州には何度も行きましたが、私は足を踏み入れたことがない場所でした。

山のガイドブックにも「八ヶ岳や霧ヶ峰 山道を歩いているところどころに今も黒曜石が落ちている」と書いてあるのを知って、信州へ行ったら今度は是非霧ヶ峰へ足を伸ばそうと・・・。

インターネットで調べるとその霧ヶ峰周辺の長和町 鷹山の星糞峠はそんな縄文人が長年にわたり黒曜石を採取した



鉾山でその鉾山遺跡が「黒曜石原産地遺跡」として保存され、また、鷹山には「黒曜石ミュージアム」明治大学の黒曜石研究センタがあり、今も調査を続けていることが知れた。また、長和町のインターネット地図には点線の山道が星糞峠を越えて山についているし、どうも星糞峠を越える林道がある。ここを歩いた記事がないか??? 調べるのですが、「黒曜石ミュージアム」の記事意外に星糞峠を歩いた記事は1,2しかなく詳細がよくわからない。「まあ 出かければ 黒曜石の露頭の位置も教えてもらえるだろう。

地図で見れば 道がついていそうなので2時間もあれば、何とかできるだろう。地図だけしっかり持って 後はミュージアムで教えてもらって・・・」いつもの調子である。

現地に行ってわかったのですが、僕が描いていた「『黒曜石原石の露頭』がみられる」というイメージとは随分違うことが 後で判りました。

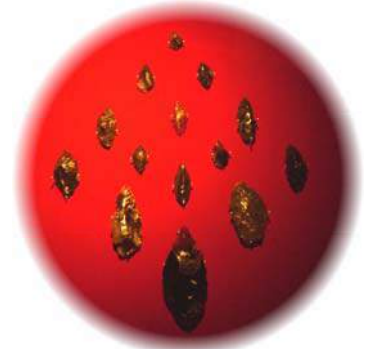
黒 曜 石 :

火山岩の一種で化学組成では一般に無水珪酸に富んだ酸性岩で、流紋岩や石英安山岩とよく似ています。

火山活動により地上に噴出した流紋岩～安山岩質の粘性の高い岩漿（マグマ）が、急冷により、晶出が妨げられてできた岩石で硬度は5度。比重は2,339～2,527。

これらは、ケイ長質岩に分類され、けい酸アルミニウムの他に酸化カリウム、酸化ナトリウムなどのアルカリ金属酸化物を8～12%含み、比較的鉾物の融点が低いのが特徴。

どんなマグマでも黒曜石になるものではなく、流紋岩～石英安山岩質のマグマからできます。また、割るとガラスのように鋭いエッジが出来ることから、石器の材料として使われてきました。今から約80～140万年前の諏訪地方では八ヶ岳山系が活発に噴火し、地下からのマグマが地表に噴出し、壮大な噴火活動が繰り返され、その噴火活動が終息にいたる際に、粘度の高いマグマが急速に冷却し、黒曜石が生成されました。



星糞峠のある長和町鷹山へは 清里からは ちょうど八ヶ岳を挟んで北西の山の裏側で、小海線の通っている八ヶ岳の東側を越えるか または八ヶ岳の西側の茅野から蓼科山の横 白樺湖を越えるかして、甲州・諏訪側から信州側へ越えねばならない。土地勘のない関西からだだと車でないと行きにくいところである。

清里の朝と清泉寮の朝食をゆっくり楽しんでの出発で、朝が遅れたので、茅野から白樺湖の横を越えて、鷹山に入ることにする。其の後 星糞峠を歩いて、黒曜石見られなかったことを考えて、鷹山から中山峠・霧ヶ峰へ行って東京へ向かうスケジュールをたてる。

清里から中央高速道路長坂 IC から諏訪南・茅野 IC を出て、北へ八ヶ岳・蓼科山の西山麓を白樺湖へ。八ヶ岳には雲がかかっているが青空ものぞいて快適。八ヶ岳の西麓の丘陵地国道152号線を北へ、尖石縄文遺跡のすぐ近くをどんどん登って、蓼科山の山中へ入ってゆく。この辺りから青空は消え、霧雨交じり。



中国道から八ヶ岳 長坂 IC



茅野から蓼科山の山中



諏訪・信濃の境 蓼科山山麓白樺湖

約1時間30分ほどで、白樺湖。やっぱり冷たい風で寒いが、湖面に霧が立ち込め、かえて美しい。

もうここから大門峠を越えればすぐ鷹山である。

霧雨の中 霧ヶ峰・車山への分かれ道を通りすぎし、あっけなく大門峠を越えて信州側へ。

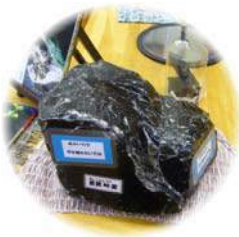
大門峠を越えて すぐ 鷹山スキー場・黒曜石ミュージアムの標識のある追分で左へ鷹山の集落に入る。山又山の真っ只中である。霧雨の中周りの状況がよくわからないまま黒曜石ミュージアムの前につく。



南には大きな鷹山スキー場のゲレンデから霧ヶ峰の山々が見え、反対側ミュージアムの横 草地の広場の向こうに星糞峠・虫倉山の尾根筋が見えている。



鷹山 1. スキー場入り口の標識で集落へ 鷹山 2. 黒曜石原産地遺跡のある虫倉山は雲の中 鷹山 3. 黒曜石ミュージアム



雨もあがり、星糞峠のある虫倉山が見えてくる 黒曜石ミュージアム前 2006. 10. 7.
広場中央奥の案内板のところから星糞峠への遊歩道がついている

まず、星糞峠の黒曜石・星糞峠への道への情報を聞きに黒曜石ミュージアムに行く。

ミュージアムにはかつて 縄文人が黒曜石を採取した黒曜石鉱山の解説や黒曜石採掘の様子と加工で作り出された石器や信州黒曜石の広がりなどがわかりやすく展示されている。



黒曜石体験ミュージアム 星糞峠黒曜石の展示 2006. 10. 7.

このミュージアムや長和町では黒曜石の「曜」の字を「耀・カガヤキ」と書いて「黒耀石体験ミュージアム」と書く。人の手が加わって割れた黒曜石の破片は光を浴びてキラキラ輝く。この地に無数に散らばる半透明の意思がキラキラ輝くのをいつの頃からか「星糞」と呼び習わしてきたことから、「黒曜石」にも「黒耀石」と名づけたという。この地が国内有数の黒曜石原産地である証を主張しているのだろう。

「星糞峠に登って 黒曜石の露頭のところまで行きたいので そこまでの道を教えてほしい」と言うとうとうもおかしい。

「星糞峠まではこのミュージアムの裏から遊歩道がついて、その周りが星糞峠の黒曜石鉱山遺跡です。

星糞峠の黒曜石鉱山の周辺までなら 30分ほどで行けるのですが、遺跡から上の方は急な山道になるので厳しいし、行かない方がいい。露頭と言っても それは見つからない。それに 今 熊が周辺の山に出て 危ないので 星糞峠の方には行かない方がいい。」と学芸員の人も出てきて、どうも歯切れが悪い。

「ええ・・・熊 こっちの尾根に出没しているのでなければ行けるでしょう。鈴でもあれば貸してほしい」と。

「まあね。 十分注意すれば・・・」とOKしてくれる。ミュージアムで鈴を用意してもらっている間にミュージアムの展示を見ることにした。



「星糞峠の縄文黒曜石鉱山遺跡」や「黒曜石の露頭が見つからない」の言葉に引っかかっていたのですが、展示を見て 判りました。



この地の黒曜石産出の経緯は次の通りだという。

昔虫倉山噴火で黒曜石が形成され、その火口近傍が地殻変動や気候不安定な時期とあいまって、土砂崩れで

崩壊し、大量の黒曜石が土砂と共に星糞峠から山麓の川にまで流れ落ちた。

旧石器人たちは川で土砂で洗われて露出した黒曜石の破片を発見し、それで道具を作り、この鷹山川筋に住み着き、狩などで生活をはじめた。多くの人達がこの川筋で生活を始めた。

そして 縄文の時代になると もう川筋には黒曜石が取れなくなり、山に登って黒曜石を掘り出すようになり、小さく砕いた原石や道具に加工された黒曜石が各地に運ばれるようになった。

それで、縄文人が山で黒曜石を掘り出した後の窪地が確認されただけで 150 以上星糞峠から上の虫倉山の斜面に点々と存在し、「星糞峠縄文の黒曜石鉱山遺跡・黒曜石原産地遺跡」として保存され、この黒曜石の破片が星糞峠近傍でキラキラひかり、「星糞」と呼ばれてきたという。

したがって、耳慣れない「黒曜石鉱山」の言葉や「黒曜石原石の露頭」が見つからぬ由縁である。

鈴を腰に「カラン カラン」と音をさせながら、草地の奥の入り口から林の中に入ってゆく。

まあ 鈴を付けても最近の熊には鈴もお守り程度ですが、二人がガサガサ音をたてれば大丈夫でしょう。

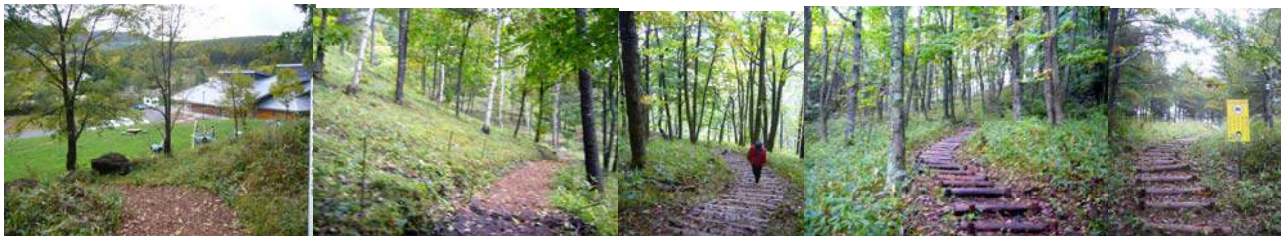
「星糞峠縄文黒曜石鉱山へ」の案内板のところから木片が敷かれた遊歩道が林の中 尾根の上へと登ってゆく。

敷き詰められた木片が絨毯のように心地よく、雨上がりの緑が美しい森の中の静かなハイキングです。

こんなに良く整備された道があるとは思いませんでした。

「これ 黒曜石じゃない さっきから 時折 キラキラ光っている石がある。」と家内が小さな黒い破片を指でつまんでいる。ガラス状半透明の黒い破片 こんなに簡単に黒曜石が見つかるなんて・・・

道端に眼を凝らしながら、尾根の上へ向かって 30 分。尾根の上に出たところが星糞峠だった。



星糞峠へと続く良く整備された遊歩道 2006. 11. 7.



国史跡星糞峠黒曜石原産地遺跡の案内板のある星糞峠

峠には左から右へ尾根を越えてゆく林道があるが、峠の左で扉が閉じられていて 林道からは峠へは行けない。

峠は右手の虫倉山と左の小さな山高松山の鞍部になっていて、右手の虫倉山への山の斜面が続く林の入り口に「星糞峠黒曜石原産地遺跡」の案内板があり、この林の奥急な山の斜面に広がる縄文人の黒曜石採取跡 黒曜石鉱山の分布図が点々と 150 を越える番号が付けられた印で示され、林道側の休憩所にはこの鉱山遺跡の模型が置かれていた。 峠が標高約 1400m でここから虫倉山の斜面 1540m 近くまで 広がっている。



峠の上にも 111 号・112 号採掘跡の標識を付けた窪地が青いシートで覆われ直ぐそばに見える。

この星糞峠の左手 西側の谷へ降りたところが女男倉川の黒曜石原産地そしてその向こう北から南へ続く尾根筋が和田峠・霧ヶ峰の石曜石原産地がつづく。

「信州 霧ヶ峰黒曜石原産地」「八ヶ岳山麓の黒曜石原産地」と呼ばれる信州の黒曜石原産地帯と呼ばれる日本各地で使われた縄文の黒曜石器の原石の供給場所である。特にこの星糞峠は 縄文人が長期にわたって、黒曜石を採掘した跡が窪地となって山の斜面に点々と続く縄文の黒曜石鉱山跡である。

星糞峠黒曜石原産地遺跡の標識のところから赤い矢印の順路標識にしたがって、鉱山遺跡の中に入る。

虫倉山の頂上へ向かう緩やかな斜面の静かな雑木林の中に、採掘跡を示す野球ボールほどの認識票がついた窪地が点々と続く。

程なく前方に金網に囲まれたブルーシートがかぶせられた窪地が案内板とともに見えてくる。

標高 1500m 鉱山遺跡の中ほどにある第一号掘削跡遺跡である。



虫倉山へのゆるい斜面上に広がる黒曜石鉱山遺跡 第一採掘跡周辺 2006. 10. 7.



黒曜石鉱山遺跡 第一採掘跡と発掘状況を示す案内板 縄文後期 3500 年前

この案内板によると「この窪地の地下には、直径 3m 深さ 3m ほどの井戸状の穴が多数埋もれている。

この穴は竖坑と呼ばれ、黒曜石の塊を掘り出した穴で、黒曜石の塊がうずまっている白い粘土層に向かって掘られた穴である。 この竖坑から縄文後期 3500 年前の土器が出土している。」と記されていた。

この第一採掘跡の少し上のところから虫倉山の頂上へ向かって急斜面となっていて、ロープが張りめぐらして一般の見学路はここで横に巡るようになっていた。

さらに上に行くところにはロープを越えたところに「探求コース」の案内板があり、赤い矢印の踏み跡表示が急な斜面をジグザグに登る細い踏み跡があり、踏み跡沿いに採掘跡を示す窪地表示ボールが点々と続いている。

「ここより上が厳しいので、上に行かずに降りてきたら・・・」とアドバイスをもたらったところ。

案内板には「星箕峠鉦山遺跡は標高 1487m の所にある星箕峠から虫倉山頂上部周辺 1546.8m の南北 220m 東西 300m に広がっている。

そして、第一号採掘跡のある標高 1500m のこのあたりが、遺跡のちょうど中間点。ここまでの緩やかな斜面がここから急斜面に変わる。この急斜面と頂上の間にまだ見つからない黒曜石形成にかかわった噴火口がある可能性が高い。」と書かれていた。

また ここに至る道々にも目を凝らすと小さな黒曜石の破片がポツポツと見つかった。

熊が出る気配もないし、「やっぱり、視界の開ける頂上周辺 鉦山遺跡の最上部まで行きたい」と結局そのままさらに上へ登って 鉦山遺跡の最上部まで行きました。



標高 1500m 付近 急斜面の斜面に採掘跡を示すボールと探索路を示す矢印が続く



見学路で見つけた黒曜石



鉦山遺跡の最上部 2006. 10. 7.

探求コースの案内板から、さほど掛からずに鉦山遺跡の最上部になり、木々のないオープンな草地になり、そこからは西側に広がる霧ヶ峰の山々 そして真下に鷹山の集落が見えました。



1. 鷹山集落越しに見える霧ヶ峰の山々



2. 鷹山の集落

星麓峠鉦山遺跡 最上部からの眺望 2006. 10. 7.

糸魚川の翡翠と対になって、三内丸山遺跡までも運ばれた信州の黒曜石。

是非そんな信州の黒曜石原産地で自然の黒曜石を確かめたかった希望がかないました。

ミュージアムの人達は降りてくるのが遅いので心配したと聞きましたが・・・結局ゆっくりと星麓峠鉦山遺跡の林の中を2時間弱歩いて、黒曜石ミュージアムまで降りてきました。

情報が少ししかなく、どうなるかと心配して出かけたのですが、誰もいない静かな山中 木々が点在する山の斜面の林の中に今もキラキラと黒曜石のクズが輝いていました。

車でないと便利の悪い場所ですが、「星麓峠」の名前そのままに誰もいない神秘的な空間。

ゆっくりと縄文と対話できる空間でした。

この後 霧ヶ峰・中山峠の黒曜石を続けて訪ねる計画でしたが、もう 満足いっぱい 結局車で中山峠・霧ヶ峰を車で走りぬけて、諏訪まで出てきました。

ご機嫌の鷹山 星麓峠の黒曜石探訪でした。

もっと 便利がよければ 本当にお勧めなんですけど・・・



星麓峠 黒曜石原産地遺跡 長野県長和町鷹山 2006. 10. 7.



黒曜石は、諏訪湖の北方にそびえる霧ヶ峰にある和田峠、星ヶ塔、星ヶ台、東麓屋、霧ヶ峰、星麓峠、男女倉などで産する。いずれも標高1,500メートル前後で高位にあり、総じて 和田峠産黒曜石と呼ばれ、その代表的な原産地遺跡が峰に隣り合う長野県長和町鷹山の鷹山遺跡群の星麓峠黒曜石原産地遺跡である。このいわゆる和田峠産の黒曜石は、松本～大町を経て鉦川水系を流下して糸魚川に至る地理学上のフォッサ・マグナと重なる文化伝播経路を経て、日本海に面する糸魚川に出る。そして、鉦川で産するヒスイとセットとなって、西は富山県や石川県、福井県へ、そして東は新潟県から青森県へと運ばれていた。

鷹山黒曜石原産地遺跡群は大規模な11の遺跡と小規模な5つの地点遺跡から構成され、星麓峠には縄文時代の黒曜石鉱山と呼ばれる大規模な発掘跡がある。旧石器時代の遺跡群は1950年代に地元の見玉司農武氏によって発見され、その後、小規模な発掘が行われてきたが、1984年のたかやまスキー場建設に伴う発掘調査が契機となって、黒曜石原産地遺跡として本格的な調査が行われるようになった。

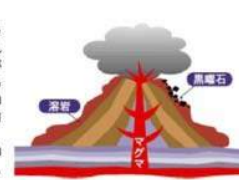
そして、遺跡群の一部からは刃器や槍先尖頭器の製作に関わる遺物が大量に出土するなどこれらの遺跡が原産地という特性を背景として黒曜石の採集から、目的とする石器の量産・搬出を行っていた遺跡である事も確認されました。また、前人未到の森林部全体を対象として、鷹山遺跡群の詳細な分布調査が行われ、星麓峠を中心とした数多くの黒曜石採掘跡である180を超える凹型くぼ地の存在が確認された。

現在 縄文の黒曜石鉱山と呼ばれる星麓峠の遺跡では 峰から虫倉山の急な斜面の中にあるこれら黒曜石の採掘跡の凹型産地の一つ一つに番号札がつけられ、国史跡(黒曜石原産地遺跡)として保存されている。

この星麓峠黒曜石原産地遺跡の成り立ちについては次のように考えられている。

今から数十万年前 鷹山の星麓峠近くには大きな火山の噴火口があり、火道の周囲はマグマが急激に冷やされてできたガラス状の火山岩「黒曜石」の壁が出来ていた。そして、火道の上部が崩れ、大量の土砂とともに黒曜石が鷹山川に堆積。埋もれた川の一部は溜池化する。約2万年前の旧石器時代に人々がこの溜池の周辺に住み、狩をすると共に この鷹山川で土砂が流し出した黒曜石をみつけ、石器に加工しはじめる。また この地の黒曜石が周辺にも伝わり、この黒曜石を取りに行く人達も現れる。 約1万年ほどまえの縄文時代 気候は暖かくなり、周囲に森が発達すると共に気候が穏やかになると山崩れも少なくなり、川に崩れ落ちる黒曜石も少なくなり、縄文の人達は山に登りつづ、黒曜石を掘り始め、それが3500年前頃縄文の終わりまで続く。

この黒曜石は上記のような過程で埋まることから、その原産地は限られ、あたかもこの地が縄文の黒曜石鉱山として、山の斜面のあちこちで大量の黒曜石が掘り出され、その原石や鋭利なナイフ状石器や石鏃 槍先尖頭器などの石器に加工され、糸魚川周辺のヒスイとついでに遠く青森三内丸山遺跡など全国に広がっていった。





中山道 和田峠周辺 峠に和田峠遺跡群の標識が立っていた 2006. 10. 7.



すっかり 秋の装い 紅葉が始まった霧ヶ峰 2006. 10. 7.
 ここにも縄文人の足跡 黒曜石の原産地がある

2. 縄文の黒曜石原産地遺跡 信州鷹山「星糞峠」を訪ねる【Ⅱ】 2007. 9. 6.

縄文の黒曜石鉱山 第1号採掘跡 & 明治大学「黒曜石研究センター」

1. 縄文の黒曜石鉱山 第1号採掘跡



星糞峠から虫倉山の東斜面に広がる雑木林の中一帯が縄文人たちが黒曜石を採掘した縄文の黒曜石鉱山跡で、点々と雑木林の中にある窪地に採掘跡の認識票であるステンレスのポール標識が立てられている。また、足元ではよく見るとキラと黒曜石片が輝いている。黒曜石と言うと「黒い天然ガラス」ということであるが、この星糞峠の黒曜石は透明部が多い。足元の黒曜石を探しながら 探索路に沿って少し登った平地状のところを第一号採掘跡。

この採掘跡は現在も調査中とのことでしたが、青いビニールシートを外し、縄文人の採掘の様子を解説してもらった。



星糞峠 黒曜石原産地遺跡 縄文の黒曜石鉱山 第一号掘削跡遺跡 2007.9.6.

黒曜石は火山噴火で噴出した粘度の高い流紋岩質や安山岩質のマグマが急冷されてガラス質のまま固まったもので、それが火山活動で火砕流と共に山の斜面を駆け下り、火砕流と一緒に堆積している。

したがって、当初は川筋など水で洗われて露出しているものが探されたが、火砕流の白い地層を探しあて、その中に埋まっていた黒曜石を採取したという。

縄文人はそんな火砕流の白い地層を探しあて、黒曜石を採掘したという。そんな掘削跡が窪地となって点々と残っている。

縄文人はすでにそんな知識と技術を有していて この星糞峠が「縄文の黒曜石鉱山」と言われる所以である。

また、この1号採掘跡の白い地層からは、今も 縄文人が採掘し残した黒曜石の塊が採取できるという。

したがって、この星糞峠の黒曜石は拳大ほどで、岩というほど大きくなく、また 品質が均質でよいのが特徴だと聞きました。

開けていただいた縄文の鉤山跡の掘り込まれた穴の底には白い帯状の地層が見えました。また 周りの壁の黒い山土のところも良く観ると層状になっていて、壁断面に糸で丁寧に層区分の印が付けられ、この地層の出土品 層の重なりから この掘削跡の時代検討や掘削回数や掘削範囲などが 調べられているという。



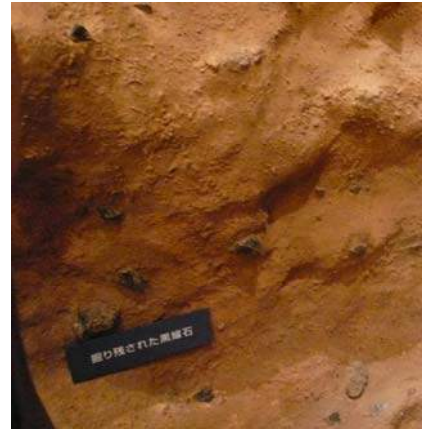
星糞峠 黒曜石原産地遺跡 縄文の黒曜石鉤山 第一号掘削跡遺跡 2007.9.6.
縄文の鉤山跡 壁断面に地層の帯区分を示す糸 底には火砕流の白い地層がみえる

第1号採掘址

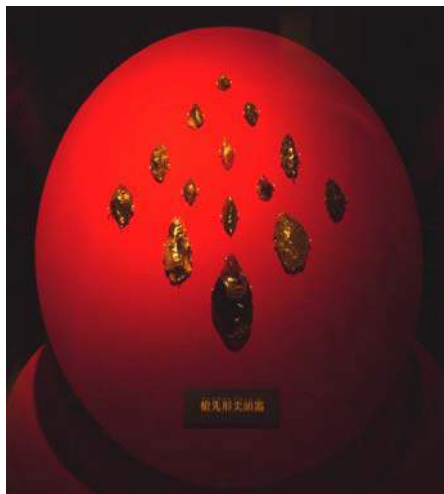
鉤床と竪坑

195個のくぼみは黒曜石の落ちている
跡面と重なるようにして発見されました。
1991年に、そのくぼみの正体を明らかに
しようということで、虫倉山の中腹にある
第1号採掘址が発掘されました。すると、
その地下には、直径3m、深さ3mの井戸
のような穴がたくさん埋もれていることが
わかりました。黒曜石を掘り出した穴で、
竪坑と呼んでいます。この竪坑は、黒曜石
のかたまりが埋もれている白い粘土の鉤床
をわらって掘られていました。竪坑の中や
その両側に掘り捨てられた土の間からは、
縄文人たちが食事づくりに使った3,500
年前（縄文時代前期）の土器が見つ
べられています。

Obsidian



「黒曜石ミュージアム」に展示されている第111号掘削跡 壁剥ぎ取り断面と取り残された黒曜石原石



3. 黒曜石と現代技術「黒曜石パーライト」 「黒曜石」も 現代の材料として 使われている

信州星箕峠黒曜石原産地遺跡を訪ねて 2007.9.6.

By Mutsu Nakanishi

9月6日に縄文の仲間と 昨年10月訪れた信州 長和町の黒曜石原産地遺跡 「星箕峠」を訪ねました。この星箕峠の黒曜石原産地遺跡で研究継続中の明治大学黒曜石研究センターの山科哲氏に遺跡ならびに研究センターを案内してもらいました。その時に 黒曜石の原石が現代の素材原料として「パーライト」という断熱材料製品に加工され、実用されていることを教えていただきました。材料屋の私にとっては 興味津々。



縄文の材料 「サヌカイト」は きれいな音を出す石琴など 現在の楽器に
「蛇紋岩」は 装飾用化粧板としてのしよのほか、
地球温暖化防止技術として、地中での炭酸ガス固定材として 研究されている。
「黒曜石」も 現代の材料として 使われている。

多分 「ガラス パルーン」に加工されるのだろうと思っただけですが、そのときは良く解らずでした。またまた 「縄文が選り」と笑われそうですが、現在に生きる縄文の材料に興味津々で早速調べました。

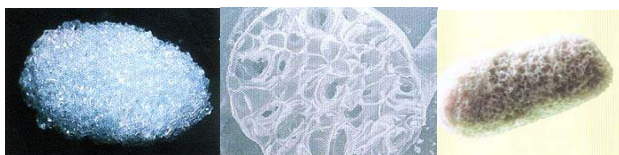
黒曜石は火山で噴出した溶岩が破砕流とともに吹き飛ばされ、急冷されてガラス質・非晶質のまま固まったもの。化学組成上は火山岩の流紋岩（まれにデイサイト）とおなじである。

周りの岩石を溶かし込みながら地中を上昇する溶岩流には 同時に岩石に含まれていた水分が大量に泡となって取り込まれ、黒曜石にはそのままフローズされる。

したがって 黒曜石には大量の微細な泡が含まれており、黒曜石を粉碎して細かくして、800度前後に焼くと黒曜石がやわらかくなって半融状態にすると黒曜石中の泡が膨らみ、微細な球状の気泡を有する多孔質材料が形成される。これが 黒曜石パーライトである。

多孔質ガラスであるので、軽量で 断熱性・耐火性のある優れた材料となる。

推察どおり、「パルーン」でした。



特に黒曜石には非常に微細な気泡が大量に含まれているため、気泡一つ一つが独立の多孔質素材になり、優れた素材となるようです。金属系・有機系の多孔質材料も知っていましたが、無機系の多孔質材料の製造に黒曜石が使われていること初めて知りました。

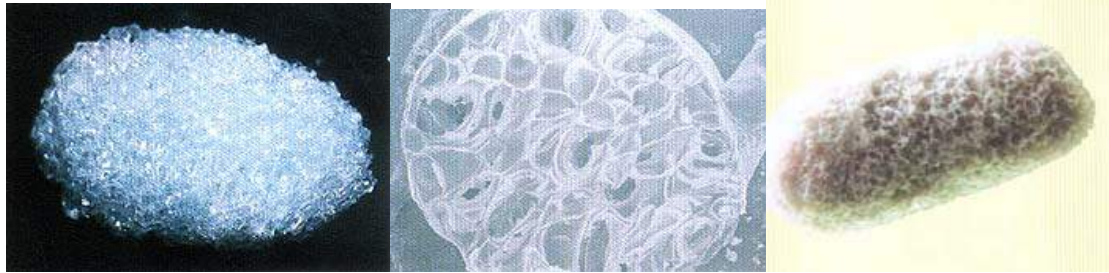
2007.9.8. Mutsu Nakanishi

下記に インターネットで調べた資料添付します。

■ 芙蓉パーライト ホームページ <http://www.fuyo-p.co.jp/paraito/index.html> より

芙蓉パーライトは、世界的に知られる長野県和田峠の良質な黒曜石を採掘、加工し、多くの用途に製品を送り出しています。黒曜石は粘度の高いマグマから生成されるため、冷却する際に水分を放出せずに固結することが多く、そのため高い温度で加熱すると多孔質の軽量素材となります。この素材は、さまざまな形に加工され、建築資材や土木・緑化資材として使

われます。芙蓉パーライトの黒曜石製品は、断熱性、保温性と同時に耐火性（1380℃）に優れた無機質素材です。



ビーナスライト(比重 0.1)

電子顕微鏡による独立気泡

↑ 粒子表面拡大写真

(独立気泡の集合体により形成)

■ 東邦パーライト工業 <http://homepage3.nifty.com/toho-perlite/company/company.htm> より

長野工場 〒386-0701 長野県小県郡和田村 3471 TEL(0268)88-2552 FAX(0268)88-2554

東邦パーライトの特性



名称	形状	径(%)	入数	重量(kg/㎡)	用途
No.3F	粒状	5.0~8.0	66ℓ	6.0~8.0	耐火断熱充填、石油化学タンク、断熱充填、舗道製鋼用、砕砂混合材、押湯保温材、トリペ保温防凍材
No.4F	粒状	4.0~6.0	66ℓ	6.0~7.0	パーライト・ブロック、パネル、耐火ドア、理科学器、乾燥機、断熱充填建築用断熱材
No.5F	粒状	3.2~4.0	66ℓ	6.0~8.0	
No.6F	粒状	2.2~3.2	66ℓ	6.0~8.5	温水ボイラ、石膏ボード、電熱部品、断熱煉瓦、保温鋼板、各種ボード、LNGタンク、LPGタンク、空気分離器、サンドイッチボード、その他
No.7F	粒状	1.8~2.2	33ℓ	4.0~5.0	
No.8F	粒状	1.2~1.8	33ℓ	5.0~6.0	キャストブル、ゴルフ場その他の芝生の育成、球根貯蔵、園芸用、製鋼用保温材、パーライト基材、内外天井壁吹付、その他プレミアムモルタル
No.10F	粒状	0.6~1.2	33ℓ	9.0~11.0	
No.TC	粒状	5.0~25	66ℓ	6.0~9.0	アスファルト防水、化学防水の保護、防水地下、デツヤプレート、キーストンプレート軽量断熱、プレキャストコンクリート人工地盤排水層
No.TM	粒状	0.15~3.5	33ℓ	6.0~7.0	鉄筋コンクリートアパート、パーライトモルタル、天井内外壁のうす断熱断熱
No.KM	粒状	0.15~3.5	66ℓ	7.0~11.0	パーライトコンクリート住宅専用

1 超軽量：非常に軽く、単位容積重量は0.08～0.4Kg/lです。

2 熱に強い：適用温度範囲は1,100～200℃で、熱伝導率は0.03～0.05Kcal/MH℃。耐火性、断熱性にすぐれています。

3 薬品に影響されない：無機ガラス質なので対薬性にすぐれ、変質せず、長期保存しても安全です。

4 すぐれた耐久性：水に対しては表面のみ吸収し、内部にまで吸収しないので長時間でも水に浮いても沈みません。よって湿気の時も断熱性低下の心配がありません。

5 高い吸音効果：気密の高い泡沫上で高い吸音効果があります。

6 中性である：PH7の中性なので、あらゆる物質への影響がありません。

パーライトが生まれるまで

自然が生んだ東邦パーライト

古代より自然の力が生み出してきた天然ガラス。

東邦パーライトはここから生まれます。

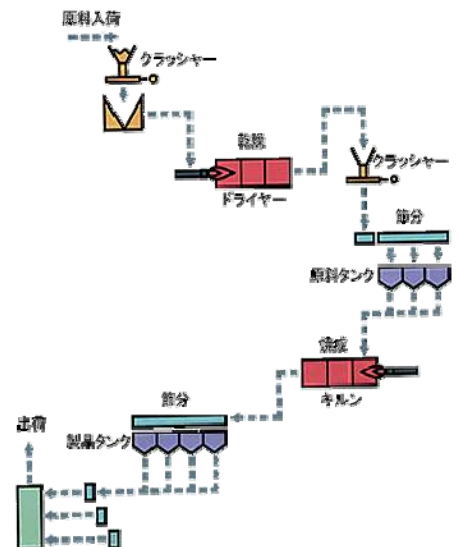
ではその天然ガラスとは、どのようにしてできるのでしょうか？

地球の内部から溶岩が吹き出される時、地下で徐々に冷却されると、結晶ができ、御影石や安山石などの岩石になります。ところが、地球の表面に流出したものが結晶を作る間もなく急冷されると、溶けた時と同じ内部構造のまま固まってしまうことがあります。このようにしてできたものを「固溶体」といい、さらに溶岩の中でも珪酸分の多いものが固溶体を作ると、天然ガラスになるのです。

天然ガラスからパーライトへ

こうしてできた天然ガラスには、黒曜石、真珠石、松脂岩の3種類があります。

これらはいずれも化学成分・組成がよく似ていて、「未発泡パーライト」または「未焼成パーライト」といいます。これらの原石を粉碎して、800℃～1,000℃に加熱すると、発泡して倍数にふくれあがり、粒状または粉状になります。これらを総称し



で「発泡パーライト」または「焼成パーライト」というのです。

なぜ黒曜石が原石？

同じ発泡パーライトでも真珠岩系のものと黒曜石のものとは、外観・性質ともに非常に異なっています。

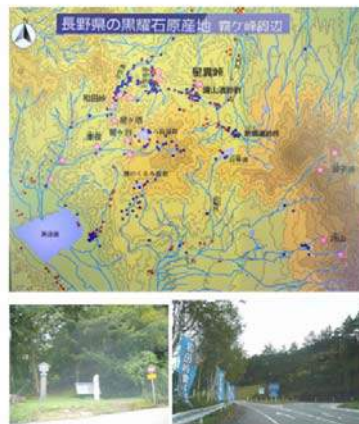
真珠岩系のは連通気泡体で、紛状化しやすく、乾いた海绵状になっています。一方、黒曜石パーライトは、独立気泡体のガラスのシャボン玉の集合体になっています。このシャボン玉の一つは1,00℃の高熱で発泡したものなので、内部は常温の減圧状態になっています。つまり減圧気体の瓶詰めになっていて、これはまさに「ミクロの魔法瓶」。だから、断熱性、耐火性ともに抜群なのです。

優れた耐圧性のヒミンとは？

玉子の殻は薄くても簡単には割れません。それは固い被膜におおわれているからで、このようにセルタイプのもものは外力に対して強い性質をもっています。東邦パーライトもまた、球形をなし、驚くほどの薄いガラス質の被膜におおわれているので、かなりの耐圧性があるのです。しかも集合体として積み重ねられているので、外力をうまく分散し、予想以上の重力に耐えることができるのです。

自然から生まれ、自然を育む

このように3種の天然ガラスの中でもすぐれた特性をもつ黒曜石は、太古の人々にもナイフ・矢じりとして用いられていました。人と自然を結びつける役割として当時から貴重な石だったといえます。東邦パーライトは、その貴重な自然の産物を有効に使い、人と自然との調和のとれた環境づくりを目指しています。都市の緑化を推進し、園芸分野や、産業分野でも幅広い利用価値をもち今後ますますその発展性が期待されています。



球状の黒曜石採り出し跡種識が付けられた産地が奥々と数らばる星賀峠系産地連絡



信州から諏訪へ越える和田峠
和田峠黒曜石産地 2006.10.7.

鉄のモニュメント

長良川にかかる現存最古の近代吊橋「美濃橋」(重要文化財) 岐阜県美濃市



美濃橋 岐阜県美濃市の長良川にかかる人・自転車専用の吊り橋。1916年(大正5年)8月完成
 主塔は鉄筋コンクリート製。床板は木製。橋長：113.0m 支間：116.0m 幅員：3.1m
 橋梁形式：単径間補剛吊橋 所在地：岐阜県美濃市上有知～美濃市前野
 現存する最古の近代吊橋で、2003年(平成15年)に国の重要文化財に指定

長良川の中流 北陸と東海を結ぶ交通の要衝として江戸～明治時代に隆盛を極めた美濃市
 市街地は「うだつ」のあがる美しい町並 国の重要伝統的建築物群保存地区
 市街地の西側 長良川 河畔は今も古い灯台が残る美濃「上有知」の湊
 その河畔に当時の技術の粋を集めた日本最古の鉄製近代つり橋「美濃橋」(1915年大正5年完工)がかかっている。

主塔は鉄筋コンクリート製。

床板は木製。橋長：113.0m 支間：116.0m 幅員：3.1m 橋梁形式：単径間補剛吊橋

所在地：岐阜県美濃市上有知～美濃市前野

現存する最古の近代吊橋で、2003年(平成15年)に国の重要文化財に指定されている。

現在は往時の役割を終え、人・自転車専用の吊り橋となっていて、山の緑をバックに長良川にかかる赤い橋と灯台が素晴らしい景観を作っています。



岐阜から長良川沿いに北東へ約30分ほどのところに「美濃紙」などの物産の集散地として江戸・明治に栄えた古い町がある。東海・美濃から白山を越えて北陸・福井へ抜ける古い街道筋 美濃平野が北の山岳地帯にかかる入口の位置にあり、この奥に「郡上おどり」で有名な郡上八幡がある。

美濃と北陸を結ぶ東海地方横断鉄道建設が悲願で 東海側 日本海側から越美南線・越美南線が延びているが、どちらから、白山を越えて結ぶことが出来ず、越美南線が、第三セクター長良川鉄道となって、美濃太田から 「刃物の関」そして「美濃」・「郡上八幡」を通して、美濃白鳥を結んでいる。

今はこの川沿いを東海・北陸道が美濃白鳥から合掌造りの白川郷を抜けて富山へ結んでいる。
 何度か高速道路を車では越えた道筋ではあるが、一度は鉄道をつないで越えたい道筋。

予備に一枚残していた今年の「夏の青春 18 きっぷ」の期限が、9月10日で切れる。
 さて、何処へ行こうか・・・。

「ちょうど2年ほど不通になっていた高山線も9月6日に開通したところだし、越美南線・北線もつなぎたい。
 東海から北陸へ 一日で 越えられないか・・・。」

調べてみましたが、神戸から 鈍行乗り継ぎでのプランでは難しい。

ふっと 頭に浮かんだのは、友人が以前に奨めてくれた「古い家並みが残る美濃の街」。

「刃物の町 関」もいつも
 飛ばしている街。ここにも立
 ち寄って・・・と

美濃の国の重要伝統建物群
 保存地区の家並と共に、長良
 川に架かる現存する日本最
 古の鉄製近代吊橋「美濃橋」
 が今も現役で働いているの
 を知りました。

町並み そっちのけで、鉄の
 モニュメント「重要文化財
 現存する最古の近代吊橋『美
 濃橋』」を見てきました。



1. 国の重要文化財 現存する最古の近代吊橋長良川に架かる「美濃橋」

山から美濃平野に出てきた長良川が美濃からゆったりと平野部を流れ下る。

街には川湊が開かれ、北陸と東海の中継地として、水運・陸運を利用して物産が集り、街が栄える。

町の繁栄と富をバックに大正5年 当時の先端技術を集め、湊の傍に吊橋がかけられ、川を渡って、北陸への街道が続く。

今は老朽化が進んで、人・自転車専用の吊橋となり、直ぐ上に新美濃橋がかかり、国道が抜けてゆく。

大動脈としての活動を終え 静かな周りの自然に溶け込んだ素晴らしい景観を作り出している。

橋のルーツを知らないとなんでもない観光橋かと思ってしまうような橋ですが、 川面を眺めながらの橋 橋を渡って眺める景色 この景観になくはならぬ橋であり、背後の伝統的建物群の町並みがこの橋で一層浮かび上がって、見えてくる。

鉄のモニュメント 長良川にかかる現存最古の近代吊橋「美濃橋」(重要文化財)

2007.8.16. 美濃市 上栗知

長良川の中流 岐阜と美濃を臨み交通の要衝として江戸～明治時代に繁栄を遂げた美濃市
 市街地は「ふだつ」の形が美しい町並 国の重要伝統的建物群保存地区 河野は中老吉い町台が残る美濃「上栗知」の傍
 での河野に当時の技術の粋を集めた日本最古の鉄製近代吊橋「美濃橋」(1915年大正5年完工)が架かる。
 山の跡をバックに長良川にかかる赤い橋と灯台が素晴らしい景観を作っている



美濃橋 岐阜県美濃市の長良川にかかる人・自転車専用の吊り橋。1916年(大正5年)8月完成
 主塔は鉄筋コンクリート製。床板は木製。 橋長：113.0m 支間：116.0m 幅員：3.1m
 橋梁形式：単塔間橋式吊橋 所在地：岐阜県美濃市上栗知～美濃市河野
 現存する最古の近代吊橋で、2003年(平成15年)に国の重要文化財に指定

2. 「うだつの上がる街 美濃」 国指定 重要伝統的建築物群保存地区

美濃の街には「うだつの上がる街 美濃」として 今売り出し中の古い家並みが そっくりそのまま残っていました。伝統的家並みというと、どこも外見の家並みはあっても 中は観光客相手のみやげ物屋かパビリオンというのが多いのですが、交通の便がよくないためか、まだ 観光客に押し流されず、まだ そっくり生活空間のままで残っていました。もともと ほとんど 概観が化粧直しして 家並みとして整備されていましたが・・・。



重要伝統的建築物群保存地区
「うだつ」のあがる町並み「美濃」
「うだつ」とは、屋根の両端を一段高くして火災の類焼を防ぐために造られた防火壁のこと
交通の要衝地であった美濃
各地から美濃和紙などいろいろな物資が集り、長良川畔の上有知漢から船で岐阜・桑名などへと運ばれた。
町には次第に和紙問屋やいろいろな商売を営むものが増え、商家町として栄えた。
町並みには、江戸～明治時代にかけて造られた商家が軒を連ね、古いたたずまいを見せている。

「うだつ」のあがる町並み「美濃」重要伝統的建築物群保存地区 2007.9.10.



「うだつ」のあがる町並み「美濃」重要伝統的建築物群保存地区 2007.9.10.



「うだつ」のあがる町並み「美濃」重要伝統的建築物群保存地区 2007.9.10.

3. 「縄文人も カミソリをつかっていた????」 関市 「フェザー ミュージアム」で

美濃の一つ手前の街「関」。鎌倉時代の末 この地で始まった刀鍛冶の伝統が今に続く渦の燕・三条と並ぶ「刃物の街」。関鍛冶伝承館・刃物会館があり、素晴らしい関の刃物文化・刃物群が展示されていましたが、私の興味を引いたのは「フェザーカミソリのミュージアム」

石器時代から 現在まで「髭剃り・剃刀の歴史」そして多種多様な「フェザーカミソリ」が展示されていました。

「縄文人も ひげを剃るといふか きっていたのですね」

ひげは手入れしないと 微生物の温床になったり、ひげ掴まれて倒されるなどで 古今東西問わず剃ったり、手入れしてい

たという。そういえば、描かれる「縄文人の顔」には ひげがない。木片の両側に黒曜石などの刃が埋め込まれたヒゲソリが展示されていました。鋼に変わっても 今のヒゲソリと同じ構造。

また、現在のあの薄いフェザーのカミソリ。 本体と刃は一体だと思っていましたが、日本刀と同じく 焼き入れもされ、現在の先端技術 蒸着で両刃の刃がついているのには、ビックリしました。

このカミソリの刃も 「鉄のモニュメント」です。



緑の山々を背景に古い商家の家並が続く街を悠々と長良川が流れ下る。
 川には 鮎の釣り人が点々と続き、真っ赤な吊橋 その傍には 古い川湊の灯台
 ゆったりとした静かな時間が経過
 もう 夏もおわり。
 土手に座って そんなことを感じていました。

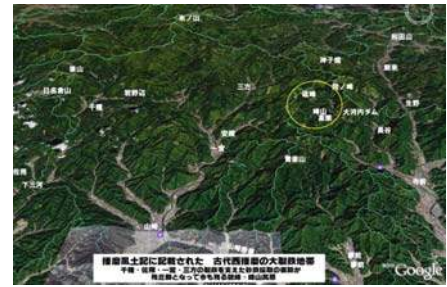
2007.9.10. 岐阜県美濃市 長良川の土手で
 Mutsu Nakanishi



● 初秋の西播磨の山郷 一面ススキが覆いつくす 砥峰高原 2007.10.4.



ススキの大草原 初秋の砥峰 2007.10.4.



初秋 砥峰高原の草花 2007.10.4.

以前から気になっていた 兵庫県西播磨福崎の北の中国山地の一角 峰山高原・砥峰高原。

東側を市川 西側を揖保川が流れ下る山並みで、この山中から西側へ吉備につながる中国山地は播磨風土記に記載された西播磨の大製鉄地帯である。後年 この山並みの中にある砂鉄採取のため山を切り崩したため、山中に 稜線からカール状に切れ落ちたすり鉢状地形の中に残丘が点在する素晴らしい景観を形成。そして、秋にはススキが全体を覆う素晴らしい草原を形成すると・・・。

何度か この一帯の山越えをしたことはあるのですが、それらを意識したことはなく、今年はその残丘と西日本一と呼ばれるススキの原を見に行こうと・・・。

10月の声を聞いて すずぎが咲き出したと聞いて 家内と二人ででかけました。

この山に入る谷には かつて高級水圧鉄管と溶接技術開発の仕事で名を知る関西電力の揚水発電所大河内ダム湖の横を通過、砥峰高原へ入ってゆく。下の谷間の集落の畦には真っ赤なマンジュシャゲが周囲の山々の緑とよくマッチして、秋を演出。

登りきって目にした砥峰高原 これは信州アルプスで見た氷河が削り取ったカール地形そのもの そんなならかなすり鉢状の草原に ちょっと早かったですが、ススキが一面を覆っていました。

また、草原の中を歩く足元には 清楚な秋の草花 リンドウ センブリ ツリガネニンジン ウメバチソウを見つけました。

ここの景観が人工の技か??? ともう自然の中に溶け込んだ素晴らしい景色ですが、尾根筋から山を切り崩し、谷を土砂で埋め尽くしながら砂鉄を採取した跡だという。砂鉄採取にともなう鉱物が作物の生育を妨げたため、耕作ができず、そのまま草原として残されたため、この景観が残ったという。



ススキの大草原 初秋の砥峰高原 2007.10.4.

氷河で削られたカール状地形の中に残丘が残る独特の地形 砥峰高原にススキの原が一面に広がっていました



赤いマンジュシャゲが集落の道をいろどる神崎町大河内集落と川上集落の上大河内ダム
 ここは播磨風土記に記された西播磨の古代からの製鉄地帯たたら製鉄の砂鉄採取場
 山を切り崩した痕跡が 素晴らしい景観を生み出した 和鉄のモニュメントでもある

● 奥出雲雲南市掛合町へ

たたら街道の名の通り 松江道の工事現場から 次々と製鉄遺跡が出土 2007.10.13.

今奥出雲 松江道の工事現場から たたら街道の名の通り 次々と製鉄遺跡が見つかっています
 今松江から奥出雲 掛合町 吉田村を通過して三次へ抜ける高速道路「松江道」の工事の真っ最中。
 この地は中国山地奥出雲 たたら街道と呼ばれるたたら製鉄の中心地 工事で続々とたたら製鉄跡が見つかっている。
 今回は中世の製鉄炉が4基も集積して見つかった大志戸たたら製鉄遺跡の現地説明会があると教えてもらって、工事がすすんでいる周辺のたたら遺跡をふくめ、見学してきました。本当に山深い里に西日本各地のナンバーが並び、100名を越す見学者 同好の人が多いのにびっくりしました。 まだ きっちりとまとめていませんが、おいおい纏めます。



奥出雲 雲南市 大志戸たたら遺跡現地説明会で 2007.10.13.

奥出雲 松江道の工事現場から たたら街道の名の通り 次々と製鉄遺跡が見つかっている



● 久しぶりに夜の船で四国 松山へ 2007.10.26-28.

愛媛大学で「中国西南地域の鉄から古代東アジアの歴史を探る」シンポジウムのお誘いを受けて、26日の夜神戸からサンフラワーに乗って松山へ行ってきました。久しぶりのサンフラワー。

夜明け前の瀬戸内海 道後温泉にも入って シンポジウムに出かけました。翌日 松山を走るバス「砥部・断層口行」の行き先表示に魅かれて 松山の南の焼物の街 砥部へ。四国を東西に縦断する中央構造線の西の出口に砥部があたっており、その砥部の街はずれ 河にクロスして、その中央構造線の断層が露出しているのが見られる場所があり、そこを「断層口」という。行って見るまで知りませんでした。

また、山口の田中さんの故郷 砥部は山裾に広がる磁器の街 山の尾根筋にへばりつくように幾つもの窯元が並ぶ静かな町。本通の道脇には砥部で焼かれた磁器の作品がモニュメントとして 点々と並べられていました。



神戸から四国松山へ 瀬戸内海の船で 2007.10.26.夜



久しぶりの道後温泉と松山城 2007.11.28.



愛媛県磁器の街 砥部

右上: 松山の直ぐ南に位置する山すその街

右下: 砥部の街と地面に露出した断層(中央構造線の大変動の痕跡)

● **山口県美祢市の夜明けの朝霧** 2007.11.9.

中国山地の山中の盆地の美祢 朝の冷え込みで発生する厚狭川が作り出す雲海を期待して 日が昇る前に置きだしましたが、地球温暖化の昨今盆地一面を多し尽くす雲海は見られませんでした、朝霞みが盆地の山々を包み込み、素晴らしい夜明けの景色をつくりだしていました。



山口県美祢市 夜明けの朝霞 2007. 11. 9.
国道 316 美祢市雲海公園より

● **神戸でも 今 紅葉の真っ最中** 2007. 11. 26.

神戸の街でも 今 街の木々 バックの山々が真っ赤に色づいています



神戸 県庁前 相楽園で 2007. 11. 26.

日本三彦山の一つ 越後 弥彦山 Walk 2007. 5. 16.

古代の鉄の国「越」 越後 弥彦山に鍛冶神の痕跡を探して



1. 日本三彦山の一つ 越後 弥彦山 Walk
2. 越後平野の不思議な地形 謎の越後平野 (資料)
3. 弥彦山と鍛冶神伝承 (資料)

日本三彦山の一つ 越後平野の稲穂の中にぽっかり浮かぶ信仰の山「弥彦山」

越後平野の稲穂の中にぽっかりと浮かぶ弥彦山 標高 638m と低いのですが、越後平野の海岸に立ち、越後平野や海のどこからでも見える山で古くから信仰を集めた山である。隣の峰続き多宝山・634mと双耳の峰を有する独立峰で、深田久弥著「日本百名山」は「山 高さをもって尊しとせず。だが、ある程度の高さが無くては、私の指す山のカテゴリーには入らない。例えば、越後の弥彦山や、京都の比叡山や、豊後の英彦山など、昔から聞こえた名山には違いないが、あまりに背が低すぎる」とあとがきで書いている。

また、九州の英彦山 播磨の雪彦山とあわせて「日本三彦山」と呼ばれ、これらの山の周辺では古代から金属を求めて「山師」が山中に分け入り、金属採掘・精錬 特に「銅」と関連が深い。弥彦山にも銅を採掘した跡(北側の多宝山山麓の間瀬銅山など)や数多くの鍛冶関連伝説が残され、弥彦山「弥彦の神」は鍛冶と関連した神(谷川健三著「鍛冶場の母」など)といわれる。



ゆっくりと一度は歩いてみたい山でしたが、やっと実現です。

5月15日 柏崎に出土した古代の製鉄コンビナート軽井川南製鉄遺跡群を見て、JR長岡駅前のビジネスホテルに泊まる。

長岡に泊まっておれば、簡単に行けると思っていたのですが、大間違い。車でないと厳しく、昔から頭にあった「新潟県の交通網の不思議」を思い出しました。

北陸から苦勞して海岸線を通ってきた汽車は 広大な越後平野を目前に、柏崎で90度 内陸側に折れ曲がって、しかも内陸側の越後平野の縁の山裾を走る。

また、さほど遠くない海岸にも越後線が走り、おまけに、新潟市へは新津から盲腸線ではいる。北陸や東京から東北へ向かう北の特急は新津からそのまま北へ向かい、新潟には入らない。

東京-新潟を結ぶ上越新幹線も 後から出来た為でしょうが、越後平野の長岡にはい



ると、今までの鉄道網を無視するかのように まっすぐ新潟へ越後平野の中央を横切っていくのである。
燕・三条駅など電車に乗り換えようとすると大変です。

(なお、燕・三条は 自動車道網では北陸自動車道が通り、非常に便利がいい。
まさに古い鉄道網から 一新幹線・自動車道の体系に組替えられているのが新潟です。)

「何でこんな不思議が・・・」と思うのですが、昨今 衛星写真が発達して、空から見る地形図見ると実に面白い。越後平野をその衛星写真で見ると実に不思議な地形が次々と見えてくる。

弥彦山の山塊もなぜか 広大な平野の中、本当に狭い幅で日本海沿岸にへばりついて、山地が延びている。
また、信濃川が海岸への出口を求めて、越後平野をのた打ち回って流れるさまも面白い。
新潟の地形の成り立ちを知らないと本当に不思議なところ。
今回 私の知らなかった疑問を少し調べましたので、別項でお話します。



新潟の地形

南西から北東へ 平行に並ぶ丘陵・山地の間を
のたうち回って流れ下る信濃川・阿賀野川が一つになって越後平野を作っている

柏崎の北 越後・東頸城丘陵の不思議な地形 右端は信濃川

越後の地形は 海岸・平野・山地いずれも南西から北東に流れ、川を中心とした末広りの平野でない。

衛星写真で見ると信濃川も新潟市が河口 のた打ち回っていますが、河口の幅は小さく、広い川幅を持つ阿賀野川とは対照的。

柏崎の北の海岸にへばりつく越後・東頸城丘陵にみる魚の骨のような不思議な地形。この中を越後線が走る

衛星写真に見る越後の不思議な地形と交通網

弥彦山の上からそんな不思議な地形がどうみえるのか????

ちょうど 米どころ新潟は田植えの季節 水田に水が入り、広大な越後平野全体が海となって、きらきら太陽に輝く姿がみられるだろうか????

また、弥彦山と古代の「銅」の関係は日本三彦山の関係から解るのですが、古代鉄の国「越」で、その越後で本当に古代「鉄」の痕跡が見つかるのだろうか????

イメージをいっぱい膨らませての 日本三彦山のひとつ 弥彦山への walk

標高 638mの低い山でしたが、気持ちのよい新緑の山歩き。しかも さえぎるもののない360度の素晴らしい展望。古代越の国に思いをめぐらせながらの楽しい walk でした。

また、「越後は筒石 親不知 ひゆるり～ ひゆるり～ 風が吹くだけ(倍賞千恵子が歌う NHK 深夜便「冬のたび」)」のメロディーと中越大地震の被災の様子が頭をよぎっていましたが、それらが、大古から背負ってきた越後の自然との戦いの歴史であり、土地の人たちの語り、教えて抱いた明るい姿にも ほっとした旅でもありました。

1. 日本三彦山の一つ 越後 弥彦山 walk

5月16日朝 快晴 眠気まなこで5時39分発新潟行の普通電車に乗る。東三条で弥彦線に乗り換えて弥彦まで1時間。この電車を逃すと次は弥彦に着くのがずっと後になる。新幹線で燕・三条駅に出る方法もありますが、時間的には差がなく、やっぱり、弥彦線に乗らねばならない。長岡から斜めに越後平野を横切れれば早いのですが、そんな便利なバスもなし。

朝が早いので、車内にはほとんど人影なし。車窓からは左手に上越から奥只見の山がうっすらかす、反対側の車窓からは田園風景の向うに弥彦山が双耳の峰を見せている。双耳の峰の左が弥彦山 右が多宝山 そして、一番左端のずっと低い山が国上山 いずれも古くからの弥彦信仰の山々 これらを総称して弥彦山と呼ばれることもある。この山塊の右 新潟市に近いところにもうひとつ春の花の山角田山が弥彦に重なって見えている。



日本三彦山の一つなので、もっと荒々

しい男性的な山かと思っていましたが、関東平野に浮かんで見える筑波山と同じ感じである。東三条で乗り換え、市街地を抜け、信濃川をわたると、まっすぐ正面の弥彦山に近づいてゆく。

三条・燕の市街地を抜けるとまたのどかな田園地帯。ゆったりとした気分で ついつい眠りこけて、ふっと車窓を見ると大きな赤い鳥居が家並みの中に見え、赤く柱が塗られた駅舎が見え、寝ぼけて反射的に飛び降りる。

弥彦駅の一つ手前の無人の「矢作駅」でした。



弥彦線矢作

英彦山神社の赤い鳥居が見える

まだ、「朝は早いし、歩いて弥彦の街へ入るのもいい」と田園地帯の中、まっすぐ弥彦山へ向かう街道を歩きだす。山が低いこともあるのですが、弥彦の山は田園地帯からいきなり、弥彦山がそびえている。



弥彦の一つ手前 矢作の集落から弥彦への街道が まっすぐに田園地帯の中を伸びている

正面左手手の峰が弥彦山 その右にロープウェイの駅も見える

30分ほど歩いて、小さな坂を越えると弥彦の街。

弥彦山山麓の傾斜地縁に包まれた弥彦の街が広がっている。

「弥彦の神」を祭る弥彦神社の門前町であると共に、弥彦温泉の街。弥彦山が古い火山であることを思い起こしてくれる。旅館や土産物屋などが並ぶ中心街の坂道がまっすぐ山へ向かって伸びている。

朝が早いのとシーズンオフでほとんど人影なし。もっとケバケバした街かと思っていましたが、落ち着いた静かな門前町。弥彦神社への街道筋をそれて、JR弥彦駅にゆく。雑誌やTVで何度も見た印象の強い赤い神社建築の駅舎。この赤に寝ぼけてしまったのである。街道筋に立ち並ぶ観光地の家並みを眺めながら、弥彦神社へ坂道を登る。



弥彦の街への入り口 2007.5.16.

弥彦山の頂上には弥彦神社の奥社があり、弥彦神社の奥から登山道がついている。また、ロープウェイも同じである。今日はできれば、糸魚川まで行きたいので、登山道を登って 帰りはロープウェイのWALK計画

ふと道際の料理屋の軒先を見ると腹を開いた「鮭」が何本も軒先にぶら下がっている。岸田劉生の「鮭」の絵はもっと北の村上市であるが、まったく同じ光景である。そういえば、昨日夜 入った郷土料理の店でも 鮭そしていくらが出て来て、「なんでやねん」と思っていました。越後の川には鮭が遡上し、確か信濃川の上流 長野県の千曲川に鮭を呼び戻す。

運動をしている市民グループの話を読んだ記憶がある。関西では見られぬ景色でした。

■ 早朝静かな街を弥彦神社へ

まだ、人気の少ない街中を弥彦野山にまっすぐ近づいてゆき、弥彦神社への案内 板にしたがって、右へ折れると正面に赤い鳥居が見えてくると弥彦神社の入り口の正面 位置の鳥居前。 鳥居に「弥彦神社」の金文字の額があがり、背後には 緑の森が広がって、そのコントラストが美しい。



JR弥彦駅



弥彦神社への広い道路



料理屋の軒先につるされた鮭



弥彦神社 一の鳥居前の家並み

弥彦神社の赤い鳥居をくぐると 緑に包まれた静寂の世界。

石畳の参道の向うに社殿に向かう。まっすぐに立ち並ぶ杉林の中 右に折れて石の二の鳥居をくぐると綺麗な随神門がみえ、弥彦山を背に門の奥に拝殿の姿が見える。随神門をくぐると正面に堂々とした拝殿が見え、その後ろ左手に奥宮のある弥彦山の頂上がみえる。弥彦山は双耳峰であり、この山全体が信仰の対象だったのであろう。拝殿・社殿はこの双耳峰の山を正面から拝むようになっている。

この弥彦神社の創建年代は詳でないが、社記によると和銅4年（711年）、詔により神域を拡げ社殿を造営し、延喜式に名神大社と記されている。祭神は金属精錬と関係の深い天香山命で、越後国開拓の詔を受け、越後国の野積の浜（現長岡市）に上陸し、地元民に漁労や製塩、稲作、養蚕などの産業を教えたといわれ、越後の国を造った神として弥彦山に祀られ、「伊夜比古神(弥彦神)」と呼ばれて崇敬を受けている。





本殿に向かう杉林の中の参道



舞殿



随神門



弥彦神社 拝殿と背後 弥彦神社の神域弥彦山 2007. 5. 16.

左弥彦山頂上に奥宮がある 弥彦山は双耳峰であり、この山全体が信仰の対象だったのだろう。

拝殿・社殿はこの双耳峰の山を正面から拝むようになっている。



「弥彦の神」伝承（整理）

弥彦の神は遠く海より、弥彦の海岸 野種の浜に上陸して
漁労や製塩、稲作、養蚕などの産業を教えたといわれ、
越後の国を造った神として弥彦山に祀られる。
「伊夜止古神」と呼ばれて崇拝を受けている。
また、「弥彦の神」は片目との伝承が周辺に広くあり、
弥彦山から 銅などの鉱物資源が出ることから、
弥彦の神は 海を渡ってきた鉱物集団の神(鉱冶神)とも考えられている。
また、大山山 酒香童子の生まれが弥彦といわれ、
弥彦伝説、弥彦三郎(観治場の母)伝承など多くの鉱冶伝承がある

「弥彦神」を祭る弥彦神社の祭神は天香山命で
父鳥羽織・観冶と関係深い古代の物部氏・尾張氏の始祖祖につながる。
後年 銅など変質銅と関係深いことから祭神とされたといわれる。

参考 谷川健二「観治場の母」ほかより
藤田治雄 雑誌『高山』に発表報告より
(Kiichi Seitoさんの「観治場の母」の巻末の巻末に弥彦神社より)

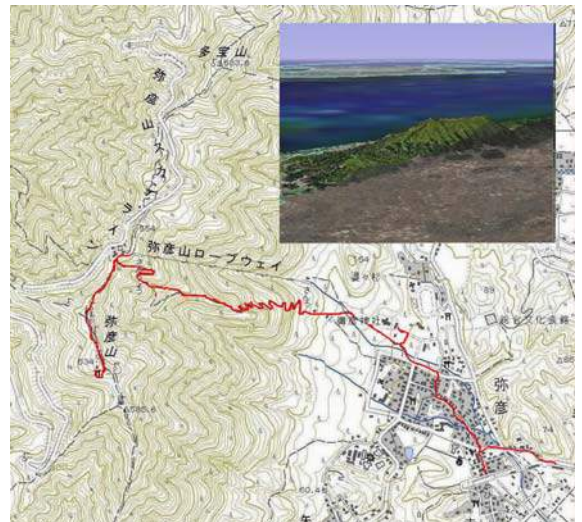
弥彦神社の由来と弥彦神伝

■ 弥彦山の頂上へ

弥彦神社の拝殿のすぐ横から神社を抜けて左手の林の中に入ったところから、弥彦山山頂まで約1時間 良く整備された登山道が続いている。

奥社のある山頂への参道でもあり、石の鳥居と赤い神橋がかかっている。山頂に向かって登山道が続く。すぐ右手北側の谷筋にロープウェイがかかっている。

地図で見るとまっすぐ尾根筋をつづら俺の道が続いてロープウェイの駅の横の稜線に出る高度差約500mの登りである。





弥彦山への登山口周辺 頂上に弥彦神社の奥社への参道で9合目まで標識が整備されている

入り口からすぐに林の中の急な登りが続くが、先がわかっているのも、気楽なものである。

ジグザクの上り坂が続くが、淡い新緑の緑が心地よい。

時折、木々の間から、ちらちらと眼下に広がる越後平野の水田が輝いている。

登りだして 30分ほどで4合目を過ぎ、五合目に差し掛かると、頂上部の稜線にあるロープウェイの駅の辺りが見え、ロープウェイのかかっている谷のすぐ横の尾根を登って、やっと半分か。



弥彦山 登山道の緑 2007.5.16.

林の中の斜面を抜け、尾根筋に出たところに石の鳥居があり、道は尾根を越えて、反対側に巻き道になって、少し下っている。ここが五合目。見ると尾根筋にロープが張られ、尾根通しを待つすぐ上って行くルートもある。参道はどうも随分下ってから巻き道になっているようなので、ちょっと 昔の荒々しい山道も味わいたいとそのまま、直登の尾根通しに行く。

ロープを便りの岩を乗り越え、乗り越えのルートでしたが、眼下に越後平野を眺められ、20分ほどで左手からの巻き道と合流して、程なく9合目の標識のある稜線に出た。



五合目の上周辺から見る越後平野 2007.5.15.



丁度双耳の峰の間で、左へ行くと弥彦山 右側は ロープウェイの山頂駅から多宝山へと続く稜線の道。ここで、初めて日本海側が見える。ロープウェイ駅までもどるが、海を隔てて 西側に浮く佐渡は残念ながら、うっすらと島影が見えるのみで、よく見えませんでした。



稜線へ登りきった9合目



弥彦山 稜線から見た日本海側 海の向うにうっすら佐渡
海岸沿いの砂浜は 田ノ浦・間瀬へと続く海岸
この周辺山腹からは銅が出たところ



南側の峰 弥彦山



日本海 佐渡遠望



北側の峰 多宝山

ロープウェイ山頂駅のある山頂公園で

弥彦山がここでそのまま西の海に没しているのが見える。南側にはアンテナの乱立する弥彦山 そして、北側にはきれいな円錐状の多宝山が見え、日本海側の山腹を縫って登ってきたドライブウェイも見える。

見下ろす海岸沿いは 銅など鉱物資源が採掘・精錬に携わった精錬鍛冶集団が海を渡ってきたところで、この弥彦山が「弥彦の神」と崇敬される数々の伝承を持つところ。古代数多くの山師たちがこの山中を渡り歩いたろう。



山上公園から弥彦山頂上へ
弥彦山の頂上部には アンテナが乱立
ここが越後の中心であることを示す

山頂公園から、南へ引き返して 弥彦山山頂へ向かう。アンテナが乱立する弥彦山の頂上部 二つほどコブを乗り越え、ぱっと視界が開けたところが、南の端 弥彦山の頂上で、弥彦神社の奥社が祭られている。

そばに社務所がある鳥居をくぐり 石段をあがるとそこが狭い峰の頂で、右手に弥彦神社の奥社が祭られ、左手の狭い広場からは、越後平野から日本海が展望できる。

まっ青な空に青い海と緑の山 そして キラキラと太陽にきらめく越後平野のモザイク模様 素晴らしい景色が広がっていました。

弥彦の街から頂上まで約 1時間の walk。 眼下には今登ってきた弥彦の集落 そして 越後平野をのたうつ信濃川 季節によっては能登半島まで見えるという南には 柏崎米山をバックに出雲崎の狭い白砂の浜にへばりつく越後丘陵。そして、海には佐渡へ向かう高速船が白いラインを描いていました。

丘陵地の緑の帯を断ち切る信濃川の放水路が寺泊海岸へ抜け、弥彦から続く酒天童子の故郷 国上山。その海岸は「弥彦の神」が海を渡って 上陸したという野積の海岸。

これら越後平野の縁には 南海岸の柏崎米山から北へ 信州・上越の山々 越後三山から奥只見の山々 そして 飯豊の山々がぐるりと取り囲んで 遠く霞んでいる。

ずっと座っていても飽きない景色でした。



弥彦山頂上 弥彦神社 奥社

■ 越後平野展望

弥彦山からの展望(1)

南側海岸沿い 雨乞い山・国上山と続き、その奥に越後丘陵が海岸沿いを柏崎へと続く・右手 越後平野長岡周辺



越後平野 分水町周辺 信濃川が右中央で放水路を分岐



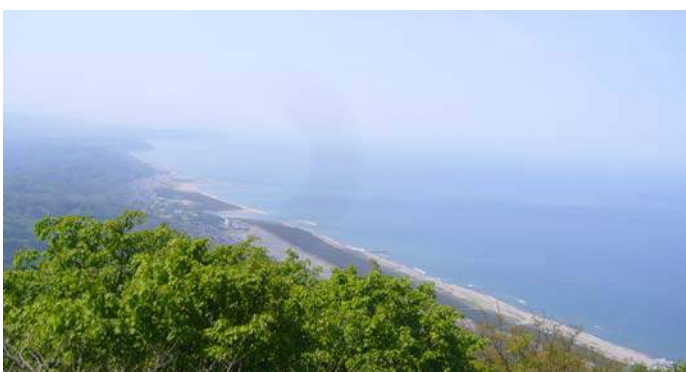
信濃川放水路河口 寺泊

弥彦山からの展望(2) 中央眼下 岩室・弥彦から燕三条方面



弥彦山の下に広がる越後平野の水田群 岩室周辺

弥彦山からの展望(3) 日本海



寺泊から野積の海岸



佐渡島 遠望

広大な越後平野が弥彦の向うに広がっていました。

残念ながら 佐渡島 そして 反対の内陸部 越後平野の向うにそびえる飯豊・奥只見・越後三山・上越の山々はうっすら霞んでいましたが、越後平野の水田に水が入り、太陽に照り輝いて 素晴らしい光景でした。

奥宮の社務所につめておられる神主さんによると、この時期 越後平野に水が入ると その水蒸気で周辺の山が霞んでしまうと聞きました。

また、衛星写真や地図で気になっていた弥彦山周辺 越後平野・海岸の地形。やっぱり、この山地をぶち抜いて流れる場所はなさそう。丘陵地ではない火山の地形・断層隆起の地形なのでしょうか 山は低いのですが、急峻な山が平野部からダイレクトに海岸に立ち上がり、そのまま海岸に落ち込んでいます。

南側の越後丘陵から北のこの弥彦山塊と海岸沿いに並ぶ山々が壁となって 海岸への流れ下る川を阻み、内陸部の現在の越後平野の中を流れ下る信濃川に合流しつつ、大河がのた打ち回りながら流れ下ったことが良くわかる。

本当に起伏の少ない広大な平野が内陸側に広がっているのが見えます。また、流れ下ってきた信濃川は唯一海岸へ出られそうな幅の狭い山地の切れ目がある分水町で人工的に海岸部に向かって 掘りぬかれた直角に放水路で、寺泊海岸に流されているのが、頂上からくっきりと見えました。

寺泊の南の海岸沿いを走る越後丘陵に見えるあの「魚の骨状に幾筋にも平行に広がる枝谷」どうなっているのか???? 興味津々でしたが、これも本当でした。



柏崎の北 越後・東頸城丘陵の不思議な地形 右端は信濃川

丘陵地の真ん中背骨の平地が南北に走り、その両側に幾重にも重なり合って、丘陵地が並んでいるのが見えました。

泥岩を主とする山に刻まれた枝谷がこの正体。

海の中で長く眠っていたホッサマグナの大地溝帯が地殻変動で隆起し、褶曲・断層の繰り返しの中で出来た南西から北東に伸びる幅の狭い泥岩質の山地に雨水の流れが刻んだすさまじい模様でした。



弥彦山は日本三彦山と呼ばれるほかの二つの英彦山・雪彦山が、修験の山として険しい山であるのとはちょっと違う感じの山でしたが、広大な越後平野の真ん中に立つ独立峰。しかもその周囲の越後平野は氾濫を繰り返す大河と泥の湿地だったという。そして、低山ながらそこで、深山と同じように鉱物資源が発見され、この山を目指して 海も渡った鍛冶集団がいた。

天変地異の中 どこに居ても常に変わらず堂々と立つ姿に崇敬を抱いたと考えられ、その念は日本三彦山のほかの山とも変わらない。

また 海を渡ってきたものにとっては、海岸にぽっかり浮かぶ様はすごい山と写ったことでしょう。

帰りは もう一度 山上公園に戻って そこから ロープウェイで、越後平野を見ながら山を降りる。

越後三山を含め、数々の名山 が越後平野周囲を飾っていますが、この頂上からの風景 この広大な越後平野の中央にどっしりと浮く様は、その周辺の地形のすさまじさも含め、越後平野の盟主にふさわしい。

「弥彦神」が居ます弥彦山はやっぱり存在感のある山 日本三彦山に数えられる所以と納得です。

古代 鉄の国「越」 その盟主 弥彦山 今回の walk で はっきり鉄の道の痕跡を見つけられませんでした。が、数々の製鉄関連伝承のあることを知りました。また、越後平野のすぐ隣 柏崎では古代の 日本海側では かつて見られぬ大規模な古代の製鉄コンビナートが発掘されました。 今後 さらに 越後の鉄が日本文化に与えた影響 越後の和鉄の道が見えてくるものとイメージを膨らませています。

佐渡 そして 内陸側越後平野の向うにくっきりと浮く山並みはみられませんでした。が、念願の弥彦に上って、満足感で一杯。 ロープウェイからの広大な越後平野を眺めながら降りてきました。

フォッサマグナ帯の山と言うと日本アルプス の山々を考えますが、今回調べていて、この越後平野がすっぽりそのままフォッサマグナ帯に収まっていること、弥彦山がその中の活動で生まれた山であること をはじめて知りました。

中越地震もそんな活動のひとつだったのでしょう。 厳しい試練。

でも、自然変化の厳しい越後平野の厳しさを長年に わたり克服してきた新潟。

中越地震に立ち向かってきた話を語られるのをあちこちで聞くことが出来、気持ち的にほっとしています。

早く立ち直ってほしいと願っています。

2007. 5. 16. 昼 弥彦のロープウェイから 越後平野を眺めながら

Mutsu Nakanishi



2. 越後平野の不思議な地形 謎の越後平野 (資料)

■ 不思議な地形 謎の越後平野



越後 広大な平野が新潟を中心に海岸に沿って広がる日本有数の米どころ
そして そんな平野部の中 島のように浮かぶ弥彦山
これが関西にいるわたしたちの新潟のイメージ

でも 昔から 頭に残る腑に落ちないことがある。

苦勞して糸魚川・直江津と海岸沿いを走る汽車が越後平野にかかる柏崎で突如 海岸を離れ、内陸を海岸に平行に走り、そんなに離れていない海岸にも、もう一本線路が走る。しかもどちらも 新潟で合流して、新潟は盲腸線でつながれ、本線は北へすり抜けてゆく。トワイライトエクスプレスなど日本海側を走り抜ける特急は新潟に入らないという。これらの日本の平行に走る線路の間を上越新幹線が新潟へ突き進む。途中 燕・三条なる駅が2本の鉄道を結ぶようにある。東西に伸びる越後平野の中 交通網は本当に不思議なのである。

また、新潟は北の会津から流れ下る阿賀野川そして 信州から流れ下る信濃川の河口と思っていましたが、信濃川は新潟では狭くなってしまっ、むしろ 寺泊海岸へ付けられた放水路へ抜ける。これもイメージが違う。

そして、衛星写真で見つけた弥彦山の南の海岸に沿って伸びる低い丘陵地・越後丘陵のまるで魚の体の骨のような地形。もう 不思議でいっぱいである。これは 何なのか…… 僕が知らないだけなのか……

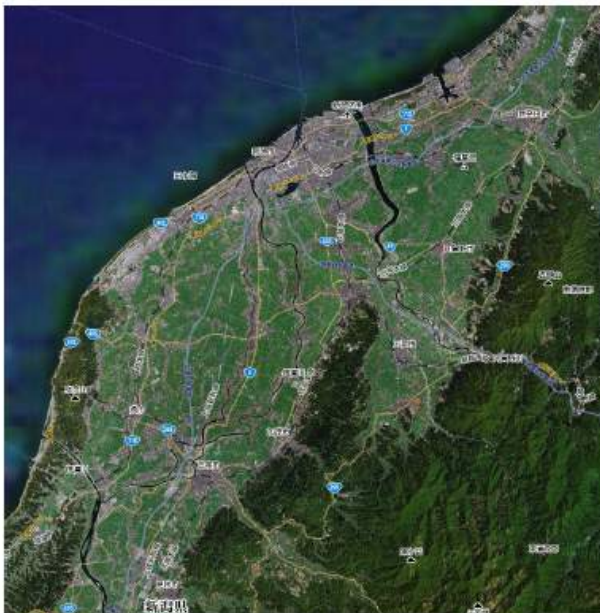
弥彦山に登れば 何か解るだろう。また 弥彦山は日本3彦山の一つで、古くからの信仰の山で、「彦山」と言う金属精錬とりわけ銅と関係が深いといわれているが、この平野部に鉄の痕跡はあるのだろうか??? これも 知りたい。

上 越後平野稲穂の海に浮かぶ弥彦山
中 寺泊周辺
南から流れてきた信濃川は90度方向を変えて、放水路へ
下 寺泊海岸 海岸に伸びる丘陵地の特異な姿

日本の大地溝帯「ホッサマグナ」上に堆積した泥岩質褶曲地を刻む暴れ川と海岸の波が広大な低地・越後平野を作った

不思議な地形の新潟・越後平野 そんな越後平野の海岸にほっそり 弥彦山がある

1. 広大な越後平野が広がる新潟 その新潟への鉄道はなぜか 内陸の新津を經由した盲腸線 なぜだろう
 - 親不知の難所を克服して海岸を走ってきた鉄路がなぜか 越後平野に入る柏崎で90度曲がって内陸へ
 - 鉄道は広大な越後平野の中を避け、内陸の山際を走りぬける
 - 海岸に暴状に広がるのでなく 海岸に斜めに並ぶ3つの丘陵地に挟まれた内陸深くに広がった特異な平野
2. 柏崎北 海岸沿い丘陵には 兎のあばら骨状の不思議な形で無数の谷が刻まれている こんな不思議な地形 見たことなし



新潟の地形

南西から北東へ 平行に並ぶ丘陵・山地の間を
のたうって流れ下る信濃川・阿賀野川が一つになって越後平野を作っている



柏崎の北 越後・東頸城丘陵の不思議な地形 右端は信濃川

■ 新潟の地形の成り立ち

越後平野はそっくりそのまま日本の大地溝帯「フォッサマグナ」の上にある

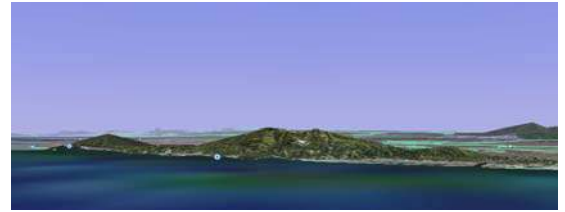
これらの話が示すとおり、現在の越後平野はすっぽり、フォッサマグナ・日本の大地溝帯の中に収まっており、このフォッサマグナ帯が海底にあった時代に、泥や火山堆積物がつみかさねられ、それらが その後の造山活動で隆起・褶曲・断層作用で地溝帯の中に複雑な幾筋もの褶曲山脈が出来た。そして、それらの間を流れ下る川と海岸の潮流によるラングーン形成により、内陸部では扇状地・氾濫原が山の間を埋め、海岸近くで広大な低湿地と潟が形成された。

特に越後平野の海岸部に沿って越後丘陵と弥彦山地が、流れ下る幾筋もの川が海岸に流れ出るのを阻んだため、内陸部に広がる広大な氾濫原・低湿地を形成した。

また これら泥岩質の山地・丘陵地には数々の断層が複雑に走り、雨によりその泥岩層がけづられ、複雑な枝谷を形成しつ つ、泥を低湿地まで運んでいった。

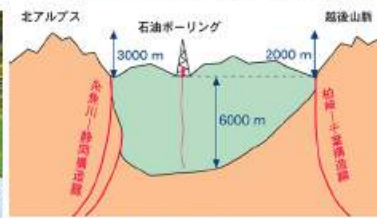
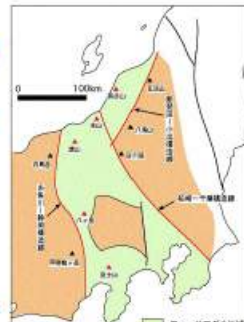
したがって、越後平野の中流から下流部にかけての中央部は常に変化する泥質層であり、中央部はのたうつ信濃川が流れ下り、交通網はおのづから中央部をさけ、山裾を通ることになる。

そして、特に信濃川河口の新潟周辺はその名 が示すとおり、海岸を砂州で閉じられた低湿地であり、交通路も制限された。また 越後丘陵の走る海岸部の山裾も数々の枝谷が形成されており、結局 越後平野の内陸側の縁が交通路の主力となり、それが、越後平野現在の鉄道網として 残っていると思われる。



新潟の地形の不思議をとく鍵

フォッサマグナ帯とそこを流れる大河 信濃川と阿賀野川



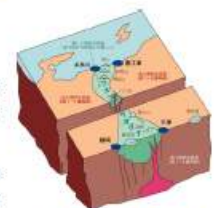
新潟平野の地形とフォッサ・マグナ

新潟県は、日本の弧状列島形成に重要な意味を持つフォッサマグナの大地溝帯上にあり、日本有数の複雑な地質構造区に属する。

県域の多くがフォッサマグナに積層した比較的新しい年代の地層上にあり、主に山地、丘陵地、低地からなる。

山地は、山形・福島・群馬・長野・富山各県界にまたがる朝日山地、飯豊(いいで)山地、越後山脈および飛騨山脈の山々より形成。越後山脈はフォッサマグナ形成の隆起地形として険しい山容を呈している。丘陵地は、海岸沿い弥彦山脈に続く越後丘陵そして信濃川中流域に魚沼丘陵・東頸城(ひがしくびき)丘陵などが分布する。

低地は、信濃川・阿賀野川・関川・姫川等の河川流域および河口部に発達しており、中でも信濃川・阿賀野川流域に広がる越後平野は日本最大の面積を有する平野であると同時に軟弱地盤地帯を形成する。また、越後平野沿岸部には砂州が発達し、山地山麓部や丘陵地では小河川や降雨浸食のために数多くの谷が分布している。新潟県は地すべり多発地帯としての側面も持っているが、これは主に山麓地や丘陵地が泥岩質の層状構造や褶曲を成し、その上に風化土や崩積土などの二次的な堆積構造が被覆しているなどの複合的な要因によると考えられている。



日本の大地溝帯「ホッサマグナ」帯の上にある新潟。

泥岩質の層構造の地層が褶曲・断層でできた丘陵地・山地が南西から北東へ平行して立ち並び、それらを刻んで無数の枝谷を形成しながら、大河が大量の土砂を飲み込んで、地後退の中を出口を求めて海岸部へ流れ下り、海岸に到達した土砂は波に押し戻され、堆積し海岸に砂州・潟を作る。まさに「新潟市」周辺はそんな大湿地帯。越後平野は海岸に広がるというより、丘陵地・山岳部の泥岩層から吐き出された大量の土砂が地溝帯を埋め尽くしてきた平野である。湿地の改良が新潟の歴史であつたらう。

越後・頸城・魚沼の3丘陵に刻み付けられた魚のあばら骨のような幾筋もの谷がそんな歴史を示している。また、暴れ川 信濃川も寺泊への放水路の完成し、それによって 湿地「新潟」の土地改良もすすんだのだらう。現在は日本の大穀倉地帯である越後平野の水田も かつては腰まで使つての田植えといわれ、暴れ川信濃川とあいまって、平野の中央部には鉄道を通せず、内陸部の山地・丘陵地の端を通らざるを得ず、内陸部に迂回せざるを得なかったのだらう。魚のあばら骨のような枝谷がいくつも形成されている海岸沿いの越後丘陵の中も同じで、この中に引かれた越後鉄道線も信濃川を渡って新潟にまでつながったのはずっと後年といわれる。



いくつもの枝谷を越ながら狭い谷あいを通る越後丘陵



かつては大きな「潟」だった新潟市周辺 交通網

■ 大昔からの日本列島の成り立ちと深い関係のある新潟の地形

越後平野の形成

越後平野は日本の大地溝帯 フォッサマグナの中に形成された平野で、ユーラシア大陸から切り裂かれ、日本列島が形成されてゆく過程で、形成された日本の大地溝帯 フォッサマグナの中に形成された平野で、その土台は白亜紀後期の花崗(かこう)岩類と新生代第三紀の火山岩類や堆積岩類からできています。

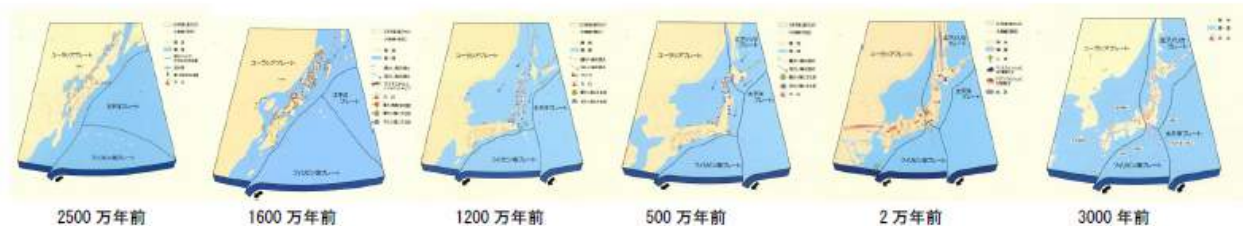
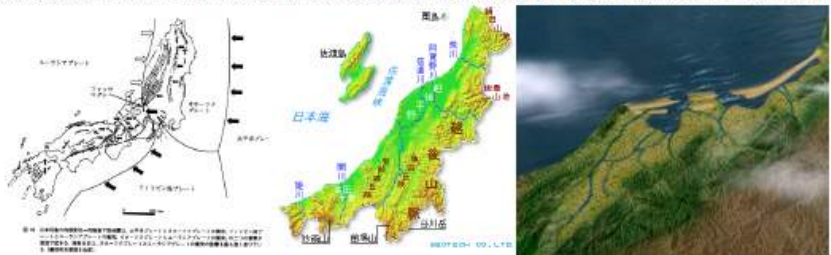
ユーラシアプレート 北米プレート 太平洋プレート フィリピンプレートのぶつかる地点に日本列島があり、数々の地殻変動・火山活動・造山活動と共に、幾度となく海底になったり、陸に成ったりを繰り返す、今から約12000万年前に今の日本列島の地質・構造骨格ができ、この枠組みの中 河川・潮流が大量の土砂を堆積させ、平野部を形成して行った。

特にフォッサマグナ帯には プレート相互の動き・圧力による褶曲作用によって 「新潟方向」と呼ばれる北北東-南南西~北東-南西への地質構造配列(断層・山地・丘陵)が立ち並び、その間を土砂堆積でうずめたかたちで、越後平野が形成されている。

特に 海岸線の弥彦山地が隆起して日本海をさえぎったため、山地北東縁から村上へ砂丘列が形成して内陸側が隔離され、広大な湾や潟湖が形成され、ここへ注ぎ込む信濃川・阿賀野川的作用とあいまって、広大な越後平野が形成されていった。このため、阿賀野川・信濃川の河口である新潟市を中心とした地域は海岸部を砂州で仕切られた潟が連なる広大な低湿地である。

越後平野の南西端から北東に広がる長岡市周辺は西を海岸部の越後丘陵・弥彦山地 東を頸城・魚沼丘陵に挟まれた間を流れ下る信濃川の扇状地 そして その下流 燕・三条周辺は氾濫原でその下の河口へ三角州・湿地を形成している

また、越後平野の北東部には 北から順に、荒川・胎内川・加治川・阿賀野川が南東から北西方向に流れて日本海にそそぐが、海岸部と背後の山地が近くしかも海岸部砂丘で閉塞されるため、それぞれが扇状地や氾濫ゲンを形成しつつ 越後平野の北東部を形成している。



3. 弥彦山と鍛冶神伝承 (資料)

弥彦山周辺の鍛冶神・金属精錬の伝承・痕跡

西蒲原郡弥彦村と長岡市との境 新潟県の海岸に面して、越後平野の稲穂の真っ只中にぽっかりと浮ぶ弥彦山。標高は638mの低山であるが、古くから“おやひこさま”と呼ばれる信仰の山で、日本三彦山の一つ。深田氏が「日本百名山」の後書きにて、名山には違いないが絶対的な標高が足りなかったと語った美しい山でもある。晴天なら日本海の向こうに佐渡も見える。

「彦山」と言うといずれもその国の「鍛冶神・開拓神」と関係する信仰の山で、古い銅鉱山が近くにあり、弥彦山と峰続きの多宝山の周辺には古い銅山跡が残っている。「銅のあるところでは鉄も出る」。この弥彦山・寺泊から南柏崎に続く海岸は「砂鉄の浜」また、確か大古い鉄の国「丹後」の大江山の酒吞童子は越後の弥彦山塊 国上山の生まれ。鉄の国「越」の弥彦山「鉄の痕跡もあるに違いない。」と。弥彦山へのwalkの予備知識として 弥彦山周辺の「鍛冶神・金属精錬の伝承・痕跡」を調べました。



■ 1. 弥彦神の片目伝承 Kiiichi Saitoさんのホームページ 丹後の伝説【6】弥彦神社より整理 http://www.geocities.jp/k_saito_site/bunken6.html

越後の一の宮である弥彦神社の祭神が片目であるという伝承は越後一帯に分布している。

地元の藤田治雄氏が雑誌『高志路(こしじ)』に精力的に発表している。

以下、藤田氏の報告によって、この伝承をみることにする。

伝承の内容は各地とも大差ないが、その一、二例を示す。

1. 西蒲原郡岩室村間瀬

「弥彦明神様は開村の神様である。神様が弥彦へ移られる時、鬼の道案内で山を登られたが、山中でウドで目を突かれたそうで、古来弥彦山にはウドが生えないといわれる」

2. 三島郡寺泊町野積宇内川

「弥彦の神様が妻のおヨネと十二人の子を野積(のづみ)浜に置いて身を隠そうと弥彦山へ登る時、足をすべらしてウドで目をつついた。それで弥彦山にウドが生えず、弥彦の神様は片目である」

この間瀬と野積とは弥彦山をはさんで弥彦神社の裏側にあたり、日本海に面している集落である。

藤田氏は、この野積と間瀬の境界線を中心とした一帯は弥彦信仰における鍛冶神の痕跡がもっとも濃厚にあらわれている地帯であるというが、それは弥彦神がウドで目を突いて片目神であるという伝承と一致する。

また、『地名辞書』はこの間瀬と野積には、元禄年間(1689~1704)に銅のつる(鉱脈のこと)を見立てて掘ったが途中でやめたという記録のあることを紹介している。



弥彦山塊 周辺マップ

■ 2. 弥彦神社

弥彦山の麓に弥彦神社があり、弥彦山全体がこの弥彦神社の神域である。そしてその山頂に奥の院があり、古くからの信仰の山である。

弥彦神社は、「万葉集」にも詠われている古社であるが、創建年代は不詳。祭神は天香山命。

越後国開拓の詔を受け、越後国の野積の浜(現長岡市)に上陸し、地元民に漁

や製塩、稲作、養蚕などの産業を教えたと伝えられ、越後の国を造った神として弥彦山に祀られ、「伊夜比古神」と呼ばれて崇敬を受けている。また、弥彦神は女神との伝承もあり、『妻戸記』には、祭神は天香山命の妻となっている。天香山命を弥彦神としたのは後世のことともいわれているが、天香山命が銅の精錬に縁がある神なのでもってきたのであろう。

天香山命の「カグ」に共通する言葉は「鉱山」とする説がある。

日本神話 伊弉冉神が最後に火之加具土神を生み焼死する物語は金属精錬、銅の流れ出す様を表した神話とされ、「カグ」に共通する言葉が「鉱山」だという。

天香山命は天照皇大神の曾孫にあたり、饒速日(ニハヤヒ)を父とし、尾張氏の始祖といわれ、神武天皇に神剣を献上して東征を助ける大功があり、のち神武天皇の命を奉じて越後に来て開拓を進め産業を興したとされる。



弥彦神社 2007.5.16.

■ 3. 間瀬銅山跡

弥彦山の北 峰続きの多宝山は銅が産出され名前のおとり宝の山。この弥彦・多宝山と続く山の西側山麓 海に面した旧岩室村間瀬地内より真川を溯ったところに間瀬銅山が広がっていた。銅が出ることは古くからよく知られていたが、元禄14年(1701)から採掘が始まったといわれる。最盛期は大正前半で、県内外の人々がどっと流入した。間瀬銅山の銅鉱石は良質で安定した産出で山麓に選鉱場、精錬場がつくられ、銅として燕市に運ばれ、銅の加工産業を興し、その後の金属加工産業につながり街が栄え発展し現在につながる

「日本鉱産誌」によれば、この地は第3紀中新世(寺泊層下部)の粗流玄武岩を貫く閃緑ヒン岩中の鉱脈で、黄銅鉱、黄鉄鉱、閃亜鉛鉱、方鉛鉱そして石英を産するとの。



弥彦山 2007.5.16. 燕・三条周辺 信濃川岸より
(左端 国上山 中央左 弥彦山頂 右端し 多宝山)

弥彦山の周辺には数々の「鍛冶神」伝承が残っており、古い銅山もあり、日本三彦山と関連づけられる「銅」精錬との深い痕跡が見られる。でも、周辺の海岸には砂鉄が堆積しているが、古代の製鉄との関係はいまひとつ良くわからない。

しかし、「弥彦の神」が片目であり、「海を渡って野積の 海岸に上陸し、越後を開拓した」との伝承は、農耕・治水に「鉄」の道具かきわめて重要だった古代 各地に伝わる「開拓神・製鉄神」伝承そのものである。

製鉄と関連付けられる大江山の酒吞童子の生まれが弥彦山 というのも「鉄」との関連をうかがわせる。

鉄の国「越」 その海岸沿いに立つ弥彦山で海を渡ってきた製鉄集団が鉄鍛冶をはじめたのではない か・・・

そして、古代 8世紀末から9世紀 越後平野に隣接する 海岸の柏崎の丘陵地で 古代の大製鉄コンビナート(柏崎軽井川南製鉄遺跡群)が作られてゆく礎となったのではない か……

そんなイメージを膨らませている。

「弥彦の神」伝承 (整理)

弥彦の神は遠く海より、弥彦の海岸 野積の浜に上陸して漁労や製塩、稲作、養蚕などの産業を教えたと伝えられ、越後の国を造った神として弥彦山に祀られ、「伊夜比古神」と呼ばれて崇敬を受けている。

また、「弥彦の神」は片目との伝承が周辺に広くあり、弥彦山から 銅などの鉱物資源が出ることから、弥彦の神は 海を渡ってきた鍛冶集団の神(鍛冶神)とも考えられている。

また、大江山 酒吞童子の生まれが弥彦といわれ、弥三郎伝説 弥三郎妻(鍛冶場の母)伝承など多くの鍛冶伝承がある

「弥彦神」を祭る弥彦神社の祭神は天香山命で、全属精錬・鍛冶と関係深い古代の物部氏・尾張氏の始祖祖につながる。後年 銅など全属精錬と関係深いことから祭神とされたといわれる。

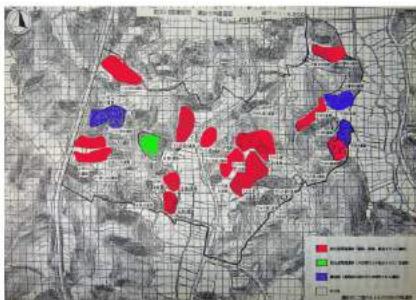
参考 谷川健三「鍛冶場の母」ほかより
藤田治雄 雑誌『高志路』に発表報告より
(Kiiochi Saitoさんのホームページ 丹後の伝説【6】 弥彦神社より)



古代「越」の大製鉄コンビナート 柏崎市 軽井川南製鉄遺跡群 2007.5.15.



柏崎中 軽井川南製鉄遺跡全景 左奥 米山 中央 下ヶ久保製鉄遺跡群 右千刈C遺跡 右端奥 天香寺遺跡



古代の製鉄遺跡 軽井川南遺跡群 千刈C製鉄遺跡 西地区(世紀末・東地区(8世紀)

千刈C 西地区 箱型炉 1基 半地下式木炭炉 3基
千刈C 東地区 半地下式製鉄炉 2基 地下式木炭炉 8基



千刈C 西地区 箱型炉



千刈C 東地区 半地下式製鉄炉



千刈C 東地区 半地下式製鉄炉

10. 日本三彦山の一つ 越後 弥彦山 Walk 2007.5.16.

古代の鉄の国「越」 弥彦山に鍛冶神の痕跡を探して

【完】

1. 日本三彦山の一つ 越後 弥彦山 Walk
2. 越後平野の不思議な地形 謎の越後平野 (資料)
3. 弥彦山と鍛冶神伝承 (資料)

風来坊 2007 山歩き 2

紀ノ川のランドマーク 紀州富士「龍門山」に磁石石を訪ねて Walk

2007.7.24. by Mutsu Nakanishi



古代大和への入口 紀ノ川 と 紀ノ川のランドマーク 粉河の龍門山 2007.7.24.



和泉・金剛山山塊と龍門・九度山・高野山・吉野の山塊の間の谷を東西に流れる紀ノ川 龍門山の山頂より、 2007.7.24.

古代日本の中心地となった大和は要害の地

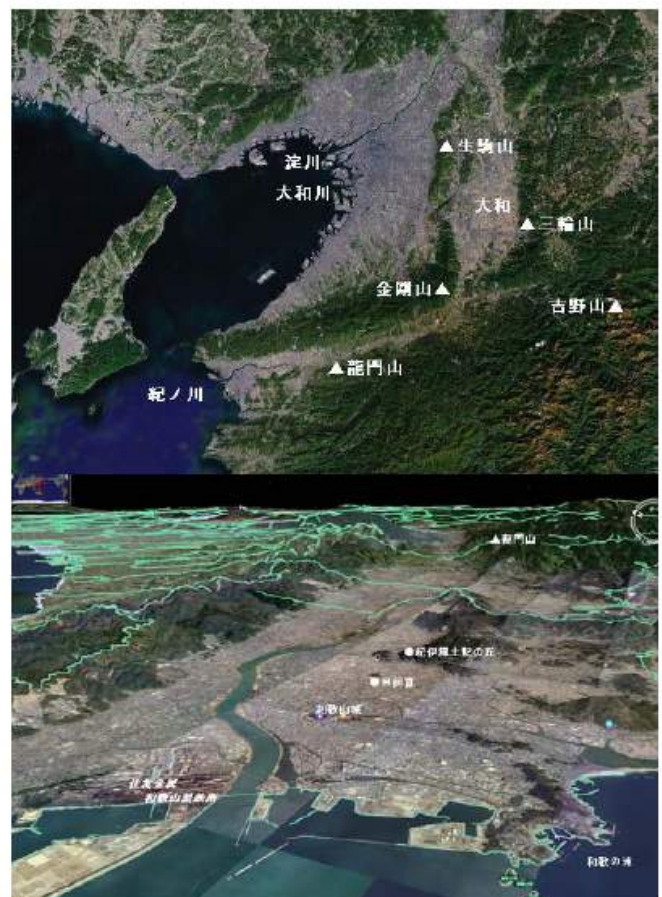
大和へ入るには 北の淀川・木津川を遡るか 東からダイレクトに大和川 そして 南の紀ノ川・吉野川を遡らねばならない。記紀神話では物部氏の祖は「ニヒハヤギ」。天皇家(神武天皇が大和に来る前にすでに天磐船に乗って淀川水系の生駒山山麓 交野・岩磐に舞い降り、生駒山山麓の河内を根拠地として、勢力を伸ばし、遅れて和歌山から熊野・吉野を経て大和にやってきた天皇王家(神武天皇)に大和をゆずり、大和が建国されたという。

また、大和王権に先立つ古墳時代 三輪山の山麓纏向には大形の前方後円墳が築かれ、大和王権の先駆けとなる卑弥呼の邪馬台国があった。

いずれにしろ、この卑弥呼の時代から 初期大和王権が成立する3世紀後半から4・5世紀 日本が統一される過程 その中心は大和であり、その支配力の中心には「朝鮮半島の鉄」があったと呼ばれる。

「鉄」と言うとき武器ということになるが、「鉄」で作られる数々の道具が、国土開発を可能にし、国を富ませる数々の古代開拓の神々の伝承が残っている。

大和が勢力を伸ばしたのも、まだ、日本で製鉄ができず、大陸・朝鮮半島の鉄素材の輸入に頼っていた時代に、北部九州



諸国が握っていた朝鮮半島の鉄の支配力をこれら諸国に取って代わったことによるといわれる。

大和に邪馬台国があったとすれば、卑弥呼ほどのルートで朝鮮半島の鉄を運んだのであろうか????

また、三輪山山麓の初期大和王権もどのルートが鉄のメインルートだったのだろうか???

奈良時代の「シルクロード・絹の道」に先立つ3世紀後半から5世紀にかけ、大和と朝鮮半島・大陸を結ぶ「鉄の道」があり、この鉄とともに 数々の渡来人がやって来て、日本統一の道筋が作られていった。

5世紀にならないと馬は日本に居らず、舟に乗って、川筋を遡るルートがメインのルートだったろう。そして、其処には 必ず、「鉄」の痕跡が残っている。

淀川・木津川水系 大和川水系 そして 紀ノ川水系の3ルートの「古代 鉄の痕跡」を求めての walk をはじめた。そして、淀川水系 大和川水系を歩き、残る紀ノ川水系の walk に取り掛かった。

紀ノ川の河口 和歌山製鉄所には随分仕事で通ったのですが、紀ノ川沿いとなるとまったく知らず、その奥は九度山など猿飛佐助・霧隠才三など忍者が活躍する深山の世界とと思っていましたが、認識不足。

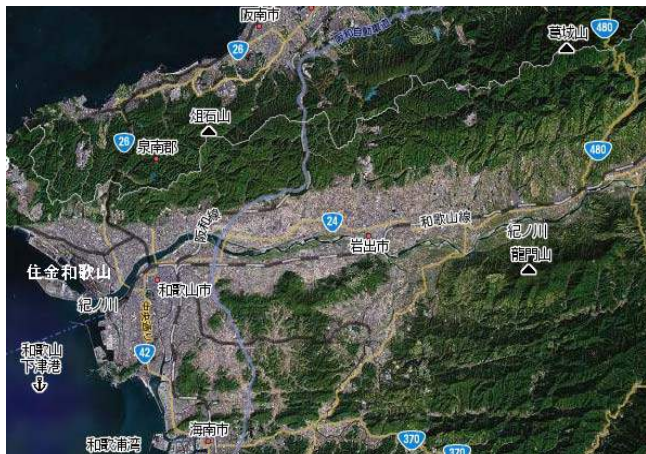
行って見て 随分違うと思いました。

この古代の和歌山には 古代大和王権と強く結びつき、航海術にたけ、大陸・朝鮮半島との交流・通称に力のあった紀伊氏がいた。また、紀ノ川の奥の大和の入り口 五条・御所の金剛・葛城山の山麓には紀伊氏の同族といわれる葛城がおり、渡来の製鉄・鍛冶集団を数多く抱え、大きな鍛冶工房を持っていた。さらに 日本書紀などによると、ヤタガラスに化身して、神武天皇東征の折、熊野・吉野から大和へ導いたという鴨氏。初期大和葛城王権とのつながりが深い鴨氏の本拠地も金剛山山麓である。

そして、この紀ノ川が東西に流れる広い谷筋は まっすぐに九州・四国を貫き紀伊半島を東西に和歌山から伊勢へと貫く日本の資源地帯 中央構造線であり、この紀ノ川とこれら氏族そして、大和の初期王権のつながりが、日本統一の大きな支えであった。その中心は支配力の源泉となった「朝鮮半島の鉄」であり、その鉄の系譜が鴨氏・紀氏・葛城氏と紀ノ川に繋がっていたのではないかと……

紀ノ川は大和と西日本・朝鮮半島をつなぐ 一番最初の大和の和鉄の道ではないか

阪神間に住む私には 淀川・大和川に比べると本当に遠い存在でしたが、考えて見れば、古代の鉄と深く結びついていた所に違いない。



そんな紀ノ川を調べている矢先、「山と溪谷」6月号に紀州富士「龍門山」が紀ノ川のランドマークとして紹介され、その山の山頂部には 磁石の磁針が狂う「磁石岩」。そして麓の紀ノ川の川岸には赤茶けた鉄分を含む龍門温泉。

これは、古代 大和への鉄の道のランドマーク。紀ノ川を歩くのに先だって まず、この龍門山に登って、磁石岩に出会って、

頂上から紀ノ川の流れをみよう・・・と

夏の日差しのきつい7月24日 青春18キップ片手に 朝早く家を出て、紀州富士「龍門山」に登ってきました。

1. 紀ノ川のランドマーク 紀州富士「龍門山」へ

7月24日 快晴。 日が昇り始めた早朝 神戸の家を出る。もう20年も前になるが、いつも 早朝 難波8時10分発 和歌山市駅行 南海特急に乗るため 眠気まなこで家を出たのを思い出す。 和歌山へ行くのは何年ぶりだろうか・・・ 今日には南海電車ではなく、乗り継ぎの便利な JR 阪和線の大阪駅7時15分発紀州路快速に乗り、和歌山駅で和歌山線に乗り換えて、紀ノ川沿いを龍門山の麓粉河駅まで行く。1本電車はずすと 粉河に着くのが昼になってしまう。 阪和線の駅の多さと遅さには閉口で 南海で行くのが、定番でしたが、今は快速電車が走り、沿線に関西空港ができたこともあって、和歌山への行き方も随分変わったようだ。

天王寺から阪和線に入って 40分ほど 大阪湾沿いから 大阪/和歌山の境 和泉山脈のトンネルを抜けて、山を下りだすとぱっと和歌山平野が広がり、海岸側とは反対側の右手奥 遠くの低い山並みの端に 左右バランスの取れた秀麗な山が見える。これが 龍門山で、そのバランスの取れた山の姿と紀ノ川河口周辺の海岸から その姿が捉えられることから、古くから「紀州富士」と呼ばれ、紀ノ川を遡って 大和へ入る道筋のランドマークとして よく知られた山だという。

電車は平野部を下り、ほどなく広い紀ノ川を渡る。

鉄橋からは河口の西側にある和歌山製鉄所が遠く見え、家並みの中に滑り込んで、行くと程なく和歌山。 東へ広がる家並みの向う遠くに龍門山の姿が見える。以前は もうすこし河口よりの南海電車からの景色ではあるが、何度も観た景色であるが、紀州富士を意識しながら見たのは初めて。



家並みの奥に紀州富士 龍門山遠望 2007. 7. 24.



紀ノ川 JR 阪和線紀ノ川鉄橋より 河口海岸部を遠望



市街地の奥 和歌山製鉄所遠望 風土記の丘より

また、何度も和歌山へは来ているといっても、和歌山製鉄所と紀州の殿様 和歌山城の和歌山市街地のほかに 以前 西国三十三ヶ所の札場 粉河寺へ行った事がある程度で 紀ノ川沿いの地形や和歌山の古代史については まったく知らずで、今回は和歌山を知る良い機会。龍門山に登って 近畿の屋根 大峰・吉野の山中から流れ下る大河「紀ノ川」を眺めながら、この川筋の歴史をイメージするとともに、日本の鉱物資源帯でもある大断層帯 中央構造線を流れる紀ノ川 よく知られた「水銀」のほか 数々の鉱物が採取されたろう。この山上にあるという磁石岩 近畿でやっと探し当てた磁石石 本当に磁針がくるうだろうか・・・

また、磁石石は「『古代 和鉄の道』の道しるべ」 この川筋の和鉄の道を垣間見るのも楽しみである。

和歌山駅で連絡のある和歌山線の小さなジーゼル車に乗り換え、紀ノ川は良く見えないが、紀ノ川沿いに田園の中を東へ。



JR 和歌山線で 粉河へ 2007. 7. 24.



古代紀氏と関連する岩橋古墳群がある風土記の丘周辺

左手には和泉山脈の山並み 右手には和歌山の海岸沿いから東へ延びる丘陵が続き、これら南北の山々の間に広がる田園地帯の中を紀ノ川がゆったりと流れ下る紀ノ川の下流部。 そんな谷というにはあまりにも広い谷間を奥へ進んで行く。

岩出の街に入る手前で紀ノ川の南岸沿いに走っていた和歌山線が北岸へ鉄橋を渡る。その鉄橋からは紀ノ川の流れの向うに美しい龍門山の姿が見え、このあたりから、谷間の幅が少し狭まってきて、ぐんぐん山が近くなって来る。標高 756m ほどの小さな山であるが、どっしりとした大きな山体がほかを押し、紀ノ川のランドマークにふさわしい。



岩出市の紀ノ川鉄橋周辺より 龍門山



粉河周辺より龍門山の山並み

和歌山駅から 30 分ほど 9 時過ぎに粉河駅着。紀ノ川の対岸に堂々とした龍門山の山体が見えるところが、粉河駅で、この駅前から粉河の集落の中をまっすぐ北側へ続く広い坂道を約 2km ほど登ったところに粉河寺がある。龍門山へは駅の少し東側から南側正面の龍門山に向かって、紀ノ川へ注ぐ小さな川沿いに紀ノ川を渡って対岸へ続く広い通をゆく。

ガイド地図によれば、紀ノ川にかかる龍門橋を渡り、まっすぐ集落、そして 果樹園の広がる傾斜地を中腹まで登ってゆけば、約 1 時間ほどで一本松の登山口である。そこから 左の田代峠への道を登って、龍門山の左肩から稜線を頂上に登って、頂上からまっすぐ北へ明神岩を通過して、中央コースを通過して一本松登山口へ降りてくる約 4 時間ほどのハイキングコースである。山全体が蛇紋岩でできた山で、いたるところに蛇紋岩あり、頂上部に磁石石があるという。



紀ノ川 龍門橋とその対岸 標高 756m. 龍門山 2007. 7. 24. 龍門山の登山口 粉河で

蛇紋岩は マントルに一番近い超塩基性の深成岩であるカンラン岩が熱水などにより変

質した変成岩で、鉄やマグネシウム クロムなど鉱物を含んでおり、この地が中央構造線沿いの鉱物資源帯の真っ只中の象徴とも言える。でも 紀ノ川と古代鉄 産鉄集団を思わせる話もなく、紀ノ川に砂鉄を産した話も聴かず、まだ 半信半疑である。



龍門山の登山口 MAP とルート図と なたらかな斜面が山裾に広がる龍門山

龍門山のなたらかな山頂部ピークの右端が頂上 左端部に磁石石 山の左側暗部が田代峠

広大な山の下部斜面に桃や梨・ぶどうの果樹園が広がる ちょうど中央部果樹園の上が一本松登山口



2. 紀ノ川にかかる龍門橋を渡って 龍門山登山口へ

粉河駅の南側にでると広い国道が紀ノ川に沿って東から西に この広い谷を貫いて和歌山へ走っていた。

「国道 24 号線」だという。これも驚き。 僕の頭の中は 国道 24 号線と言うと京都と奈良を結ぶ国道。この国道 24 号線が 京都から 奈良・大和高田そして 御所と奈良盆地を貫き、南端 御所から五条に入り、紀ノ川沿いを和歌山まで結んでいる。

初めて知りましたが、この道は逆に取ると和歌山から紀ノ川沿いを遡り、金剛・葛城の山塊と吉野山塊の谷間 五条から御所に抜け、王城の地大和へ入り、そのまま京都へつながる古代の幹線の道筋そのまま。この紀ノ川沿いの道が行き来しやすい通商路であったことが、うかがえる。

この時は まだ 紀ノ川は大阪からすると本当に遠い都会から離れた山中と想像していたのですが、 この道をまっすぐ東へ行けば 大和。また、粉河の東の橋本から気味峠を越えれば 河内はすぐ其処で、この紀ノ川流域も 大阪へのベッドタウンと発展しているところ。京阪神・京阪奈のベルトだけではないと後でつくづく感じました。そんな 紀ノ川流域 谷とはいえぬほど広い明るい谷筋が龍門山の頂上から見られました。

この国道 24 号線を横切ると、すぐ向うに まっすぐ龍門山に向かう大きな鉄橋が見える。

この谷間を東から西へ流れ下る紀ノ川にかかる龍門橋。

河口からすでに約 30 キロの中流域 谷間に入ってどんな風に流れているのか???龍門橋から 直接見る紀ノ川である。幅の広い大河がゆったりと東から西へ流れている。また、すでに谷間に入ったといっても 両側の山々は 中央の紀ノ川まで、山麓の広い傾斜地を引いていて、谷間の感じはしない。

南の和歌山側には、ぽっかり風土記の丘の丘陵地が浮かんでいるのみで、広い河口デルタの田園地帯が感じられる。

一方、北側の上流側にも急峻な山は見えず、広い河岸段丘地が、流れ下ってくる奥の奥まで広がっていて、明るい。

大和の北の入口 淀川・木津川が笠置の山々に至るまで とうとうと流れるように 紀ノ川も奥の吉野の山々に差し掛かるまではとうとうと流れているようだ。

上流側のすぐ向うは 霧隠才蔵・猿飛佐助の九度山で、小さい頃の忍者の活躍する深山 山奥のイメージが頭に焼き付いているのですが、そんな面影はどこにもない。都会近郊の里山の景色が川沿いに広がっている。

古代から ずっと 緩やかに流れ下ってきたのだろう。縄文・弥生そして古墳時代とこの流域には数々の集落があり、大和への重要な交通路であったというが、容易に奥地へ遡れたのだろう。私の考えていたイメージとは随分違う。



粉河 龍門橋からみた紀ノ川 2007. 7. 24. 左:北方向粉河の街 中央:東の上流側 右:南の龍門山方向



西方向 河口側 和歌山方面を眺める

東方向 上流側 九度山・橋本方面を眺める



龍門橋を渡って 龍門山山麓の集落の中をまっすぐ山麓へ。標高は低いのですが、遮る物もなく、見上げる堂々とした山体に圧倒される。集落の上の山腹中央へ 緑の中をまっすぐ登ってゆく道が見え、これが一本松登山口への登り道。

集落を抜けると龍門山への標識もあり、果樹園が広がる龍門山の山裾の傾斜地を登ってゆく。

桃・梨・ぶどうの果樹園を見ながら きつい坂道を登ってゆくと一歩松の登山口の標識の横に出る。ここから右に行くと山腹を少し右にトラバースして、そこから直接頂上へ登る中央コース。左は田代峠に出て、稜線縦走路から磁石岩を通過して頂上へのコースで、いずれも1時間30分ほどで頂上に立てる。今日は左の田代峠コースから登って、中央コースを降

りる。駅から約1時間 いよいよ登山道に入る。

振り返ると いままっすぐ登ってきた、紀ノ川の龍門橋や粉河の町並みがはるか下に見える。

また、東のほうには、流れ下ってくる紀ノ川の向うに葛城・金剛の山並そして 吉野の山々が見え、頂上に登れば、素晴らしい紀ノ川の眺望が楽しめると思いきいである。



龍門橋



龍門橋からまっすぐ龍門山への集落



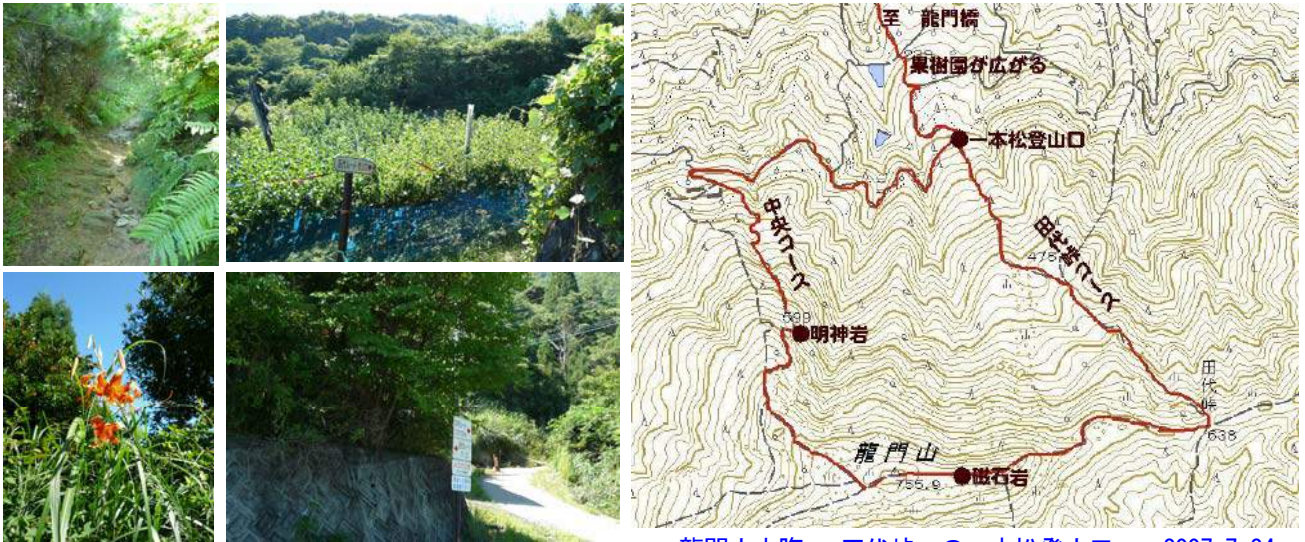
集落を抜け、龍門山山腹下部の傾斜地を登る



龍門山山腹下部の傾斜地はどちらを向いても果樹園 眼下に東西に流れ下る紀ノ川 その向うに和泉山脈 東端には金剛山も見える



龍門山中腹 一本松登山口周辺の果樹園

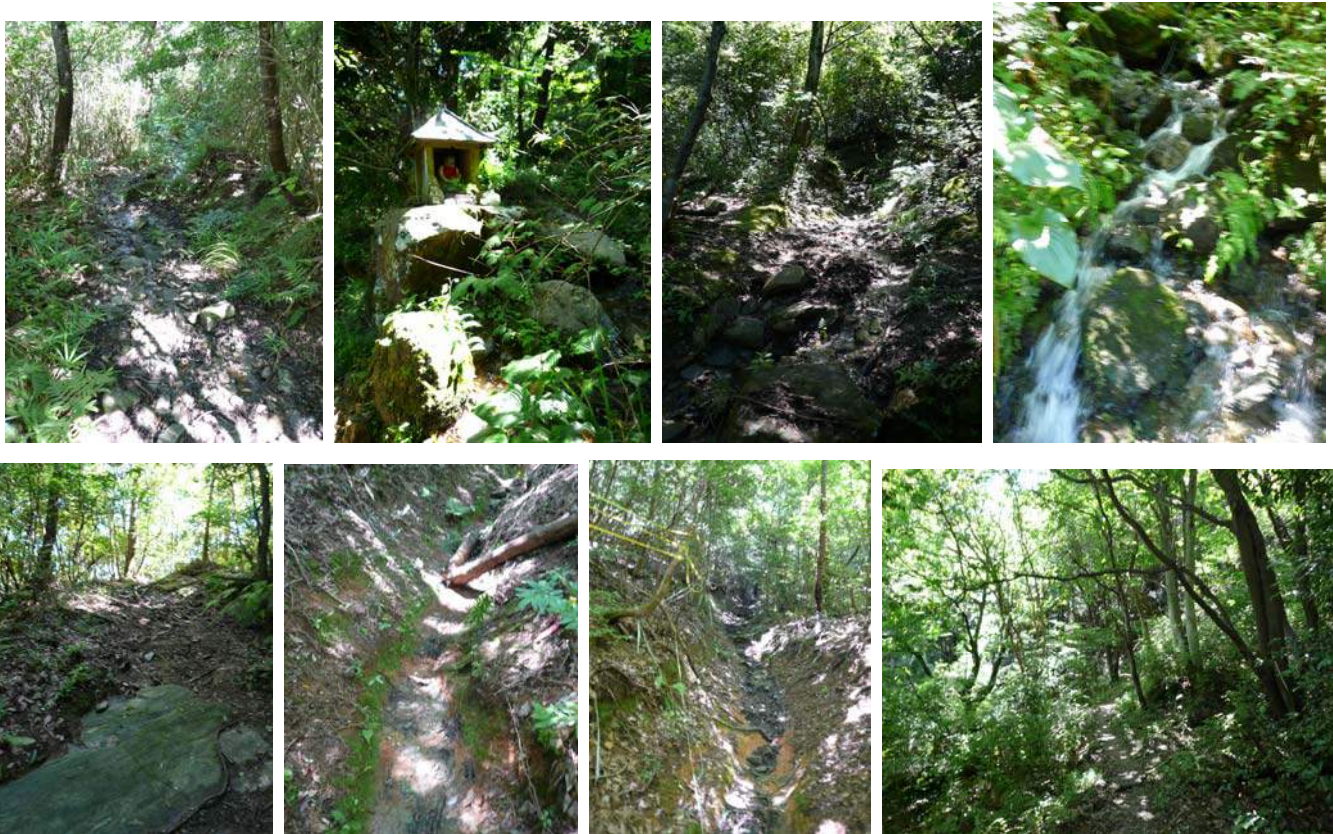


龍門山中腹 田代峠へ的一本松登山口 2007. 7. 24.

3. 田代峠を経て磁石岩へ

一步 登山道へ踏み入れるともう静かな樹林帯の上へ上へと道が続く。緑が濃いというのか、来た斜面なので日差しが入り込まず、蒸し暑い。また 登山道には 道の底に岩が露出していて、滑りやすいが、良く整備された道が尾根筋に続いている。小さな沢から水が流れ落ち、水場になっていて、ここを横切るとすぐ上に地蔵が祭られている。おそらく、かつて この道も南へ 峠越えの生活道路だったのかもしれない。

植林された林帯や雑木の林の中を道が登ってゆく。所々で赤土が出ていたり、掘り切りの道もあるが、総じて、土が少なく、石ころ道で、周りの林も雑木の木々で、大きな木がない。幹の細い木々が密集していて、緑の葉の間から空の光が漏れて美しい。この山が草木の育ちににくい超塩基性の蛇紋岩質であるためかも・・・・・・。



登山口から田代峠へ



田代峠周辺



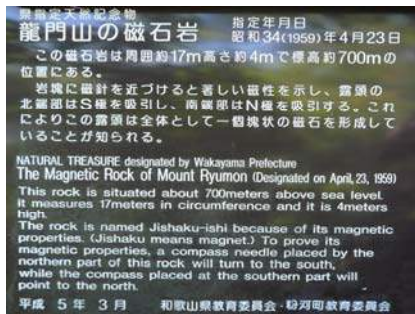
田代峠から縦走路を龍門山頂上へ

木々の間から漏れ来る空を眺めながら上り詰めると龍門山の稜線上の田代峠に出る。ここは広場状になっているが、やはり空は開けているのですが、周囲は雑木で、視界が開けない。ここは龍門山と東の飯盛山の鞍部で、ここから左へ縦走路を登って、二つほどコブを乗り越せば龍門山の頂上である。 相変わらず、灌木におおわれていて、その中を歩く。ところどころに 大きな石がゴロゴロ。この時は気がつかなかったのですが、どうも みんな蛇紋岩の岩。急なぼりを過ぎて、頂上部の平坦部に出るところで、道をふさぐように大きな岩を回り込む。ここに案内板があり、「磁石岩」。

4. 磁針が狂う磁石岩



龍門山の頂上部 縦走路にどっかり座る磁石岩 2007. 7. 24.
この岩にコンパスを近づけると磁針が狂い、磁石は吸い寄せられる



龍門山の磁石岩

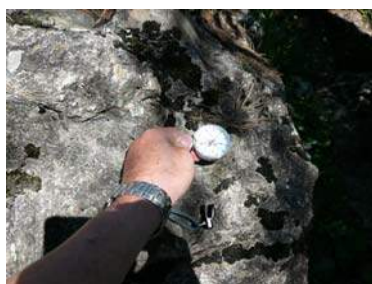
この岩の成因はなんだろう。やっぱり、雷による帯磁なのか…

それとも蛇紋岩への熱水変成過程で帯磁したのであろうか…

また、古墳時代 この紀ノ川を遡っていった人たちは 磁石が鉄を吸引する事や方位磁石を知っていたらうか…

周囲 17m 高さ 4m の蛇紋岩の大岩で頂上部の縦走路にどっかりと座っている。

方向磁石を近づけると磁針が狂う。また、マグネットを近づけるとパチンと石の表面にひっつく。間違いなく磁石石。山口県須佐の高山の頂上で見た磁石石は斑レイ岩であったが、この龍門山の磁石石は蛇紋岩。どちらも 鉄分(磁鉄鉱)を含む深成岩質である。近畿にも生駒山系にあると聞いたりして、探していたのですが、この龍門山で出会えました。磁石岩の上に乗って、コンパスの磁針の狂いをみたり、マグネットを取り出して 石の表面に引っ付けたり。



磁石の指針が大きく狂う しかも 石の位置で指針の方向が違うのはこの岩が一つの磁石であるためか…

また、中央写真は マグネットを石に近づけるとビタッと引っついてしまう

コンパスを岩のあちこちに持っていったり、地図の方向と磁針の狂いを調べたり、マグネットをあちこちに引っ付けたり 30分ほどこの岩に乗ってました。大きな磁石岩にほんとうにびっくり。

また、龍門山の頂上部にある岩なので、木々の間を通して、下の紀ノ川や粉河の町並みが見えている。

昔はもっと良く下が見えていたかも知れぬ。巨岩の岩のすぐそばでは シャガの花がひっそりと咲いていました。



磁石岩の上から、木々の間からちらちら 紀ノ川沿いの粉河の街がみえ、岩の傍らには シャガの花が咲いていました

龍門山の麓には 中腹にある蛇紋岩の巨岩「明神岩」とすぐ横にある「風穴」にまつわる龍門山の土着の「大明神」の化身「竜」が「龍門山の蜘蛛」を退治する伝承がある。この伝承も龍門山の鉱物資源・鉄を求めて入り込んだ人たちとの紛争と

巨大な「明神岩」をふくめ、龍門山にある磁気を帯びる蛇紋岩の不思議な魔力が重なって生まれたものでないだろうか……伝承にある明神岩や、風穴は龍門山山頂の向こう側の中央コースを少し降りたところに龍門山の北斜面から飛び出して まっすぐ谷に落ち込む切り立った崖となって この巨岩「明神岩」そびえ、眼下の紀ノ川流域を見下ろし、そのすぐ横のところに風穴が口を開けている。

この「明神岩」も蛇紋岩の大岩で 帰路立ち寄って マグネットを近づけると磁石に引っ付いた。

また、縦走路の磁石岩近くの少しはなれたところにある別の岩に磁石を近づけるとやっぱり磁石が引っ付き、コンパスを近づけると磁針が狂うものもあった。 試しに赤茶けた部分の縦走路の土にマグネットを這わしてみると砂鉄が少しですが採取できる。石を拾って砕くと簡単に割れて平滑な破面がでて、引っ付かなかった磁石がこの破面には引っ付く。蛇紋岩はその変成過程で鉄など鉱物質を割れ目に析出させることがあると読んだところだったので納得である。



縦走路で コンパスの磁針が狂う蛇紋岩



蛇紋岩が顔を出す縦走路 マグネットを土に引っ付けるとわずかであるが砂鉄が引っ付いてくる。

やっぱり、この龍門山はただの山ではない。古くから良く知られた山だったのだろう。

竜神伝承という「水銀」や「水・雨乞い」との関係がなども考えられるが、この山中にある「磁石の不思議な魔力」や「鉄」に吸い寄せられた集団などを含め、古代にはこの龍門山に数多くの人たちが分け入り、そんな中で生まれた「鉄」の伝承かもしれないと思っている。

【参考 磁石石・ 蛇紋岩の解説】

解説1. 磁石は何時ごろ日本にはいつてきたのだろうか・・・

解説2. 麓の集落に残る龍門山のルーツについての伝承

解説3. 龍門山・磁石岩を形成する蛇紋岩解説

蛇紋岩には鉄・マグネシウムほか 多くの鉱物を含んでいる

解説1. 磁石は何時ごろ日本にはいつてきたのだろうか・・・

中国では磁石を乳房にたとえると、それに吸い寄せられる鉄はわが子。それを慈しむ母親の姿を連想して、磁石を「慈石」と書いたといわれ、古くから、鉄を吸い付けることを知っていた。また、「韓非子」(紀元前220年頃)には磁石を用いて方角を定めたとの記述もあるが、確かではない。11世紀の書物『武経総要』に、羅針盤のルーツである磁針を木製の魚の腹につけ、水に浮かべ方位を知る「指南魚」の記述があり、これが西洋につたわり、広く羅針盤が使われるようになる。

一方、日本では続日本紀に 713年に天皇への献上品の解説の中に「大倭・参河の両国は雲母、伊勢は水銀、相模は硫黄石・白礬石、近江は慈石を献ず。」との記述がある。

また、822年に編纂された日本霊異記序文に「世間の人々の行動を観察していると、学才や才能を持ちながら卑しい行為をしている者がいる。利益を得ようと願って財物を貪ることは、磁石が鉄の山から鉄を余すことなく吸い取ることよりも甚だしい。」と記述されている。この頃には 広く 磁石が鉄を吸い付けることが知られている。

解説2. 麓の集落に残る龍門山のルーツについての伝承

龍門山の蜘蛛伝説 「水原村大明神縁起」より

8世紀（奈良時代）頃、龍門山は高畑山と呼ばれていました。この高畑山に大蜘蛛が住みつき、麓に住む村人や道行く人々の物を奪ったり、殺したりして荒らしまわっていました。大蜘蛛を恐れて誰も道を通らなくなり、付近はさびれてしまいました。このことが朝廷に伝えられ、天皇はさっそく藤原房前に命じて軍隊をさしむけて、大蜘蛛退治が始まりました。

山の麓に到着した朝廷軍の大將は、村人に「九頭龍王をお祭りした神社」の事を聞き、神社に行って「我々に蜘蛛を退治させて下さい。我に神力を与えたまえ。」とひたすら祈った。

祈り続けて3日目の昼過ぎに、山の上空に黒雲が広がり、大粒の雨がポツリポツリと降り出し、瞬く間に空は真っ暗となり、ものすごい勢いで雨が降り出しました。やがて山頂より少し下がった峰に、すさまじい音響とともに岩石が吹きあり、ぽっかりと穴があきました。

すさまじい勢いで雨風が穴から吹きあげ、滝のように流れ出して、麓は大洪水となりました。真っ暗な中から何か光るものが見えたと思うと、穴から大きな龍が姿を現し、龍王は大きな岩へ頭を乗せ、西方の山頂をぐっとにらみつけました。そして、大蜘蛛のいる山頂へと向かったのです。

龍王と大蜘蛛の激しい争いとなり、蜘蛛は口から数百条の糸をはき出し、龍を捕えようとし、龍は口から火を吹き出して、蜘蛛を倒そうとして、戦いの末、ついに龍王が蜘蛛を退治しました。疲れた龍は、静かに山から下りて神社の前の淵へ入って行きました。

麓の村に平和が甦り、人々は龍門山と呼ぶようになりました。龍が出現した穴を風穴（ふうけつ）、頭を乗せた岩を明神岩と言います。また、大雨が降って麓が大洪水になったことで、その一帯を水原（すいばら）＝杉原と言われるようになった。



風穴



明神岩 でっかくて崖にそびえているので全体が捉えられない



龍門山の頂上周辺には大量に磁石に引っつく蛇紋岩がゴロゴロ顔をだし、また、魔力を秘めた磁石岩もある

解説3. 龍門山・磁石岩を形成する蛇紋岩解説

1. 蛇紋岩には鉄・マグネシウムほか 多くの鉱物を含んでいる

蛇紋岩は、地下深部でできた岩石が断層に沿って上昇してきた岩石で、岩体の中には、多くの割れ目が走り、もろく崩れやすい。

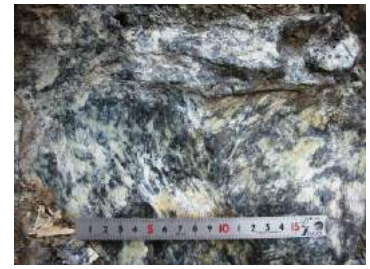
割れた面を見ると、こすれあった跡が筋となって残っていたり、こすれあって鏡のように光っていたりする。蛇の皮のような模様や光沢があるので、「蛇紋岩」と名がついた。

蛇紋岩は マグネシウムに富んだかんらん石や輝石などの超塩基性の深成岩がその岩の割れ目に入り込んだ熱水による変質作用で蛇紋石類に変化し形成される。したがって、蛇紋岩は蛇紋石(化学組成 $Mg, Fe)3Si2O5(OH)4$ のケイ酸塩鉱物)を主成分とし、磁鉄鉱、クロム鉄鉱などを含む岩石で、黒～暗緑色を呈し、炭酸塩の細かい網状脈を伴うことがある。

かんらん岩は地球のマントルに最も近い超塩基性の深成岩で、マグネシウム、鉄などを多く含んでいて、このかんらん石など超塩基性深成岩の不規則な網目状割れ目に熱水が進入して 蛇紋石と磁鉄鉱が生成される反応(蛇紋岩化作用)が進行して、蛇紋岩ができる。

この時、元の原石にふくまれていたFeやMgなどが余り、黒い粒となって元の割れ目に沿って析出する。このため、割った破面が酸化鉄の茶色に覆われている場合もあり、磁石にひっつく物が数多くある。

この蛇紋岩化作用の程度は岩体により様々で、作用の弱いものは元の原岩を構成する鉱物が多く残り、作用の強いものはそのほとんどが蛇紋石化していて、鉄やマグネシウム、クロム、石綿、ニッケルなど鉱物資源を内包している事が多い。



蛇紋岩中に見られる網目状の模様

このように 蛇紋岩はマントル成分が変質したものであり、鉄分が多く含まれており、この蛇紋岩が風化作用によって分離され、川筋に集積すると砂鉄となる可能性がある。また、山口の須佐高山の磁石岩は磁鉄鉱を含む斑岩であるが、山中にある蛇紋岩に含まれる鉄分が雷などで帯磁すると磁石石となったのかもしれない。紀ノ川沿いは中央構造線が東西に走る鉱物資源帯。水銀の産出が広く知られているが、古代 この山中で同じく 産鉄の民も数多く分け入っていたのかもしれない。



龍門山で拾った蛇紋岩 金槌で簡単に割れ、平らな破面が立体的に出る 2007.7.24.

割った破面が酸化鉄の茶色に覆われている場合もあり、磁石にひっつく物が多い

2. 蛇紋岩をつかった 二酸化炭素固定化による地球温暖化対策の研究がなされている

地中奥深いところで形成されたマントル成分の岩石が、断層や地殻変動で無数の割れ目を帯び、その割れ目に沿って進入する熱水によって、変質して 数々の鉱物資源を析出しつつ、蛇紋岩ができる。

今 この蛇紋岩の「蛇紋岩作用」を使用して、世界の緊急課題となっている【炭酸ガスによる地球温暖化】問題の炭酸ガスの固定化埋蔵の方法が研究されていることを知りました。

財団法人 地球環境産業技術研究機構 二酸化炭素固定化・有効利用技術研究

蛇紋岩体の地化学環境を利用した原位置試験による CO2 地中鉱物固定のための基盤技術の開発 (2006年度終了)

蛇紋岩の風化に伴い、蛇紋石の主成分であるマグネシウムと大気中などの炭酸ガス、それと水とが結びついてマグネシウムの含水炭酸塩鉱物が網目状に二次的に生成されることがある。この蛇紋岩の持つ炭酸ガスを固体の炭酸塩固定化作用を利用して、蛇紋岩地帯の地中深くに炭酸ガスを吹き込み、炭酸ガスを固定化する。

本当に こんなことができるの????? ですが、すごいですね。やっぱり、蛇紋岩には 得体の知れない不思議さ 魔力がある。

蛇紋岩の山「龍門山」 形が秀麗で眼下を流れる紀ノ川の流れが素晴らしい山 であるとともに やっぱり独特の雰囲気を持つ不思議な山。

5. 龍門山頂上と紀ノ川流域の展望



龍門山頂上からの 和泉山脈を背に 東西に 東の大峰・吉野から流れ下る紀ノ川の流域の展望

磁石岩から視界の開けない灌木の林の中を 10 分ほど小さな登り下りを繰り返して、最後の登りを登り終えると突然広い木がない草原の頂上に出る。北側 木の川沿いの展望がひらけ、ゆったりと眼下を東から西へ流れ下る紀ノ川全体が見える。

東の端の山の向こうが大和 はるか遠くに吉野・大峰の山々が浮かび 其処から金剛山から南葛城・岩湧山と続く和泉山脈の山裾をゆったりと紀ノ川が流れる。やっぱり 上からみても吉野までは途中にさえぎるものもなく川を遡れそうで、古墳時代から西からの大和への重要路となって早く開けたことがうかがえる。

川の南側にはこの龍門山・飯盛山から九度山・高野山そして熊野へと山並みが幾重にも折り重なって続き、頂上からは樹木に阻まれて見えない。

縦走路のところどころで、木々のかいだから、時折 龍門山の南側 折り重なるように続く紀伊の山々山々が見えるのみである。



龍門山の南側 折り重なるように続く紀伊の山々 縦走路より



龍門山頂上よりはるか大和を眺める

中央奥 金剛山 その右奥に大和平野がかすんでいる

龍門山頂上より眺める紀ノ川流域 2007. 7. 24.



和泉山脈の奥に大阪湾 和歌山方面



龍門山直下 粉川を流れる紀ノ川

広い頂上部の草原のいたるところに赤茶けた流紋岩が草の間から顔をのぞかせ、草原いっぱいにシャガの花が咲き誇っていた。残念ながら この龍門山の山頂周辺で真っ白に咲き誇るというキイシモツケソウの花は観られなかった。



龍門山頂上より、紀ノ川流域 2007. 7. 24.



龍門山頂上 赤茶けた流紋岩がいたるところに顔をのぞかせ、この山が他の大和違う顔を見せている



シャガの花が咲き誇る龍門山頂上周辺 2007. 7. 24.

真っ青の快晴 誰一人いない頂上 眼下の素晴らしい景色を眺めながら、昼にする。

汗だくの昼であるが、夏が来たことを実感する暑さが心地よい。和歌山の山は初めてであるが、ほんの近くにこんな静かな山があるとは
ごきげん。磁石石に出会い、そして、磁石石をいしきたおかげで、縦走路の岩が次々と磁石に引っ付くのを見つけたのですが、こんな
山も初めてである。この紀ノ川沿いがこんなに明るい谷筋であるも始めて知りました。

やっぱり中央構造線沿いの山 何か違う 不思議な山で、ラッキーです。

6. 帰路は蛇紋岩の巨岩「明神岩」から、中央コースの急な尾根筋をまっすぐ降りる



頂上よりまっすぐ中央尾根を北に下る 頂上をでるともう緑濃い森の中

昼寝もして、午後 1 時頂上を後にする。今度は朝登った田代峠への尾根のすぐ西側 頂上からまっすぐ北に伸びる中央尾根の西斜面に付けられた急な下りが続くという中央コースを降りる。

頂上の草原の端からすぐ灌木刈の中に入ってすぐに、そのまま西の勝神峠へ下ってゆく道と中央尾根を降りる分岐に出る。

この分岐から右手に森の中の急な下り道が続く。このあたりは頂上の縦走路とは少し違って、縦走路に土があり、顔を出している岩がすくなく、雨水の通り道になっている。そして 良く観ると そのところどころに砂鉄がたまっている。これだけ鉄分の多い蛇紋岩の山 砂鉄があっても不思議でないと思っていましたが、ごくわずかですが、雨水で運ばれた砂鉄が道端に溜まっているのを見つけました。



登山道に溜まっていた砂鉄

森の中を下ること 20 分ほどで「明神岩」の案内板。右手に行くと大きな岩が北に突き出て視界をさえぎる。これが、「明神岩」でこの岩の上に登らないと様子がわからず。



岩によじ登ると、正面にはぱっと紀ノ川流域が眼下に広がり、右は谷の向うに田代峠の尾根筋が延びている。下は足元がすくむ断崖絶壁の谷である。

高さというか長さ 30mの蛇紋岩の一枚岩が斜めに谷に突きでて刺さっている感じなのですが、全体が良く解らないが、巨岩です。岩のすぐ横の反対側の山の斜面に深い穴が開いている。これが風穴。



龍門山の中腹にそそり立つ蛇紋岩の一枚岩 「明神岩」 2007. 7. 24.

「村びとの願いを聞いた守り神の化身「竜」がこの風穴から抜け出てきて、この岩に頭を置き、山をにらみつけ、悪さをする大蜘蛛と戦って退治した」との伝承の明神岩である。

これは磁石引っ付かないだろうとマグネットをとりだしましたが、これもきっちり引っ付きました。

全体が見えないので、岩のすぐ横 山の斜面側にある「風穴」の横を通過して、少し小道をトラバースすると岩全体が見え、垂直な崖となつて、谷に突き出しているのが見える。



山の斜面 東側から見上げる「明神岩」



明神岩のすぐ横の山の斜面にある「風穴」

明神岩からまたた、山の灌木の森の中に入り、下へ下へと下って、明神岩から 30 分ほどで キイシモツケの灌木のゲートをくぐりぬけて、一本松中央コースの入口の駐車場のところに飛び出る。キイシモツケの案内板が立っているが、やっぱり 花は見られませんでした。

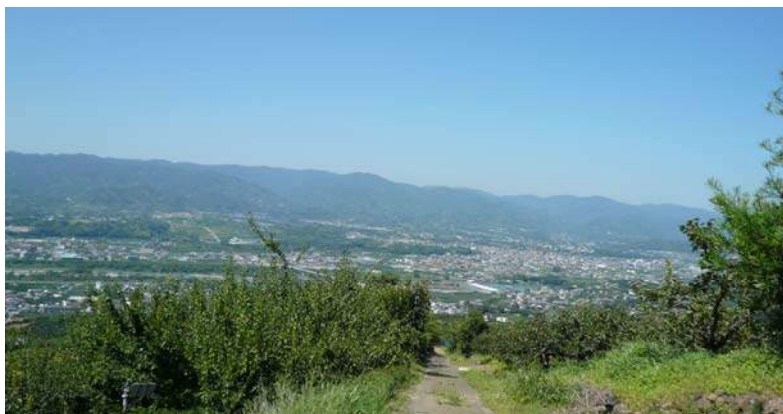


中央コース 登山口へ下山 2007. 7. 24.

ここからは、今日朝 出発した一本松登山口へ 龍門山の山腹をトラバースして、其処からまた、まっすぐ果樹園の中を下って行く。

山の中は 森の中なので問題なかったのですが、里にでると遮る物のない直射日光。本当にきつい。

とにかく、はやく下って、紀川の龍門橋のたもとにある龍門温泉に行こう。



登山口から 果樹園の中をまっすぐ紀川に向かって下る 2007. 7. 24.

7. 龍門山温泉につかって 龍門山Walk を振り返って



紀川 龍門橋のふもとにある龍門山温泉

龍門山の麓 紀川のそばに湧く「龍門温泉」はどうだろうか・・・

鉄分のある赤湯だろうか・・・龍門山が鉄の山なら、赤湯であるはずと・・・

汗を拭き吹き龍門橋のたもとから、紀川沿いに龍門温泉に飛び込む。

「ナトリウム・カルシウムー塩化物泉で飲むこともできるしう効く」と。

「ここは鉄泉ですか・・・」と聞くのですが、分析値が張ってないのでよくわからず。 とにかく、温泉に飛び込む。

龍門山温泉				和鉄の道温泉			
成分	濃度	単位	検出値	成分	濃度	単位	検出値
Na ⁺	120	mg/L	0.00	Na ⁺	120	mg/L	0.00
Ca ²⁺	0.0	mg/L	0.00	Ca ²⁺	0.0	mg/L	0.00
Mg ²⁺	0.0	mg/L	0.00	Mg ²⁺	0.0	mg/L	0.00
Fe ²⁺	0.0	mg/L	0.00	Fe ²⁺	0.0	mg/L	0.00
Cl ⁻	0.0	mg/L	0.00	Cl ⁻	0.0	mg/L	0.00
SO ₄ ²⁻	0.0	mg/L	0.00	SO ₄ ²⁻	0.0	mg/L	0.00
CO ₃ ²⁻	0.0	mg/L	0.00	CO ₃ ²⁻	0.0	mg/L	0.00
HCO ₃ ⁻	0.0	mg/L	0.00	HCO ₃ ⁻	0.0	mg/L	0.00
NO ₃ ⁻	0.0	mg/L	0.00	NO ₃ ⁻	0.0	mg/L	0.00
PO ₄ ³⁻	0.0	mg/L	0.00	PO ₄ ³⁻	0.0	mg/L	0.00
SiO ₂	0.0	mg/L	0.00	SiO ₂	0.0	mg/L	0.00
Li ⁺	0.0	mg/L	0.00	Li ⁺	0.0	mg/L	0.00
K ⁺	0.0	mg/L	0.00	K ⁺	0.0	mg/L	0.00
Br ⁻	0.0	mg/L	0.00	Br ⁻	0.0	mg/L	0.00
I ⁻	0.0	mg/L	0.00	I ⁻	0.0	mg/L	0.00
B ³⁺	0.0	mg/L	0.00	B ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Zn ²⁺	0.0	mg/L	0.00	Zn ²⁺	0.0	mg/L	0.00
Cu ²⁺	0.0	mg/L	0.00	Cu ²⁺	0.0	mg/L	0.00
Mn ²⁺	0.0	mg/L	0.00	Mn ²⁺	0.0	mg/L	0.00
Ni ²⁺	0.0	mg/L	0.00	Ni ²⁺	0.0	mg/L	0.00
Pb ²⁺	0.0	mg/L	0.00	Pb ²⁺	0.0	mg/L	0.00
Ag ⁺	0.0	mg/L	0.00	Ag ⁺	0.0	mg/L	0.00
Hg ²⁺	0.0	mg/L	0.00	Hg ²⁺	0.0	mg/L	0.00
As ³⁺	0.0	mg/L	0.00	As ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Se ⁶⁺	0.0	mg/L	0.00	Se ⁶⁺	0.0	mg/L	0.00
Mo ⁶⁺	0.0	mg/L	0.00	Mo ⁶⁺	0.0	mg/L	0.00
Cr ⁶⁺	0.0	mg/L	0.00	Cr ⁶⁺	0.0	mg/L	0.00
Cr ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Cr ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Mn ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Mn ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Co ²⁺	0.0	mg/L	0.00	Co ²⁺	0.0	mg/L	0.00
Ni ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Ni ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Cd ²⁺	0.0	mg/L	0.00	Cd ²⁺	0.0	mg/L	0.00
Bi ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Bi ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Pb ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00	Pb ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00
Sn ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00	Sn ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00
U ⁶⁺	0.0	mg/L	0.00	U ⁶⁺	0.0	mg/L	0.00
Th ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00	Th ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00
U ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00	U ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00
Th ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00	Th ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00
Pa ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00	Pa ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00
Ac ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Ac ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Sc ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Sc ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Y ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Y ³⁺	0.0	mg/L	0.00
La ³⁺	0.0	mg/L	0.00	La ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Ce ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Ce ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Pr ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Pr ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Nd ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Nd ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Pm ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Pm ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Sm ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Sm ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Eu ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Eu ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Gd ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Gd ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Tb ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Tb ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Dy ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Dy ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Ho ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Ho ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Er ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Er ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Tm ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Tm ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Yb ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Yb ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Lu ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Lu ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Be ²⁺	0.0	mg/L	0.00	Be ²⁺	0.0	mg/L	0.00
B ³⁺	0.0	mg/L	0.00	B ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Al ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Al ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Si ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00	Si ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00
P ⁵⁺	0.0	mg/L	0.00	P ⁵⁺	0.0	mg/L	0.00
S ⁶⁺	0.0	mg/L	0.00	S ⁶⁺	0.0	mg/L	0.00
Cl ⁻	0.0	mg/L	0.00	Cl ⁻	0.0	mg/L	0.00
Br ⁻	0.0	mg/L	0.00	Br ⁻	0.0	mg/L	0.00
I ⁻	0.0	mg/L	0.00	I ⁻	0.0	mg/L	0.00
NO ₂ ⁻	0.0	mg/L	0.00	NO ₂ ⁻	0.0	mg/L	0.00
NO ₃ ⁻	0.0	mg/L	0.00	NO ₃ ⁻	0.0	mg/L	0.00
PO ₄ ³⁻	0.0	mg/L	0.00	PO ₄ ³⁻	0.0	mg/L	0.00
CO ₃ ²⁻	0.0	mg/L	0.00	CO ₃ ²⁻	0.0	mg/L	0.00
HCO ₃ ⁻	0.0	mg/L	0.00	HCO ₃ ⁻	0.0	mg/L	0.00
SO ₄ ²⁻	0.0	mg/L	0.00	SO ₄ ²⁻	0.0	mg/L	0.00
Fe ²⁺	0.0	mg/L	0.00	Fe ²⁺	0.0	mg/L	0.00
Fe ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Fe ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Mn ²⁺	0.0	mg/L	0.00	Mn ²⁺	0.0	mg/L	0.00
Ni ²⁺	0.0	mg/L	0.00	Ni ²⁺	0.0	mg/L	0.00
Cu ²⁺	0.0	mg/L	0.00	Cu ²⁺	0.0	mg/L	0.00
Zn ²⁺	0.0	mg/L	0.00	Zn ²⁺	0.0	mg/L	0.00
Pb ²⁺	0.0	mg/L	0.00	Pb ²⁺	0.0	mg/L	0.00
Cd ²⁺	0.0	mg/L	0.00	Cd ²⁺	0.0	mg/L	0.00
Hg ²⁺	0.0	mg/L	0.00	Hg ²⁺	0.0	mg/L	0.00
As ³⁺	0.0	mg/L	0.00	As ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Se ⁶⁺	0.0	mg/L	0.00	Se ⁶⁺	0.0	mg/L	0.00
Mo ⁶⁺	0.0	mg/L	0.00	Mo ⁶⁺	0.0	mg/L	0.00
Cr ⁶⁺	0.0	mg/L	0.00	Cr ⁶⁺	0.0	mg/L	0.00
Cr ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Cr ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Mn ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Mn ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Co ²⁺	0.0	mg/L	0.00	Co ²⁺	0.0	mg/L	0.00
Ni ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Ni ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Cd ²⁺	0.0	mg/L	0.00	Cd ²⁺	0.0	mg/L	0.00
Bi ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Bi ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Pb ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00	Pb ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00
Sn ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00	Sn ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00
U ⁶⁺	0.0	mg/L	0.00	U ⁶⁺	0.0	mg/L	0.00
Th ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00	Th ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00
U ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00	U ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00
Th ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00	Th ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00
Pa ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00	Pa ⁴⁺	0.0	mg/L	0.00
Ac ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Ac ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Sc ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Sc ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Y ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Y ³⁺	0.0	mg/L	0.00
La ³⁺	0.0	mg/L	0.00	La ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Ce ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Ce ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Pr ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Pr ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Nd ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Nd ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Pm ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Pm ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Sm ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Sm ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Eu ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Eu ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Gd ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Gd ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Tb ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Tb ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Dy ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Dy ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Ho ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Ho ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Er ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Er ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Tm ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Tm ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Yb ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Yb ³⁺	0.0	mg/L	0.00
Lu ³⁺	0.0	mg/L	0.00	Lu ³⁺	0.0	mg/L	0.00

龍門山温泉の温泉分析値

温泉に入るとお湯が薄茶色。やっぱり、鉄が含まれている。これは ええぞ……と。

湯船の壁一杯に温泉分析値や効能書きが張られている。Na イオン Ca イオン Mg イオンほどは 多くなく、1.3mg と鉄線とはほどとおいが、2 価の Fe イオンが含まれている。やっぱり、鉄分がある。

やっぱり、「和鉄の道」の温泉 赤茶で納得 うれしくなる。



龍門山温泉 薄く黄褐色の色を帯びている

湯船につかりながら、この不思議な山 龍門山の日を振り返る。

和歌山から伊勢へ 日本の資源地帯であり、大断層地帯 中央構造線沿いを悠々と流れる紀ノ川にそびえる龍門山

念願の磁石石にも合えし、山中の赤茶けた蛇紋岩は鉄を含有し、磁石にバチバチ引っつく鉄の山

川の流れの奥には大和の国がかすんでみえ、川の流れを阻む障害もない。縄文・弥生・古墳時代 この川を遡って、大和へ数々の人たちが

が入る通商路。そんな交易の中心は紀ノ川河口の紀氏 大和の入り口御所にいる葛城氏が重要な役割を演じた「朝鮮半島の鉄」だったろう。

鉄素材の輸入・鍛冶加工をしながら、必死に日本で鉄精錬をゆめみて、その原料を探したに違いない。

龍門山はそんな山でなかったか・・・

静かな山中に 赤茶けた鉄の石 蛇紋岩 そして 磁石石がころがり、眼下にはすばらしい紀ノ川の流れが見える

むかしも今も 不思議な山 美しい山。

私にとっては 大和へ通じる鉄の道にふさわしいランドマークである。

次はこの紀ノ川沿いを大和まで 遡ろう。

紀ノ川の河口の紀氏 そして大和の葛城氏は 朝鮮半島の鉄と密接な関係を持っており、数多くの渡来の鍛冶集団をも抱えて、この紀ノ川沿いを行き来している。

古代この地を数多くの製鉄・鍛冶の技術集団が鉄を求めて通ったに違いないと思うのですが、良く解らない。

鉄分が多い龍門山。今回 山中には酸化鉄で赤茶色に変色した流紋岩がいたるところにあり、また、ほんのわずかですが、雨水の流れで流れ出た砂鉄もありましたが、色々聞いたり、調べましたが、紀ノ川の川では砂鉄は見つかっていないし、紀ノ川流域での砂鉄精錬の痕跡は見つかっていないという。

でも この紀ノ川流域は製鉄集団の通った「大和への和鉄の道」といいたい。

そして、この龍門山はそんな大和への和鉄の道のランドマークだったろう。

2007. 4. 24. 龍門さん温泉につかりながら

Mutsu Nakanishi

後日談ですが、

ゆっくりお湯につかって、ぶらぶら龍門橋を渡る時にはもう、午後4時前。

いままで、深山の真っ只中とっていて あまりにも印象の異なる橋本・五条まで行こうと橋本行のジーゼルに飛び乗り、橋本まで。

やっぱり、明るい。 山はみえるが、深山とはとても思えぬ開けた地 もう びっくり。

汽車がないので、ふと 南海電車の窓口を見ると橋本から堺の北野田まで 480 円。

そんなに近いのか・・・と北野田にいる友人に電話すると 20 分で来れるので すぐおいで・・・と。

ほんとに深山と思っていたところが 大阪にこんなに近いのかとビックリ。北野田で途中下車してビールで再会。

ほんとうに愉快な一日でした。



古代大和への入口 紀ノ川 と 紀ノ川のランドマーク 粉河の龍門山 2007. 7. 24.

参考

和鉄の道

古代大和の鉄の道を訪ねて【1】 淀川・木津川から大和へ 大和の外港 木津「泉津」を訪ねて

<http://mutsu-nakanishi2.web.infoseek.co.jp/iron3/7iron05.pdf>

古代大和の鉄の道を訪ねて【2】 .大和川 「亀の瀬・龍田越」 Country Walk

<http://mutsu-nakanishi2.web.infoseek.co.jp/iron3/7iron09.pdf>

金剛・葛城山麓 葛城氏の鍛冶工房「忍海」 渡来人が住み鉄鍛冶の技術を伝えた古代「忍海」

<http://mutsu-nakanishi.web.infoseek.co.jp/iron/5iron05.pdf>

磁石石って 知っていますか 山口県須佐町高山に磁石石を訪ねて

<http://mutsu-nakanishi.web.infoseek.co.jp/iron/4iron11.pdf>

2007年 風来坊 Country Walk

里歩き・山歩き & 山口・美祢・長門の四季

山口・美祢・長門の四季 [5] 2007 もくじ

- | | |
|--|--------------|
| 1. 美祢 市街を流れる厚狭川の桜
美祢のYさんからメールで送っていただきました | 2007. 4. 15. |
| 2. 久しぶりに童謡詩人「金子みすず」の街 長門市仙崎を訪ねました | 2007. 6. 29. |
| 3. 写真アルバム 防府 阿弥陀寺のあじさい | 2007. 6. 12. |
| 4. 写真アルバム 山口 県油谷半島 棚田の夕景 東後田の6月
美祢市のYさんからの写真メール | 2007. 7. 11. |

写真アルバム 2007年春 桜の便り

山口県美祿市の街を流れる厚狭川堤の桜 写真アルバム 山口県美祿 厚狭川堤の桜

7年過ごした山口県美祿の街中を流れる厚狭川土手の桜の写真を美祿のYさんが会社の便りと共に送ってくれました。

昔 美祿で仕事したときのことや、夜桜見物で歩いたことなどほんとうに懐かしい。

鳥が桜の花芽をすっかり食べて、花が咲かないといったことも聞きましたが、満開の桜健在ににっこりです。おりしも 運営の大半を民間企業に委託する全国初の刑務所「美祿社会復帰促進センター」が1日、開所したとTVが伝え、美祿の街に新しい顔が加わり、さらに活気ができれば・・・と。



山口県美祿市厚狭川の桜



山口県美祿 厚狭川の桜 美祿のYさんから 懐かしい写真を送っていただきました 2007.4.5.



「前に紹介してもらった金子みすずの街 長門市仙崎へ行ってきたよ。」

金子みすずの詩の札が家々の軒先に下げられていて、それを眺めながら ゆっくり歩いてざごく 良かったよ」

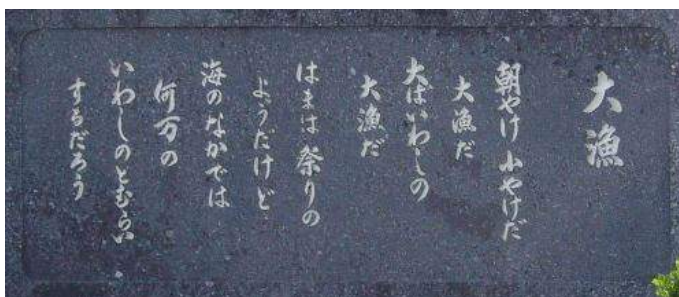
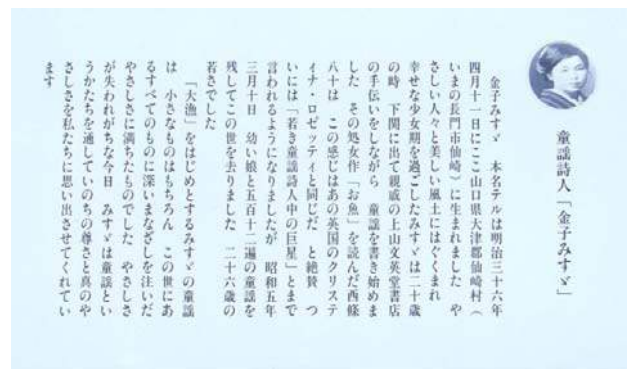
高校時代の友からそんな話を聞いて、金子みすずの詩とともに、街もそんなにかわったのか・・・と。

6月9日 山口県美祿でくつろいでいて、ふっと友達の言葉を思い出して、半日ぶらぶら仙崎の町を歩きました。

金子みすず

1903年 山口県の日本海側の漁港 仙崎(今の長門市仙崎)生まれ。 大正末期、すぐれた作品を発表し、西條八十に『若き童謡詩人の巨星』とまで称賛されながら、昭和5年(1930年)26歳の若さで自らの命を断つ。没後その作品は散逸し、幻の童謡詩人と語り継がれるばかりとなったが、童謡詩人・矢崎節夫さんの長年の努力により遺稿集が見つかり、金子みすずの詩が没後50年をして、世に出ることとなった。

花や鳥・魚などみじかな自然に向けられた暖かいまなざしとよわきものへのいたわりなどその優しさに貫かれた素朴な言葉で語りかける数々の詩句が多くの人々の心をうち、金子みすずブームを巻き起こし、小学校の教科書にも採用されている。



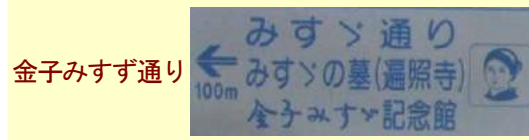
長門市駅から一駅だけの盲腸線が海まで伸びていて、終点が仙崎。仙崎のすぐ向かいには青海島があって、この青海島が外海の荒波をふせぎ、内側に仙崎湾が広がる良港を作り、日本海側有数の漁港・漁師町であり、また、かつては鯨漁のさかんだったところである。 また、青海島の外海側は日本海の荒波に海岸がけづられ、紺碧の海に絶壁・奇岩が続く景勝の地で、仙崎は青海島への観光基地でもある。

私をはじめ 仙崎を訪れた数十年前は仙崎駅から港へ通じる道は人でごった返していた記憶がある。しかし、今はそんなにぎわいも遠のき、静かな漁師町である。

私が美祢にいた頃を含め、この20年金子みすずの詩が世に出て、その暖かいまなざしの詩に 全国で金子みすずブームが静かに浸透。一人ぼっちの寂しさに耐えながらも 高ぶることなく静かに語りかける言葉の数々の中に、私も気持ちを通わせ何冊か買って持っています。また、その後 仙崎の駅にみすず資料館ができたり、映画やTV ドラマなどが作られたりして、それらも見ましたが、仙崎の街中を意識したことなく、友達にいわれるまで、仙崎の町が 金子みすずの暖かさが感じられる街に変わっているなどまったく 気がつきませんでした。

金子みすずが仙崎で少女時代を送った頃は随分にぎわっていた頃である。金子みすずが生まれ、育ったのは仙崎駅から港へ通じる本通りで、両側には商店が立ち並び、仙崎で一番にぎやかな通りであったが、青海大橋が開通し、長門から仙崎の港そして大三島へ広い自動車道が海岸沿いに通じ、港のにぎわいも消え、商店が立ち並ぶ本通も人通りがだんだんなくなってしまいました。

私のいた美祢からは車で20分足らず、魚が食べなくなったり、青海島へ休日出かけたりした頃には生気のない随分さびれたなあ…というのが私の印象でした。



仙崎駅から港への本通の商店通りが 「金子みすず通り」と名づけられ、街の人たちによって金子みすずの暖かさを感じられる町に変わっていました。
 通りの家々の軒先には 金子みすずの詩がつづられた手書きの札がつるされ、また、中ほどにある生家の場所に立派な金子みすず記念館が建てられ、静かな雰囲気の中で、みすずの詩を刻めるようになっていました。



金子みすず通り 通りの中心部に 金子みすず記念館がある 2007. 6. 9.



仙崎のみすず通り 家々の軒先には金子みすずの詩を書いた手書きの札がつるされていました



家々の軒先に吊るされた金子みすずの詩 金子みすず記念館 2007. 6. 9.

仙崎駅から海岸までの数百メートル 観光地のけばけばしさもなく、これといったものもないのですが、海からの潮風を感じながら 軒先につるされた金子みすずの素朴な詩のひとつひとつに浸りながらのWalk。金子みすずの好きな人にはたまらないでしょう。 関東の足尾の山の自然の中に星野富弘さんの美術館があるのですが、そこへ行った時と同じゆったりした気分を感じました。 街の通がそのまま手作りの金子みすず館と言ったところで、歩く通りのここかしこで 「金子みすず」のまなざしに見られているよう。 久しぶりに「金子みすず」に出会って 爽快な気分 老いの寂しさもひきうけてくれそうな「みすずの詩」にゆったりした気分になりました。

金子みすず記念館には 金子みすずの詩にいろいろな人が絵をつけた色紙や絵がいくつも壁にかけて展示されている。 以前「童画」「美人画」の中島潔さんの 「中島潔が描く金子みすず」展を見てすごく感動したことがある。 金子みすず館には中島潔さんの描く「金子みすずの詩の世界」の作品が一点もなく、是非とも 中島潔が描く金子みすずの世界もくわえてほしいなあ・・・と。

記念館の人によると同じ事を言われる人が時たまあると聞きました。 是非そうしてほしいものです。 この通りをぶらぶら抜けると青海大橋のすぐ横にでて、青海島を見ながら海岸沿いをもどると仙崎漁港。 こちらは長門観光の目玉・青海島への観光船が出る観光スポットで、この港の一角にも金子みすずの代表作「大漁」の詩碑がある 青海島のウリは紺碧の海の色と断崖絶壁の続く荒々しい外海海岸の岩めぐり。最終便がちょうど出るというので、こちらもう久しぶり。 波が荒くて 途中までしか 近づけませんでした。 グラスで覆われた船に容赦なく波しぶきが当たり、豪快な青海島の岩と海の色を楽しみました。

ひさしぶりに海を見ながら長門・仙崎のwalk 手作りの金子みすずの詩の札が街の通りを見守っている。 友達に教えてもらうまで、こんなにゆったりすごせる街になっているなんて知りませんでした。 熟年者の鈍行の旅にはお勧めです。

また もう よくご存知だと思いますが、金子みすずの詩も是非 お勧め。 ぶらぶら 仙崎の港から長門の町まで帰ってくるともう 夕暮れ 次の汽車まで 30分 駅のホームに座って 美祢への列車を待地ながら

2007. 6. 9. Mutsu Nakanishi



夏田詩人 金子みすずの街 長門 仙崎 2007. 6. 12. みすず通りには 家々の軒先に手作りの金子みすずの詩が掲げられている 薄ら香く乳鉢色のいい街である



長門 青海島 2007. 6. 9.



私と小鳥と鈴と
私が両手をひろげても、
お空はちつとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のやうに、
地面を速くは走れない。
私からだをゆすつても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のやうに、
たくさんな唄は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがつて、みんないい。





山口県防府市の山裾 牟礼上坂本に紫陽花で有名な阿弥陀寺があり、今頃 紫陽花が一番きれいなときと聞く
約 80 種 4000 株にもものぼる山あじさい・ガクあじさい・西洋あじさいなどが境内に植えられているという
紫陽花の名所は色々ありますが、淡い緑につつまれた境内の池や山の斜面いっぱいに 数々の紫陽花が咲いていました
いろんな種類の花に家内は名前を確かめ、目を輝かしていました。
梅雨時の雨あがり やっぱり この時期 一番美しい花 この花が咲くと夏まじかです
2007. 6. 12. 山口を後に神戸へ帰る途中で
Mutsu Nakanishi



防府 東大寺周防別院 阿弥陀寺の紫陽花 2007. 6. 12.



山口県 油谷半島 棚田の夕景

油谷半島 東後畑の棚田 6月

山口県の日本海に突き出た油谷半島

眼下に棚田が広がり、赤く染まった日本海に夕日が沈み、暗くなると漁火が朧らばる

時間と共に移り変わる素晴らしい景勝地 棚田に水が入る6月は特に素晴らしく、最近によく知られる場所になりました。

それでも静かに海の移り行くページェントを眺められる素晴らしい場所 私の好きな場所のひとつです

「今年はよう見ないなあ」と思っていたのですが、美祿のYさんから 素晴らしいこの海のページェントを送っていただきました。 アルバムにファイルしたくて 皆さんにも送ります。

2007.7.10. Mutsu Nakanishi



長門/仙崎の金子みすずの里から、ちよと 足を延ばせば頂ければ油谷湾。そこには棚田と沈む夕日がきれいに撮れるとっておきのカメラ アングルの場所があります。その写真を送付致します。楽しんで下さい。

又 山口におこの際は、是非 足を延ばして頂き

自らの目でお確かめ下さい。

2007.7.11. 美祿 Yより





山口県 油谷半島 東後田の棚田の夕景

